

令和2年度

文部科学省委託事業「ユネスコ未来共創プラットフォーム事業」  
ユネスコスクールオンライン近畿地方大会報告書



2021年2月

近畿ESDコンソーシアム  
国立大学法人 奈良教育大学

## ごあいさつ

2020年はコロナで始まり、これまでの「当たり前」が通用しない一年でした。中止となる企画が続出する中、ユネスコスクールオンライン近畿地方大会（令和2年度文部科学省委託事業「ユネスコ未来共創プラットフォーム事業」）を開催できたことは、大変、うれしく、また、励まされることのひとつとなりました。工夫に工夫を凝らし、安心安全を確保した上、コロナ禍においても開催できたことは、その内容とともに後世に残る大きな意義があります。

特に、本大会では「近畿ユネスコスクール子ども宣言」の作成を通して、コロナ禍ではあるものの、多くのユネスコスクールの児童生徒の交流を促すことに主眼を置いて取り組みました。コロナ禍で一番難しいと思われていた「交流」がテーマです。先ず、持続可能な社会づくりに関して日ごろから感じている課題や自分の行動について、多くのユネスコスクールの仲間が作文にして送っていただきました。それをもとに本学のユネスコクラブの学生がキーワードを抽出し、オンラインによる話し合いの準備を整えてくれました。そして、11月1日・8日・15日と3回に及ぶ子ども会議の成果として、「近畿ユネスコスクール子ども宣言」が完成しました。コロナの影響で、教室の中での対話は難しくなりましたが、遠隔地の仲間とのICTを用いた交流は、それが身近な普通の姿となりつつあり、これまで以上に個々の多様な考え方にふれやすくなっていることに気づかれたことだと思います。

子どもフォーラムには、奈良市立都祁小学校（奈良）、奈良教育大学附属中学校（奈良）、神戸市立大沢中学校（兵庫）、京都外大西高等学校（京都）、立命館守山高等学校（滋賀）、関西創価高等学校（大阪）、和歌山県立橋本高等学校（和歌山）と、近畿地方各地から、小・中・高等学校による日ごろの取り組み発表があり、コロナ禍でも頑張っている姿に感動しました。そして何よりもうれしかったことは、子どもフォーラムや子ども会議を、本学の学生と大学院生が中心になって担ってくれたことです。本学は大学の三つの柱（大学の特色）のひとつに、「持続可能な社会づくりに貢献できる教員の養成」を掲げ取り組んできましたが、その成果を感じることができました。

学習指導要領にも「持続可能な社会の創り手」の育成が盛り込まれました。近畿地方のユネスコスクールでは、持続可能な社会の創り手が確実に育っているという実感を本報告書で共有していただければ幸いです。参加していただいた児童生徒の皆さん、ご指導いただきました先生方、そして大会を支え、参加して下さったみなさまに深く感謝申し上げます。

2021年2月

奈良教育大学 学長 加藤 久雄

## 目 次

|                                          |       |       |
|------------------------------------------|-------|-------|
| ごあいさつ                                    | ・ ・ ・ | 1     |
| 参加者意見交流会のまとめ                             | ・ ・ ・ | 3     |
| 近畿ユネスコスクール子ども宣言                          | ・ ・ ・ | 4     |
| ユネスコスクールオンライン近畿地方大会（チラシ）                 | ・ ・ ・ | 6     |
| 子どもフォーラム発表要旨                             | ・ ・ ・ | 8     |
| 奈良市立都祁小学校                                |       |       |
| 奈良教育大学附属中学校                              |       |       |
| 神戸市立大沢中学校                                |       |       |
| 京都外大附属西高等学校                              |       |       |
| 立命館守山高等学校                                |       |       |
| 関西創価高等学校                                 |       |       |
| 和歌山県立橋本高等学校                              |       |       |
| 実践交流会：実践発表・研究発表要旨集                       | ・ ・ ・ | 2 2   |
| E S D講演会                                 | ・ ・ ・ | 5 3   |
| 「W i t h コロナ時代のE S D・学校教育」               |       |       |
| 「E S Dの授業づくり」                            |       |       |
| 「ユネスコスクール・S D G s／E S Dの推進 ホールスクールアプローチ」 |       |       |
| ユネスコスクール近畿地方大会を終えて                       | ・ ・ ・ | 1 0 6 |

## 2020 年度ユネスコスクールオンライン近畿地方大会【参加者意見交流会のまとめ】

### ◎ユネスコスクールの現状と課題

#### 1. 現状

- ・ ESD に取り組んでいる学校と取り組んでいない学校の差が大きい。学校としての理解度に疑問。
- ・ 学校として積極的に取り組むかどうかは、管理職の態度に左右される。
- ・ 学校全体で取り組んでいる学校では ESD 担当という校務分掌があり、研修会を開いたり、研修に参加して得た知識や情報を他の教員に伝えたりしている。
- ・ ESD に取り組んでいる教員が限られている。
- ・ 学校の先生はまじめな人が多いためか、クラブや授業を完璧にしようとするため、多忙にまた精神的ゆとりがなくなってしまう、新たに ESD に挑戦してみようという人が少ない。
- ・ 異動がある中で ESD 実践を継続していくのが難しい。

#### 2. 学校のTRANSFORMをどう起こすか

- ・ 学習指導要領の改訂、SDG s、教科書への E S D の記載など、今がチャンスだ。
- ・ ユネスコスクールの意義を学校が考える（再考する）べきである。
- ・ ユネスコスクールに加盟するメリットが見えにくい。可視化する必要がある。
- ・ ESD に関する教員の意識や知識の差が大きく、関心を高め、実践する教員を増やす必要がある。
- ・ N P O には課題を持ち寄ってお互いに学びあい、考えあい、共有していく場とコーディネーターが必要だ。学校には地域の N P O をつなぐ役割があるのではないか。
- ・ 地域で実践を発信すると、地域がどんなかかわり方をすればよいのかが見えてくる。もっと発信してほしい。
- ・ 中学・高校で教科の学びをつなぐのは難しいが重要である。カリキュラム・マネジメントが重要だ。

#### 3. 連携・交流について

- ・ 小中高の一貫性を見ていく必要があるが、実際には難しい。
- ・ 小中の連携は比較的とりやすいが、高校は地域性が薄れてくるため、連携が難しい。
- ・ 学校が閉鎖的である。実社会（企業）とのつながりに目を向けてほしい。学校での学びを地域の方に発信していく。学校の役割を 180 度転換し、学校は地域のために何ができるかを考えるべきだろう。
- ・ コロナ禍においては、ネットワークを使った交流はやりやすくなっている。交流をしようという気持ちのある教員が限られている。研究会など様々な機会に自分から出向いて相手を探してほしい。
- ・ 異なる視点・立場の方々と交流することが大切だ。
- ・ ユネスコスクールと地域のユネスコ協会がつながっていない。

#### 4. その他

- ・ コロナ禍においては、行動化は難しい面がある。
- ・ 評価について、学びの後に活動の場があれば、そこでの行動を評価できるのではないか。
- ・ 町自体が S D G s への関心が低い。



# 近畿ユネスコスクール子ども宣言

2020年11月15日

今、私たちが暮らすこの地球は、国や人の対立・格差、生物多様性の損失、気候変動、自然災害の増加、感染症の流行など、様々な課題を抱えています。ユネスコスクールで学ぶ私たちは、これからの社会を担う者として、これらの課題について学びを深めてきました。2015年の国連持続可能な開発サミットでSDGs(持続可能な開発目標)が採択されてから5年が経ち、テレビや新聞、街中でもよくSDGsのロゴを見かけるようになりました。まさに今、SDGsの達成、持続可能な社会の実現に向けて、ユネスコスクールでの学びの成果が問われています。2020年11月、近畿地方各地の小学校から大学までのユネスコスクールで学ぶ仲間99人がオンラインで集い、近畿地方各地のユネスコスクールから集まった337枚の作文等をもとに、自分たちの学校・地域・世界が抱える課題、関心のある課題を共有し合い、課題の解決に向けてユネスコスクールの私たちにできることを話し合いました。

私たちは、持続可能な社会づくり、SDGsの達成を目指して、次の5つのことを宣言します。

## 1. 《多様性》

私たちはジェンダー、人種、地域、文化、職業などの違いを認め合いましょう。また、生物多様性を大切にしましょう。

## 2. 《価値観》

私たちは自分自身の考え方・捉え方を見直し、未来のために、今できることを考えましょう。

## 3. 《自分ごと化》

私たちは貧困、飢餓、人権、環境、紛争などの地球的な課題を深く理解し、自分ができることを考え、解決するために行動しましょう。

## 4. 《つながり》

私たちは一人一人の話し合いから始めて、ユネスコスクールの輪をみんなに広げていきましょう。

## 5. 《決意》

私たちは誰一人取り残さず、地球に住む全ての仲間とともに協力し、平和で幸せに暮らせる地球をつくりまします。課題の解決は一人では出来ません。私たちは仲間をつくり、仲間を広げ、仲間とともに行動します。

## 奈良教育大学附属中学校

終業式の際に、「ユネスコスクールオンライン近畿地方大会」に参加した生徒からの報告  
(1-1 布谷、1-3 本梅、1-4 高田、3-1 西野、3-2 古賀)

(高田)

僕たち5名は11月8日と15日、2日間にわたって「ユネスコスクールオンライン近畿地方大会」に参加しましたので、その報告をさせていただきます。

11月8日は、関西創価高校と奈良教育大学ユネスコクラブの方々と、学校・地域・世界について課題だと思っていることを出し合いました。

そして、11月15日には、近畿内のユネスコスクールに通う小学生から高校生までの作文なども参考にしながら、「近畿ユネスコスクール子ども宣言」をまとめました。

僕たちは話し合いを進めていくなかで、環境・人権・平和といったSDGsのゴールに向けて、

「知る機会」を自分たちの力で、どうつくるか。」

「どのように行動化を促していくか。」

が問題であることに気づきました。

オンラインでの交流でしたが、小学生から大学生まで、自分の学校以外の人と意見交流ができて、とても刺激を受けました。

今回、参加できなかった附中生の皆さんにも、宣言文を読んでいただいて、共に考えてもらえればと思います、本日、終業式の中で紹介させていただきます。

お手もとの「近畿ユネスコスクール子ども宣言」を見てください。

(布谷、西野、古賀)「近畿ユネスコスクール子ども宣言」を読む。

(本梅)

附中では、1・2年生合同の奈良めぐりや、3年生の卒業研究、そしてESDの授業などがあり、普段からESDやSDGsについて考える機会が多くあります。

世界のことを考えると、遠いことだとか、自分には関係のないことだと思っている人も多いと思いますが、わたしたち1人1人が行動していかないと、実現できないことなので、遠いというよりも、意外と近いかもしれません。

まずは、関心を持って、知ることから始め、自分でもできる小さなことからでも、見つけていくことが大切だと思いました。

これで、私たちの報告を終わります。ありがとうございました。

# ユネスコスクール オンライン近畿地方大会

主 催：文部科学省 日本ユネスコ国内委員会 奈良教育大学 近畿ESDコンソーシアム  
共 催：日本ESD学会 第4回 近畿地方研究会実行委員会  
後 援：ESD活動支援センター 近畿地方ESD活動支援センター

プレ大会：11月1日（日）・8日（日） 10時00分～16時30分

本大会：11月15日（日） 9時30分～16時30分

すべてZoomを使用します。  
参加無料！

お申込みは  
こちらから→



ユネスコスクール間の児童生徒の交流による取り組み意欲の向上と、授業実践の相互参照による質的向上を図るとともに、次世代の担い手である児童生徒による「近畿ユネスコスクール子ども宣言」の作成と、実践者による「ユネスコスクールの現状と課題の整理」を作成し、ユネスコスクール全国大会に提供することで、全国大会の成功に資することを目的として開催します。みなさんといっしょに学び合ひましょう。

| 内容       |             | 11月1日(日)                                        | 11月8日(日)                              |
|----------|-------------|-------------------------------------------------|---------------------------------------|
|          |             | ユネスコスクール近畿地方大会プレ大会Ⅰ                             | ユネスコスクール近畿地方大会プレ大会Ⅱ                   |
| 子ども宣言作成  | 10:00～12:00 | ESD子ども会議Ⅰ                                       | ESD子ども会議Ⅱ                             |
| 実践交流会    | 13:00～14:30 | 実践交流会Ⅰ・ESD研究会Ⅰ                                  | 実践交流会Ⅱ                                |
| 現状と課題の整理 | 14:30～15:30 | 参加者意見交流会Ⅰ                                       | 参加者意見交流会Ⅱ                             |
| ESD講演会   | 15:30～16:30 | 「Withコロナ時代のESD・学校教育」<br>元江東区立八名川小学校長<br>手島 利夫 氏 | 「ESDの授業づくり」<br>奈良教育大学特任准教授<br>大西 浩明 氏 |



| 11月15日(日)                                                    |                                   |
|--------------------------------------------------------------|-----------------------------------|
| ユネスコスクール近畿地方大会                                               |                                   |
| 指導・助言<br>文部科学省 国際統括官付 国際戦略企画官<br>日本ユネスコ国内委員会事務局次長<br>石田 善顕 氏 |                                   |
| 9:30～11:00                                                   | ユネスコスクール子どもフォーラム                  |
| 11:00～12:30                                                  | 子ども宣言の作成                          |
| 13:00～14:30                                                  | 実践交流会Ⅲ・ESD研究会Ⅱ                    |
| 14:30～15:30                                                  | 参加者意見交流会Ⅲ                         |
| 15:30～16:30                                                  | 「ホールスクールアプローチ」<br>大牟田市教育長 安田 昌則 氏 |

○ ユネスコスクール子どもフォーラム  
各校における取り組みをまとめた動画を視聴し、参加した児童生徒が意見を交換します。

○ 子ども宣言作成  
プレ大会の子ども会議で明らかになった現状や課題をもとに、持続可能な社会のために今後どのように行動していくかについて「子ども宣言」を作成します。

○ 実践交流会・ESD研究会  
3つの分科会に分かれて、3日間で計24本の実践・研究発表があります。

○ 参加者意見交流会  
実践交流会・ESD研究会の分科会ごとに、参加者相互でユネスコスクールの現状と課題について話し合います。

○ ESD講演会  
ESDについて最新のお話をうかがえます。



## ユネスコスクール子どもフォーラム参加校

奈良市立都祁小学校（奈良）  
神戸市立大沢中学校（兵庫）  
立命館守山高等学校（滋賀）  
和歌山県立橋本高等学校（和歌山）

奈良教育大学附属中学校（奈良）  
京都外大西高等学校（京都）  
関西創価高等学校（大阪）



奈良教育大学  
なっきょん

### 実践発表者

|               | 時間                     | 第1分科会                                                                      | 第2分科会                                                                | ESD研究会                                                                                       |
|---------------|------------------------|----------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 11月1日<br>(日)  | 1) 13:00<br>～<br>13:30 | 地域文化を探究する学習<br>小学校3学年総合的な学習の時間<br>ー「金魚のまち大和郡山」を事例にー<br>大牟田市立吉野小学校<br>島 俊彦  | 学校と森と水の源流と近畿ESDコンソーシアムのプラットフォームでつくるESD遠足の<br>実践<br>奈良市立平城小学校<br>新宮 清 | 地域資源を活用した学びの実現に向けて<br>～学校と地域が連携する有効性～<br>近畿環境パートナーシップオフィス<br>中澤 敦子                           |
|               | 2) 13:30<br>～<br>14:00 | ともに学ぶ 応其小学校 ～大好きな学校・地域にMINTの風を吹かそう！～<br>橋本市立応其小学校<br>辻脇 昌義                 | 水から(自ら)広げる豊かな学び<br>箕面こどもの森学園<br>(NPO法人コクレオの森)<br>佐野 純                | コロナ禍における奈良ユネスコ協会青年部の取組<br>奈良ユネスコ協会<br>松浦 慎                                                   |
|               | 3) 14:00<br>～<br>14:30 | 大沢中学校の取組<br>神戸市立大沢中学校<br>小畑 幸一                                             | 平和学習 奈良に帰ってきた三角定規<br>ーまみいちPEACEプロジェクトー<br>広陵町立真美ヶ丘第一小学校<br>藏前 拓也     | フィリピン残留日本人を通してSDGs16を考える<br>奈良教育大学<br>太田 満                                                   |
| 11月8日<br>(日)  | 1) 13:00<br>～<br>13:30 | パラスポーツって何だろう<br>奈良市立飛鳥小学校<br>圓山 裕史                                         | これは使える！ フォトチャット<br>奈良教育大学附属幼稚園<br>鎌田 大雅                              |                                                                                              |
|               | 2) 13:30<br>～<br>14:00 | 学校統合に関わる課題について<br>～ユネスコスクールの継続に向けて～<br>大阪市立御幸森小学校<br>高尾 祐彦                 | ESDの視点を取り入れた、思考力・判断力・表現力を高める授業の創造<br>名張市立蔵持小学校<br>森 恭一               |                                                                                              |
|               | 3) 14:00<br>～<br>14:30 | 高時のオオサンショウウオを守るために<br>ー ESDの視点をふまえた学習指導 ー<br>長浜市立高時小学校<br>足立 康輔            | 大阪市立晴明丘小学校自然観察学習園での活動<br>エリーニ・ユネスコ協会<br>富澤 裕美子                       |                                                                                              |
| 11月15日<br>(日) | 1) 13:00<br>～<br>13:30 | 生物多様性について考えよう<br>～小学校2年生生活科「どうぶつはかせになろう」の実践より～<br>平群町立平群北小学校<br>中澤 哲也      | 探究活動促進のための教員データベース作成<br>ー立命館守山高校 共創探究科の実践ー<br>立命館守山高等学校<br>水谷 深志     | ESD for 2030にもとづいたESD・SDGsワークショップとコーチング<br>ーネットを使った社会人向け実践報告ー<br>地域連携プラットフォーム/ESD-J<br>長岡 素彦 |
|               | 2) 13:30<br>～<br>14:00 | 春日山をシカが喰う～鹿害から春日山を考えるESD実践<br>奈良教育大学附属中学校<br>山本 浩大                         | 関西創価高校の世界市民教育<br>関西創価高等学校<br>大月 昇                                    | 使命感と成就感を大切に国語科×総合の教材開発<br>橋本市立あやの台小学校<br>中谷 栄作                                               |
|               | 3) 14:00<br>～<br>14:30 | コロナ禍における災害復興支援の可能性<br>ーネズコスクールの繋がり活かしー<br>奈良教育大学ユネスコクラブ<br>狗飼菜々子、谷垣徹、佐藤ころも | ユネスコスクールにおける地域連携教育とSDGsについて<br>和歌山県立橋本高等学校<br>中嶋 浩晶                  | 概念変化に伴う価値観の変容<br>大分大学<br>河野 晋也                                                               |

- ユネスコスクール以外の方や一般の方でも参加できます。1日のみ、半日のみでも構いません。
- お申し込みは、下記QRコード、または、下記近畿ESDコンソーシアムのホームページの申込フォームからお願いします。

<https://kinkiesd.xsrv.jp/>



- 申込みいただいた方に、Zoomに参加するURL・ミーティングID・パスワードをお知らせします。

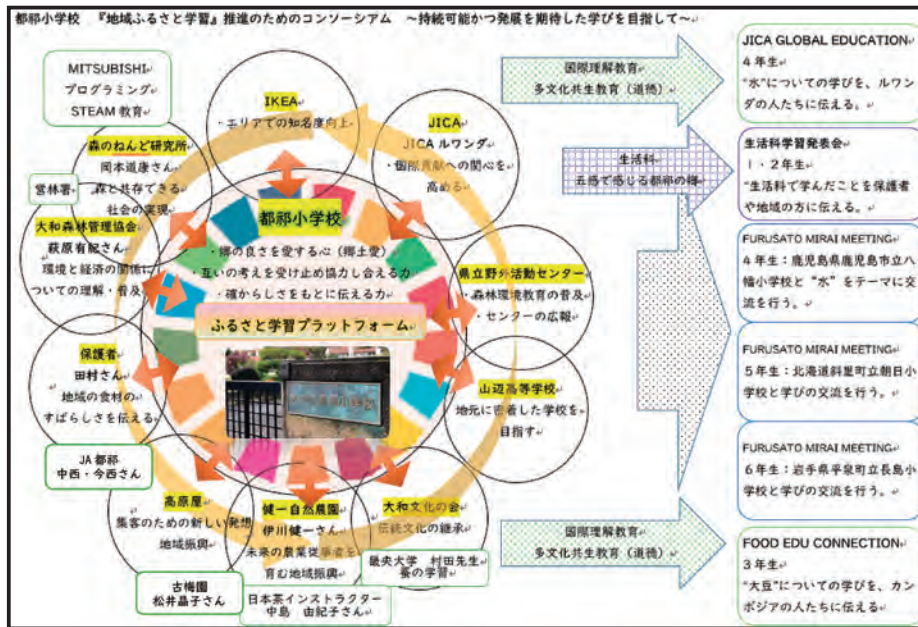
お問い合わせ：奈良教育大学教育研究支援課 ESD事務担当 藤原・西田 Tel：0742(27)9367 Mail：k-soumu@nara-edu.ac.jp

# 奈良市立都祁小学校発表要旨

## 【素敵いっぱい都祁の郷】

地域のある宝物はそこに生まれ育った子どもにとっては当たり前すぎて見えていない。視点を変えることで見えてくる「都祁の郷の宝物」。まず、教師自らが積極的に外の人たちとの打ち合わせを重ね、学びのプラットフォームを形成し、学びの方向性をそろえる。

図1. 都祁小学校「地域ふるさと学習」推進のためのコンソーシアム



## 第4学年の総合的な学習の時間 「都祁であそぼ」

遊びとは子どもが集中するものである。夢中になって取り組むものであることから、都祁の郷に関する疑問を見出させ、その答えを夢中になって探究する学びを創造する。

都祁の郷の宝物のひとつである「水」に焦点をあてた取り組みを開始する。

### (1) 都祁水分神社（農耕神として、大和川、木津川の水源の神として祀られている）訪問

本殿は室町時代に造られた檜皮葺の社殿で国の重要文化財に指定されている。そのような都祁の人たちにとって、昔から大切にされてきた有名な神社でも、机上で学ぶだけでは単なる「知識」に過ぎない。まずはその場に足を運んで、五感で感じることを大切にする。

水分神社を訪問したことで子どもたちの「水」への関心を高める。

子どもにとって水は当たり前にあるもので、関心をもつのが難しい。そこで、源流の水と水道の水の飲み比べをする。「源流の水の方がおいしい」ような気がする。

源流の水の方が冷たい。匂いがまったくない。透明、透き通ってる。

その理由を考える。

- ・都祁は森が多いから、きれいな水が出てくるのでは。
- ・都祁の水は水分神社に守られているから特別なのでは。

→昔から森を大切にしていたからいい水が出る。



この段階では「感覚」に過ぎないため、科学的な実験を行って確かめる。

- ①水源地で水の温度を測る。 12～14度だった。これは美味しい水の温度だ。
- ②学研のキットを使用し、水源地の水と販売されている日本のミネラルウォーターと外国のミネラルウォーター、水道水の4つを比較する。

都祁の水源地の水は、残留塩素が0だった。

PHは6.5で若干酸性だった。



- ◎水をテーマに世界遺産学習全国サミットで知り合った屋久島町立八幡小学校とZOOMを用いて交流する。

互いの町で大切にしているものを紹介しあうことで、あらためて都祁の水の大切さを実感する。

## (2) 世界の水事情を学ぶ

JICAと連携し、ルワンダ共和国で活動する水の専門家とZOOMを用いて、ルワンダの水使用の現状を聞き取る。

- ・都市部と地方では水使用の条件が異なっている。
- ・自分たちと同じくらいの子どもたちが水汲みを行っている。
- ・家に水道がなく、水売りから水を買っている。
- ・掃除に使う水などは、雨水をためて使っている。
  - 水が原因で数多くの争いが発生していることを知る。
  - 平和のために自分たちにできることを考える。

## (3) 都祁の水とルワンダの平和（水争いのない）をつなげて考える。

「都祁の郷の水源地の水で、地域の方にお茶を売り、その利益をルワンダに送ろう」

- ①地域で大和茶を栽培する方と出会い、その思いに触れる。「お茶を通してみんなを幸せにしたい。」その思いを大切にするために、都祁の水に合う茶葉の選定に挑戦する。  
参観日に「都祁ティーカフェ」を開き、地域の方に販売し、利益をルワンダの平和に役立ててもらえるよう、JICAを通じて送る。そして、ルワンダの子どもに「平和」についてのイメージをたずねる。

- ・安全であること
- ・幸せであること
- ・みんなで分け合うこと
- ・みんなと協力すること
- ・笑顔でいること
- ・友達

- 当たり前すぎて考えたこともなかった【平和】について考え、自分たちにできることを考えるきっかけに。

# 奈良教育大学附属中学校発表要旨

「E S Dの教科化を目指して ～4. 質の高い教育をみんなに～」

発表者：奈良教育大学附属中学校 3年 西野 心咲

## 【発表要旨】

私が世界で一番大切だと思っているもの、それは教育です。

私がSDGsの中で特に重要だと思っているものも、4つ目の「質の高い教育をみんなに」です。「2030年までにすべての人々が平等に適切かつ効果的な教育を受けられるようにする。」ということで、なぜ、教育が一番重要だと思うかという、これは、人の考えや気持ちを大きく左右させるものだからです。一生にわたり関わっているものなので、人の価値観を大きく変えます。

次に、私たちが生きる現代社会についてです。地球温暖化、生態系の危機、自然災害、原子力・核・放射能、紛争など、多くの問題がある一方で、科学の進歩、女性の社会進出、医療の発展など、いろいろなことが進化し続けている。つまり、良くもあり、悪くもある社会に住んでいます。

私たちはこのような世界で、日本で、学校で、もっと絞るなら家族の一員として、何をしなければならぬのか。未来を創る一人として、何を知らないといけないのでしょうか。

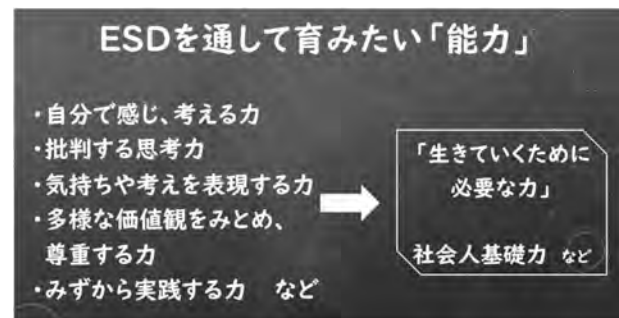
E S Dを通して育みたい能力の中には、気持ちや考えを表現する力、みずから実践する力というものがあります。これらは特に学生が大きくなるにつれ、苦手になってくるものだと思います。しかしこれらを含めた力は「生きていくために必要な力」だと思います。

今回の私のテーマでもありますが、なぜE S Dを教科化したほうがいいと思うのか。それは、E S Dを通すことで、先ほどの生きるために必要な力を育めるし、地球上に生きる「人間」という一種の生物として知っておかなければならないもの、また、一人の人間として知っておくべきものが学べるのではないか、と思うからです。しかし、卒業研究でのアンケートでは多くの人がそもそもE S Dというものを知らない、聞いたことがないと答えました。

人、教わること、教わる環境、過ごす環境によって、考えや価値観や知識は変わってきます。話し合いの必要な状況で、自分の考えを、考えも価値観も違う相手が理解できるように伝えなければなりません。そのためには、まずこれを多くの人に知ってもらわないと意味がないと思いました。

私の学校では1・2年生は2週間に1回E S Dの授業があります。そこで習ってきたものが右に示したようなことです。生きていく上で欠かせないものについて深く学んできました。

また、別の例として、1945年の原子爆弾。小学校での広島修学旅行では、落とされた日本側の考えしか習いませんでした。一方、中学校の長崎修学旅行では、落とされたほうのアメリカの「これ以上人々が死なな

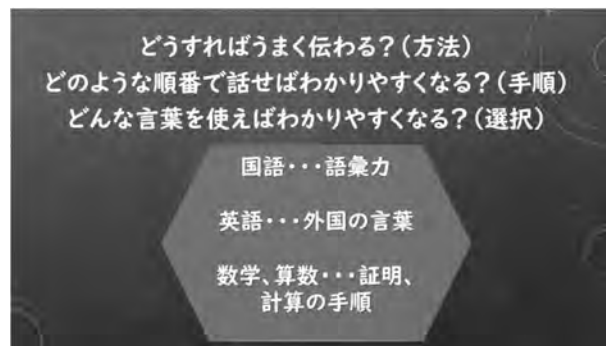


|            |           |
|------------|-----------|
| ☆食文化を受け継ぐ  | ☆住まいの役割   |
| 大豆の加工品について | ・人権にかかわって |
| ・きな粉、ゆばづくり | ・よい住まいとは  |
| 牛乳の加工品について | ☆防災について   |
| ・バターづくり    | ☆地球のエネルギー |
|            | ☆発電と消費    |

いようにできた」という意見を知りました。アメリカの意見に対して、日本は落とされたほうなので原子爆弾を落としたことを肯定するようなその言い方がわからない。もちろんアメリカの人も原子爆弾はだめだと知っている。原子爆弾が落ちた太平洋戦争は日本が始めたこと。日本は、被害者でもあり加害者でもあることを基にE S Dを意識しながら平和学習を深めていきました。

生まれたところも違う、言語も違う、考え方も違う、そんな状態で相手に伝わるように話さなければならぬ。なら、どうすればうまく伝わる？どのような順番で話せばわかりやすくなる？どんな言葉を使えばわかりやすくなる？

これらの問題は、国語での語彙力。英語での外国の言葉。数学、算数での証明や、計算の手順を学んだことが生かされてくるのではないかと思います。ほかに



も理科・社会・音楽など、教科化されているものは生きるために必要な力を育む教育をしています。私たちは学んでいることが将来何の役に立つのかわからないとよく言いますが、日ごろから、無意識のうちに「勉強」というもので得たことを活用しているのだと思います。私は卒業研究でE S Dカレンダーというものを作って、このことに気づきました。

結論として、質の高い教育は必要であるが、それに気づいていない人が世の中にはたくさんいます。また、未来のことだけでなく、今のことも考える持続可能な社会を意識するE S DやS D G sも必要で、まずそれを多くの人に伝えるべきだ、ということです。

世界中の人々がしっかりした教育を受けられるようにするため、世界中の人々が恐れることなく幸せに生きるため、いまだに誰も見たことがない世界、定義のわからないものだけど、きっときれいで素晴らしいだろう平和な世界にするため、ほかの国がしているから、日本もやってみよう。ではなく、日本から、私たちから始めて世界へ発信していかなければ、口で言っているだけで何も始まらないと思います。そのためにはE S Dを国語などと同じように教科化すべきだと思います。ご清聴ありがとうございました。

#### 【質疑応答】

Q) 教科化しようとするなら、新たにお金や建物が必要になるのでは？(小学生からの質問)

A) 世界中の人々がE S DやS D G sに関心を持ってもらえたら、寄付が集まると思います。(西野)

Q) E S Dをどうやって広めていけばよいのか？(高校生からの質問)

A) ニュースなどでE S DやS D G sをとりあげたりしたり、各学校で周知してもらおうと、より多くの人に知ってもらえると思います。(西野)

#### 【講評】(財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU) 柴尾 智子様)

西野さんの発表は個人の発表でしたが、驚いたことは、こんなに若いのに、今、自分が受けている教育が、どういうことで、それに、どんなインパクトがあるのかを、俯瞰(ふかん)しながら教育を受けているということです。この学校にはこんな生徒が在籍しているということは、そこで行われている教育ってどんな教育なのかと、関心を持ちました。

いわゆる「メタ認知」ができているということに驚きました。

# 神戸市立大沢中学校 発表要旨 「大沢を守ろう」

## ■学校について

神戸市立大沢中学校は、神戸市北区田園地帯にある小さな学校。幼稚園、小学校、中学校、児童館が同じ敷地にある。学校活動に対する地域からの支援を受けながら活動している。

## ■大沢中学校の取組

### ○農業体験

きゅうりのコンパニオンプランツ栽培やさつまいもの栽培を実施。収穫や食べる体験などを通じて、自分たちで作った野菜の美味しさや、食べ物大切さを学んだ。また、地域で栽培が盛んな観賞用の菊作りを、地域の児童館の先生に教わり、挿木による菊栽培を体験した。  
また、花壇でひまわりを育て、「みんなのひまわりハートプロジェクト\*」に応募した。

#### \*ひまわりハートプロジェクト

「“みんな”のひまわり Heart! Project」は、兵庫県内の大学生らで組織する「117KOBEBかうさい委員会」(事務局・神戸新聞社)が主催するプロジェクト。収穫したひまわりの種をあつめ、“食用ひまわり油”として販売し、その収益とプロジェクト協賛金の一部を熊本地震などの被災地へ寄付している。

### ○里山保全活動

校区にある「神付・産土の森」で行われている里山再生・保全の取り組みに参加。森を元気にする話を聞いたり、木や竹を伐る活動に参加。身近な環境を守ることによって災害を防ぐことにもつなげていきたいと考えている。

### ○魚のさばき方教室

明石の漁業協同組合の方から、魚のさばき方や焼き方を学んだ。新鮮な鰯を塩焼きにして食べ、命のありがたさを学んだ。

### ○平和学習

平和学習として、戦没者の遺族から話を伺った。遺品などを見せてもらいながら話を聞き、戦争を起こしてはならないと思った。



### ○保育実習

児童館で幼児を対象のクリスマス会をおこなった。小さな子どもたちとの関わり方や話し方を学んだ。皆が喜んでいて嬉しかった。

### ○SDGsを知る

SDGsのことを全校生徒に知ってもらうため、自分たちで調べて発表を行った。発表は緊張したが、理解してもらえた時には達成感があった。

### ○「トライやる・アクション」

9月に2日間の日程で、地域の防災について学んだ。初日は、「防災の基本」と「水害」について講義を受けた後、地域の災害ポイントについて、<sup>おおぞう</sup>大沢町防災コミュニティの方にも参加してもらい事前学習を実施した。

2日目は、地域の四つのエリアに分かれてフィールドワークを実施。災害発生の現場やハザードマップに載っていない危険箇所や地域で行っている対策等について学んだ。災害の発生を完全に抑えることは不可能であり、災害と共存するという考え方も知った。災害を身近に考える機会となった。

最後に「トライやる・アクション」で学んだことを各班で整理しまとめた上で発表会を実施した。限られた時間でまとめる必要があるため、協力して実施した。互いの発表を聞き合う中で、災害への意識や、災害からの復興に多くの資金が必要になることを学んだ。

### ○「<sup>おおぞう</sup>大沢を守ろう」の発行

「トライやる・アクション」で学び、災害への意識啓発が必要であると感じたので、各班で学んだことを「<sup>おおぞう</sup>大沢を守ろう」にまとめて発行した。

### ○今後の活動「地域の方々と交流をもとう」

「地域の方々と交流をもとう」をテーマに、次の活動に取り組んでいきたいと考えている。

・ボランティア活動に積極的に取り組む

（農作業：田植え、清掃：草刈り）

・<sup>おおぞう</sup>大沢めぐりのツアーをつくる！

（収穫体験・BBQ）

・地域の人とふれあう（児童館と老人会）

・アライグマの被害削減大作戦

地域のために、地球のために取り組みたい。

# 京都外大西高等学校発表要旨 ユネスコスクールの活動

## ■学校について

京都外大西高等学校は、京都外国大学に併設する共学の高校。

建学精神は「PAX MUNDI PER LIGUAS -言語を通して世界の平和を-」

## ■国際文化コースについて

1989年に創設され、現在9人のネイティブの教師による内容重視のテーマ学習と部分的英語イマージョンを取り入れている。最近のカリキュラムでは、SDGsに関連して貧困、性別、環境、文化理解などを中心に学習している。

## ■京都外大西高等学校の取組

### 1. 関西模擬国連大会

関西模擬国連大会は、京都外大西高等学校を中心に京都国際会館で3日間に亘って開催される英語のイベント。京都、奈良、大阪、岡山、計12の高校から250名以上の生徒が、学校のカリキュラムとしてまたクラブ活動の一環として参加している。生徒は、約4人ずつで国を代表し、国連の総会、各委員会、安全保障理事会の諸活動をシミュレーションする。参加する生徒は国連加盟国の代表の役も演じる。代表している国の立場や政策目標を設定できるようになるために、務める国の歴史・文化・外交政策などを調査・研究し、プレゼンテーション、討論、交渉を通して問題解決を目指す。2020年は、廃棄物の社会的影響をテーマにオンラインで開催した。

#### ○模擬国連大会に向けた学校での取組

クラス内では、模擬国連に向けて週に4時間、国別に分かれ、それぞれの国の政治や文化、問題などを調べ、それらをクラス内で共有しました。また、終盤ではクラスを二つのグループに分け本番にできるだけ近い形で練習できるようにした。

#### ○模擬国連大会の流れ

ブロックミーティングでは、コミッションごとにそれぞれの国が出したアmendメント（修正案）を15またはそれ以下のグループに分ける。各グループの意見を踏まえた話し合いを進め、総会で使うドラフトレゾリューション（決議草案）をつくる。その後、総会では、既に紹介されたアmendメントをもとに、各国代表がスピーチを行い、それぞれ質疑応答や修正案を提案する。会議の最後に、出されたアmendメントと全てのドラフトレゾリューションに対して賛成か反対かの投票が行われ一定基準を満たすと可決となる。

### ○2020 年の模擬国連大会はオンラインに

新型コロナの影響で、2020 年はオンラインでの模擬国連となった。2 ヶ月間という長期間にわたる実施であったが、オンラインのツールを活用して交流を深め、オンラインの壁を越え、草案の可決まで至ることができた。

### 2.ユネスコ部の活動

|                                                               |                                                                                                                               |                                                                                                                                        |
|---------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>京都外大西高校</b><br><b>UNESCO Club</b><br><br><b>since 2013</b> | <b>UNESCO club</b><br>・20以上 メンバー<br>・会議は週に2回<br>・生徒と教師はプロジェクトのアイデアを話し合います<br>・クラブは、どのプロジェクトを行うかを決めます<br>・クラブはプロジェクトへの取組みを考えます | *アイデアを出し合う<br>*コミュニティに参加する<br>*イベントでボランティア活動をする<br>*学んだことを他の人と共有する<br>*学んだことをどのように学校の活動に取り入れられるか考える<br>*小さなことから始める<br><b>楽しんで行うこと!</b> |
|---------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

概要：2013 年設立。20 名以上のメンバーで構成。週 2 回昼休みに会議を開催。生徒と教師でプロジェクトのアイデアを話し合い、クラブはどのプロジェクトを行うかを決定し、取り組み内容を検討していく。

活動のモットーは以下の通り

- ・アイデアを出し合う
- ・コミュニティに参加する
- ・イベントでボランティア活動をする
- ・学んだことを他の人と共有する
- ・学んだことをどのように学校の活動に取り入れられるか考える。
- ・小さなことから始める
- ・楽しんで行うこと。

### ○祇園祭で行われているゴミゼロ活動に参加

祇園祭で行われているゴミゼロ活動に参加している。活動は大学生を中心に社会人なども多く参加している。ゴミゼロ活動では、リユース食器の導入や、ゴミ拾い、ゴミの分別啓発などを行なっている。

- ・ 大学生や社会人のボランティアとの交流や来場者からの感謝の言葉が嬉しい。
- ・ ボランティアをしているからこそ、ゴミの量に気がつくことができ分別等への意識が高まった。

### ○文化祭でのリユース食器の活用

祇園祭でのボランティア活動への参加をきっかけに、自校の文化祭でもリユース食器の導入ができないかと検討、生徒会へ提案し承認を受け、学校アセンブリで全校にメリットを提示した。その結果、2015 年より、文化祭でのリユース食器の導入とエコステーションの設置を実施した。

使用した食器はクラブのメンバーで協力し洗浄、ゴミの分別も手分けして行なった。

## 立命館守山高等学校発表要旨

### 「アプリの開発 ―世界中の学校をつなげるアプリ World School―」

SDGs などの国際問題を解決するためには、様々な人と意見を共有し合うことが大切である。その場がユネスコスクールであるはずである。しかし、海外の学校との交流は、ユネスコスクールの 20%あまりにとどまっている。海外との交流がなかなか進まない理由は、交流するための時間や人手が足りないというものがある。また、ユネスコスクール公式ウェブサイトにも、「交流相手校が見つかるまで数か月以上お時間をいただく場合があります。」と掲載されている。つまり、時間と労力がかかってしまうのである。立命館守山高校にはグローバルコースというものがあり、自分たちも海外の学校や仲間との学びに希望を抱いて入学したものの、コロナ禍によってそれが崩れ落ちようとしている。

そこで、私たちが開発したのが「World School」というマッチングアプリである。このアプリの特徴は、国内・海外問わず学校と学校を容易につなぐことができ、直接相手校とやり取りができることである。つまり、ダイレクトにやり取りができるため、やりたいイベントや交流が必ずできるのである。世界中の学校にイベントや授業の募集をかけたり、それに参加したり



することができる。一番のポイントは、掲示板に書き込み、閲覧ができる「掲示板システム」である。時間と労力をかけずに、募集校と参加校をはっきりさせることができる。募集をする学校は、掲示板システムに募集要項を掲示し、それを見て参加したい学校が参加希望を書き込むことでマッチングが成立するというシステムである。さらに、この掲示板システムは、国・地域別に分かれていて、翻訳機も搭載されているので世界中から参加することが可能である。このシステムを活用することによって、目的に合った授業が容易にできる。また、授業だけでなく、プレゼンバトル、数学バトル、主張大会のような世界規模の大会の企画・実施も可能である。この「World School」についてアンケートをとったところ、約 75%の先生が「興味あり」、約 70%の生徒が「興味あり」と回答してくれた。

今、ユネスコスクールに求められていることは、SDGs の解決に向けた児童・生徒一人一人の探究心であると思う。「World School」を活用して世界とつながることで、様々な人と交流できたり、世界の現





状を身近に感じたりすることができ、それによって一人一人が探究心をもって主体的に活動することが期待できる。そして、探究した内容を仲間とともに発信し合い、互いの考えを交流することは大きな学びとなるはずである。

学校は何かを教えてもらう場ではなく、仲間とともに何かを創造する場である。それを支えるのが、ユネスコスクールであり、この「World School」である。両者がうまく共存していけば、きっとすばらしい未来が待っているのではないかと思う。世

界中の学生が、お金をかけず、場所を選ばず、直接意見交換ができるのである。このことで、自国をはじめ他国の文化・価値観に気付き、社会の答えを生み出すきっかけとなる。私たちが目指しているのは、最適解を見出し、持続可能な社会をつくることである。よって、この取り組みはSDGsの目標達成に大きく関わっていると思う。私たちがまず世界の現状を知り、興味を持ち、意見交換をすることである。誰も置き去りにしないためにも、「World School」を通して、私たち学生が点と点から線となって、世界中の学校が結ばれることが大切である。しかしながら、私たちには技術と資金が不足しているため、まだまだアイデアにとどまっている。どうか一緒に開発していただきたいと思う。

## 関西創価高等学校発表要旨

関西創価高等学校では、世界市民となるための教育理念に基づく教育を推進

関西創価高等学校が目指す世界市民教育とは、ユネスコスクールとして、SDGSをはじめとする地球的な課題について探求し世界に貢献することである。

### (1) 個人や班で取り組んでいること

- ・リサイクルとして、使い捨てコンタクトレンズのケース回収、ユニクロの医療支援のための不要服回収への参加
- ・学校の池の外来魚を釣り餌にすること
- ・ホテルの飼育を通しての環境保全・地域交流



### (2) 学校全体で取り組んでいること

グローバルリーダーとしての使命感・探究心・共感力育成のため、問題解決への創造力を育成～

#### ○探究型総合学習（GRIT）

1 年次：SDGS を軸としたアクティブラーニング

2 年次：研究した分野のポスターセッション

3 年次：学年模擬国連の開催・・・4～5 人のグループで合意形成力育成を目指す。



#### 《模擬国連の課題》

2016 年 飢餓の収束に向けた  
農業分野での国際協  
力

2017 年 ゼロハンガーを目指  
す食料流通システム  
の構築

2018 年 安全で安価な飲料水  
の普遍的かつ公平な  
アクセス

2019 年 貧困により教育を受  
けられないすべて  
の子供への公平か  
つ質の高い初等教  
育の実現

- グローバルシティズンシップセミナー、UP クラス、国内フィールドワーク・海外フィールドワークで、SDGS について学ぶ。

東京フィールドワークで探究したアムネスティ・インターナショナルの活動に賛同し、学校全体で不要本の回収活動を実施。



- 少人数ラーニングクラスターでは、地球的課題（環境・開発・人権・平和）について英語で探究し、最終的には「高校生平和宣言」を作成する。また、高校生平和大使として、核兵器廃絶問題に関する国際会議「クリティカルスイス会議」に出席するなど、ESD に関する国際プログラムに参加し、持続的な世界実現のために提言・発言。

- 2020 年は、「マイ SDGS」に取り組んでいる。一人一人が地球的課題を自分事として捉え、SDGS 達成のために取り組んでいく。

# 和歌山県立橋本高等学校発表要旨

## 「高齢者の居場所づくり」 総合的な探究の時間＜地域福祉＞での取り組み

発表者 坂井里宇、茨木百香、赤井希光、下田朋花、平内唯希

### ◇テーマ設定の理由【橋本市が抱えている問題】

- ・ 少子高齢化の深刻化→医療費の増大
- ・ 高齢者の集う場所が足りない（交流の場の需要増大）
- ・ 空き家が多い
- ・ コミュニティバスなど、高齢者の交通手段が少ない
- ・ 橋本市の資金不足がない

これらの問題を解決するために…

空き家カフェを開き、高齢者の居場所を作ろう！

- ・ 現在増えている空き家の有効活用
- ・ 高齢者の居場所、高齢者の雇用創出
- ・ 医療費削減にもつながるのではないか

（現状）話し相手のいない高齢者

- 同年代の会話を目的に病院に通う傾向
- 医療費が必要以上にかかる
- ⇒ 会話の場を設けることで、医療費削減につながる
- 橋本市の資金が増える



### ◇地域住民への聞き取り

古佐田区長（学校の所在地） 「こんな計画を待っていた！」と喜んでくださった

### ＜住民対象のアンケート＞

Q. 地域のグループ活動等に参加したいか

→ **参加したくない 141 人**、すでに参加している 65 人、参加してもよい 59 人、ぜひ参加したい 1 人

↓ したくないが過半数

（理由） ・ 知り合いがいない 19 人 ・ 輪ができていて話しづらい 13 人 ・ 仕事をしている 49 人

・ **移動手段がない 32 人** ・ その他 54 人

（住民の声）

「交通の手段がなく、場所が遠いため参加したくてもできない」

「一人暮らしなので話し合う機会・場所が月 1 回でもあればいいのに」

「歩いて出かけるのがしんどくて辛い。近くの保育園跡を借りて集いの場所を設け、近隣の方々とのゲームやおしゃべりの場が欲しい」

↓

空き家カフェの立地条件：通いやすい場所 徒歩で行ける近い場所 → その条件に合う空き家はない

⇒ 空き家カフェでは、私たちの目的である高齢者の居場所作りは実現できない



◇計画の修正

「空き家カフェ」→「**憩いのカフェ**」に

たくさんの人に立ち寄ってもらう、交流してもらえる場所に

場所： 旧橋本東保育園 or カトリック教会の裏 （区長からの提案）

・住民にとって通いやすい場所である ・生徒にとっても学校帰りに立ち寄りやすい場所

従業員： 主に高齢者を募集（高齢者の雇用創出）

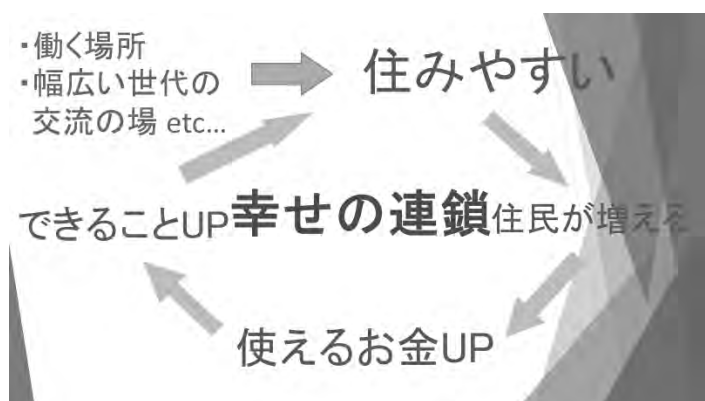
経営者： 計画採用後、募集

○日中：高齢者の居場所 ○夕方：学生が立ち寄る場所 ○夜：こども食堂 として運営

「憩いのカフェプラットフォーム化」の実現を目指す

- ・高齢者の居場所
- ・伝統を引き継ぐ場
- ・世代交流の場
- ・イベントの開催
- ・高齢者の働く場所
- ・子ども食堂

ばらばらに考えられてきた地域の課題を  
「憩いのカフェ」を拠点に解決したい



⇒「憩いのカフェプラットフォーム化」を実現することで、『幸せの連鎖』を生み出す

◇計画実現のために

橋本市の補助金制度「橋本市創業促進事業補助金」

…この計画に加え、経営者がいること、営利目的で経営すること → 対象になり得る（市の回答）

経営者を捜す必要がある → 市に依頼

◇計画が実現したら、私たちにできること

- ・店でのボランティア活動
- ・憩いのカフェに通い、幅広い世代の交流を生むこと
- ・夏祭り、部活動の演奏などのイベント開催

⇒ 橋本市に『幸せの連鎖』を起こします！





ユネスコスクール オンライン近畿地方大会

日本 ESD 学会第 4 回近畿地方研究会

## 実践発表・研究発表要旨集

2020 年 11 月 1 日（日）・8 日（日）・15 日（日）



主催：文部科学省      日本ユネスコ国内委員会

奈良教育大学      近畿 ESD コンソーシアム

日本 ESD 学会第 4 回近畿地方研究会実行委員会

## 実践発表 I ・ ESD 研究発表 I

11 月 1 日（日）13 時 00 分～14 時 30 分

### ◆第 1 分科会

指導助言：朴 恵淑（三重大学）

司会：大西 浩明（奈良教育大学）

#### 1) 地域文化を探究する学習

小学校 3 学年総合的な学習の時間 －「金魚のまち大和郡山」を事例に－

島 俊彦（大牟田市立吉野小学校）

#### 2) とともに学ぶ 応其小学校 ～大好きな学校・地域に MINT の風を吹かそう！～

辻脇 昌義（橋本市立応其小学校）

#### 3) 大沢中学校の取組

小畑 幸一（神戸市立大沢中学校）

### ◆第 2 分科会

指導助言：大塚 厚（奈良市教育委員会）

司会：三木 恵介（奈良市立都跡小学校）

#### 1) 学校と森と水の源流館と近畿 ESD コンソーシアムのプラットフォームでつくる ESD 遠足の実践

新宮 済（奈良市立平城小学校）

#### 2) 水から(自ら)広げる豊かな学び

佐野 純(箕面こどもの森学園 NPO 法人コクレオの森)

#### 3) 平和学習 奈良に帰ってきた三角定規 －まみいち PEACE プロジェクト－

藏前 拓也（広陵町立真美ヶ丘第一小学校）

### ◆ESD 研究会

司会：河野 晋也（大分大学）

#### 1) 地域資源を活用した学びの実現に向けて ～学校と地域が連携する有効性～

中澤 敦子（近畿環境パートナーシップオフィス）

#### 2) コロナ禍における奈良ユネスコ協会青年部の取組

松浦 慎（奈良ユネスコ協会）

#### 3) フィリピン残留日本人を通して SDGs16 を考える

太田 満（奈良教育大学）

## 実践発表Ⅱ

11月8日（日）13時00分～14時30分

### ◆第1分科会

指導助言：伊井 直比呂（大阪府立大学）

司会：西口 美佐子（奈良市立東登美ヶ丘小学校）

1) パラスポーツって何だろう

圓山 裕史（奈良市立飛鳥小学校）

2) 学校統合に関わる課題について ～ユネスコスクールの継続に向けて～

高尾 祐彦（大阪市立御幸森小学校）

3) 高時のオオサンショウウオを守るために ― ESD の視点をふまえた学習指導 ―

足立 康輔（長浜市立高時小学校）

### ◆第2分科会

指導助言：中澤 静男（奈良教育大学）

司会：新宮 済（奈良市立平城小学校）

1) これは使える！ フォトチャット

鎌田 大雅（奈良教育大学附属幼稚園）

2) ESD の視点を取り入れた、思考力・判断力・表現力を高める授業の創造

森 恭一（名張市立蔵持小学校）

3) 大阪市立晴明丘小学校自然観察学習園での活動

富澤 裕美子（エリーニ・ユネスコ協会）



## 実践発表Ⅲ・ESD 研究発表Ⅱ

11 月 15 日（日）13 時 00 分～14 時 30 分

### ◆第 1 分科会

指導助言：及川 幸彦（東京大学）

司会：吉田 寛（奈良教育大学附属中学校）

1) 生物多様性について考えよう

～小学校 2 年生生活科「どうぶつはかせになろう」の実践より～

中澤 哲也（平群町立平群北小学校）

2) 春日山をシカが喰う ～鹿害から春日山を考える ESD 実践

山本 浩大（奈良教育大学附属中学校）

3) コロナ禍における災害復興支援の可能性 ―ネスコスクールの繋がりを活かして―

狗飼菜々子、谷垣徹、佐藤こころ（奈良教育大学ユネスコクラブ）

### ◆第 2 分科会

指導助言：影浦 亮平（京都外国語大学）

司会：島 俊彦（大牟田市立吉野小学校）

1) 探究活動促進のための教員データベース作成

―立命館守山高校 共創探究科の実践―

水谷 深志（立命館守山高等学校）

2) 関西創価高校の世界市民教育

大月 昇（関西創価高等学校）

3) ユネスコスクールにおける地域連携教育と SDGS について

中嶋 浩晶（和歌山県立橋本高等学校）

### ◆ESD 研究会

司会：西口 美佐子（奈良市立東登美ヶ丘小学校）

1) ESD for 2030 にもとづいた ESD・SDGs ワークショップとコーチング

―ネットを使った社会人向け実践報告―

長岡 素彦（一般社団法人地域連携プラットフォーム/ESD-J）

2) 使命感と成就感を大切にした国語科×総合の教材開発

中谷 栄作（橋本市立あやの台小学校）

3) 概念変化に伴う価値観の変容

河野 晋也（大分大学）

実践発表Ⅰ・ESD 研究発表Ⅰ

11月1日（日）

13時～14時30分

## 地域文化を探究する小学校3年生総合的な学習の時間

### —「金魚のまち大和郡山」を事例に—

島 俊彦（大牟田市立吉野小学校）

#### I はじめに

本実践は、総合的な学習の時間の入門期である第3学年の児童が、奈良県大和郡山市の地域文化である金魚を教材に探究する学習である。身近な地域の文化である金魚や自分たちの生活を問い直すことで、地域に受け継がれる「金魚文化」を継承し守り継ごうとする児童を育成することを目的に、実践を展開した。

#### II 授業実践

前所属校（大和郡山市立郡山西小学校）で担任した第3学年の児童26名を対象に、昨年10月から12月にかけて「金魚のまち大和郡山」と題した実践を展開した。

##### 【単元の目標】

自分たちの住む身近な地域の文化について探究する活動を通して、金魚が大和郡山市の伝統文化であることを歴史や環境との関わりから理解するとともに、金魚を生かした町づくりや地域活性化に取り組む人々の思いや組織について理解し、地域の一員として「金魚文化」を継承し守り継ごうと考え、より良い地域社会の創造や自らの生活に向けて行動に生かすことができるようにする。

| 主な学習活動                              | 学習への支援・資料            |
|-------------------------------------|----------------------|
| 1. 「金魚のまち大和郡山」について探究の問いをつくる。        | ・ 大和郡山市が作成した金魚ののぼり   |
| 2. 大和郡山市と金魚の関わりを知る。                 | ・ 一年間に生産された金魚の数と種類   |
| 3. 金魚すくい体験をする。                      | ・ 金魚研究家の方との交流        |
| 4. 大和郡山の金魚文化を広めるために、自分たちができることを考える。 | ・ 金魚マイスターの方との交流      |
|                                     | ・ 今までの調べてきた資料や振り返り記述 |
|                                     | ・ 成果物の作成             |

#### III 成果と課題

本実践における成果と課題は、それぞれ2点ある。

##### 【成果】

- ・ 地域文化を継承しようとする児童の姿が見受けられた。（手立ての有効性）
- ・ 探究的な学習を支える教師の役割を明確化することができた。

##### 【課題】

- ・ 探究的な学びの広がりや深まり。
- ・ SDG s を中核に据えたカリキュラムの創造。

尚、具体的な実践の様子や児童の変容、成果と課題については、大会当日に詳細を報告する。

## ともに学ぶ 応其小学校

### —大好きな学校・地域にMINTの風を吹かそう！—

辻脇 昌義（橋本市立応其小学校）

#### 1. 学校紹介

応其小学校は、橋本市西部、高野山麓の高野口町に位置し、古くから、高野参詣の入口として栄えてきた、自然が豊かな地域です。地域住民も友好的で、学校にも協力的です。近年の地場産業の織物業の衰退、人口減少、高齢化により、持続可能なまちづくりが必要となっており、本校の児童数も減少し続け、本年度は児童数273名となっています。

本校では、MINT（M みんなで I いい笑顔で N なかよく T 楽しく）を合言葉に、大人も子ども「ともに学ぶ」学校づくりを進めています。

#### 2. 特色のある取組の紹介

##### （1）ふるさと学習を中心とした学習プログラム

以前からのふるさと学習を中心とした学習プログラムを見直し、本年度は、カリキュラムマネジメントとして、教科横断的な学習カリキュラム作成を行っています。様々な地域の方々を講師として招き、地元の歴史、文化についての学習や自分たちの地域の未来を考えていける児童を育むための学習を行っています。

##### （2）地域とともにある学校づくり

普段より学校運営協議会を中心に「地域とともにある学校づくり」を進め、様々な意見を反映させながら学校運営をしています。今年度は、「ハート型のひまわり畑づくり」（図1）を行い、地域へのメッセージづくり等を通じて、地域とのコミュニケーションの場として活用することができました。

##### （3）児童会活動・縦割り活動

本校の学校の活動の基盤となっている活動が、児童会での縦割り活動です。1年生から6年生まで縦割りのグループを20組作り、児童会行事や普段の遊びで活動しています。こうした活動の中で、学校全体での仲間づくりや人を思いやる豊かな心が育ってきています。

#### 3. めざすべき学校の姿、子どもの姿

##### （1）こんな学校をつくりたい

##### （2）こんな子どもに育ってほしい

#### 4. MINTの風を吹かそう

応其小学校の応援ソングを作りました！



図1 ハート型ひまわり畑

## 大沢中学校の取組

小畑 幸一（神戸市立大沢中学校）

### I 大沢校園の特徴

地域に根ざし持続可能な社会の創り手としての生徒の育成  
～つながりを重視した取組～

- (1) 田園地域にある小規模校
- (2) 幼稚園・小学校・中学校・児童館が併設
- (3) 希望就学制度に伴う生徒数の増加

### II 地域と共に行う行事（人・自然とのつながり）

- (1) 人とのつながりを重視した行事  
異学年間・異校種間・異年齢間（地域）・異国間（国際）交流活動  
もちろん同学年との交流活動
- (2) 自然とのつながりを重視した行事  
学校・地域の環境を活用した活動（里山保全活動など）

### III 新学習指導要領実施に向けて

- (1) 「大沢中で育みたい資質・能力（仮）」の検討
- (2) 「教科横断的な視点に立った資質・能力の育成」について

### IV 今年度の取組から

- (1) 「SDGsを知る」（中2）  
調べたことをわかりやすく発表する①
- (2) 「トライやる 人とのつながりで防災学習 大沢守ろう！」（中2）  
講義・フィールドワーク・まとめ  
調べたことをわかりやすく発表する②
- (3) 「トライやる」を終えて、生徒の成長とその後の取組  
「大沢守ろう！」 ⇄ 「地域の方々と交流をもとう！」

～ 地域からの愛情につつまれて・・・ ～



# 学校と森と水の源流館と近畿ESDコンソーシアムが 「学びのプラットフォーム」でつくるESD遠足の実践

新宮 済（奈良市立平城小学校）

## I 目的

近畿ESDコンソーシアムでは、2017年度から森と水の源流館（公益財団法人吉野川紀の川源流館物語）と協働して「授業づくりセミナー」を開催してきた。この4年間のESD実践の取り組みからみえてきた、ESDの効果的な現地学習とゲストティーチャーの活用方法について明らかにしていく。

## II 方法

授業づくりセミナーにおいて、本校第4学年の総合的な学習「秋篠川の恵みを未来へつなげよう」の授業開発をし、継続して授業改善を行なった。改善してきたことは3つある。1つ目は、行動化を促す学習展開である。昨年度実践した学習の主な流れと児童の秋篠川観の変化を表1に示す。2つ目は、人の営みに憧れるゲストティーチャー（以下GTとする）の活用方法である。3つ目は、地域の川に興味を持つための効果的な現地学習の開発（表2）である。

表1 2019年度実施した学習の主な流れ

| 学習活動                 | 児童の秋篠川観とゲストティーチャー（GT）の活用                                                                     |
|----------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 既存の知識の確認             | 「川についてわからない」と過半数が回答                                                                          |
| 地域の川の生物調査            | ・秋篠川は、やや汚い川・たくさん生き物がいる <b>GT</b>                                                             |
| 森と水の源流館遠足            | ・吉野川には多面的な役割がある。 <b>GT</b><br>・館長のように地元の川の役割を見つけて伝えたい。 <b>GT</b>                             |
| 地域の川の役割探し            | ・秋篠川も同じくように多面的な役割があった。 <b>GT</b><br>・秋篠川と地域の人がつながっている。 <b>GT</b>                             |
| 地域の川を時間軸、空間軸で比べる     | ・秋篠川は昔サワガニがとれるくらいきれいな川。 <b>GT</b><br>・今の秋篠川はゴミが多いのでなんとかしたい。                                  |
| 自主的にゴミ拾いや川の観察した児童の報告 | ・プラスチックゴミが多い。<br>・川の役割に影響があるかもしれない。                                                          |
| 漁師や環境省への聞き取り         | ・秋篠川のカニを大阪湾のタコがエサにしていた。 <b>GT</b><br>・大阪湾の漁師さんは毎日船一杯になるまで川から海に流れるプラスチックゴミを拾い集めている。 <b>GT</b> |
| できることの行動化            | ・館長のようにプラスチックゴミを海に流さないために、一人ひとりができることをしていくことが大切。 <b>GT</b>                                   |
| 行動の問い直し              | ・地域の大人を変えないと河川のゴミ問題は解決しない                                                                    |
| 大人への訴え               | ・グレッタさんのように、川のプラスチックゴミの原因が大人にあることを訴えることで解決につながる。 <b>GT</b>                                   |

表2 2019年度現地学習の流れ

| 時間               | 学習内容                                                    |
|------------------|---------------------------------------------------------|
| 事前学習             | きれいな川に興味を持つ                                             |
| 遠足（午前）<br>吉野川の調査 | 川の恵みを体感する<br>・生き物観察<br>・川遊び、川辺で食事<br>・自然水を飲む<br>・滝に癒される |
| 午前のまとめ           | 体験した恵みを吉野川の役割として価値づける                                   |
| 遠足（午後）<br>源流館の見学 | 館内のインタビューや展示から吉野川の役割を見つける                               |
| 事後学習①            | 見つけた吉野川の役割を源流館に評価してもらう<br>秋篠川にも役割があるのか疑問を持つ             |
| 事後学習②            | 館長が見つけた川の役割を地域の人に伝えるという川を守る営みにふれる                       |

## III 結果

森と水の源流館にはゲストティーチャーとして知識を説明してもらう役割だけではなく、共に調査し児童の追究を評価する役割、川を守る営みを紹介する役割、児童の行動化をアドバイスする役割として関わってもらった。結果として児童は源流館の営みに憧れ、自分も同じようになりたいと行動を起こす意欲につながった。あえて地域の河川から離れて、「水源地の村づくり」を進めている地域の「川の恵み」を実感することは、地元の川の役割探しにつながる追究のエネルギーとなった。

## 水から(自ら)広げる豊かな学び

佐野 純 (箕面こどもの森学園(NPO法人コクレオの森))

### I はじめに

本校のカリキュラムには、小学部にテーマ、中学部にワールドオリエンテーション(以下、WOと表記)というテーマ学習がある。「環境」「市民性」「人権」「自然」のカテゴリから抽象的なテーマを設定し、探究学習を行っている。最初に概要を伝え、施設を見学したり、講師の方から話を聞いたりして学んだ後に個別またはグループで具体的なテーマを決めて調べ学習をして、最後に発表をするという流れになっている。

2019年度1学期については、子どもたちが「もっと自分の関心のあることを、自分の力で進めていきたい」と感じているようだったので、初めのきっかけだけを大人が用意して、そこから先はそれぞれの考えで進めていくことを支援しようと考え、「水」というテーマに決めた。

「水」であれば、生きる上で欠かせないもので誰もが身近に感じるものだから、そこからの子どもたち自身が問いを広げていくこともやりやすいだろうということでテーマとして採用し、1学期間をかけて学ぶことにした。

### II 学習の流れ

- (1) 水の飲み比べ
- (2) 問い出し・シェア
- (3) 各自の問いを具体的に検討
- (4) 自分のテーマに沿った見学先・実験などを検討
- (5) 見学先を訪問・実験・インタビュー
- (6) 調べた内容をまとめる
- (7) 発表する
- (8) 振り返る



図1 水の飲み比べ

### III チャレンジポイントと学びの成果

<チャレンジポイント>

○子どもたちが自分で作っていく学びを尊重すること

○別々のテーマで探究していくこと

○発表形式の工夫

<学びの成果>

○自分の問いやテーマを持ち、

自力で学びをつくっていく力・姿勢を育む

○学校以外でも自分の責任で学びを進める経験

○教員が協働して学習をつくっていったことで、カリキュラムが改善

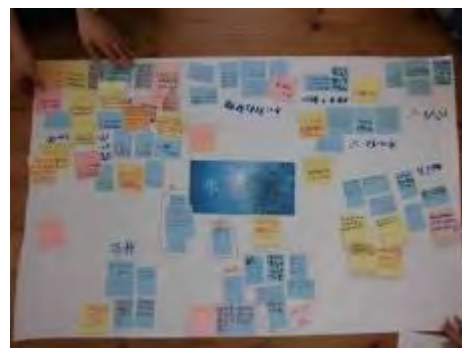


図2 「水」についての問い出し

## 平和学習 奈良に帰ってきた三角定規 — まみいちPEACEプロジェクト —

藏前 拓也（広陵町立真美ヶ丘第一小学校）

### I はじめに

本実践の学習では、奈良から沖縄の戦地に行かれた方の遺品である三角定規が、74年ぶりに遺族のもとへ届いたことが掲載された新聞記事を取り上げた。この記事は、学級の児童が夏休みの宿題でノートに貼り付けていたものであった。記事には、「戦後74年と言うけれど、私には今も終戦はない。戦争で尊い命が奪われ、残った家族は悲しい運命に翻弄されるのだから」と遺族のコメントが記されていた。

この記事を書いた新聞記者と遺族との出会いをきっかけに、奈良にまつわる戦争について知ることで、戦争を身近で切実なものにとらえさせようとした。加えて、戦争の被害は、空襲や原爆による被害だけでなく「戦争によって亡くなられた方の遺族の思いや願い」にもあることに気付かせたいと考えた。

### II 実践の概要

■第6学年 総合的な学習の時間(全15時間)

(1)戦争についての主な事象を学習する。(知る)

「広島と長崎では何が起こったのだろう。」

(2)奈良にまつわる戦争について調べる。(調べる)

「奈良にまつわる戦争の被害にはどんなものがあるのだろうか。」

(3)ゲストティーチャーからお話を聞く。

・毎日新聞記者：塩路佳子氏

・ご遺族：山口紀子氏

(4)調べたことをまとめ、プロジェクトを発足する。(まとめる)

「自分たちにできることって何だろう。」

(5)平和学習発表会を開催する。(ひろげる)

### III 考察

奈良にまつわる戦争の内容を取り上げたことで、自分たちが住んでいる地域からも戦地へ行った人がいたことを知り、戦争を身近なものとしてとらえるができた。また、ゲストティーチャーから直接お話を聞くことで、遺族の方の思いや願いを知り、戦争の被害は空襲や原爆などだけではないことを考える機会になった。

自分なりに考えた平和を実現するために、大切にしなければならないことや必要なことを考え、実行しようとする態度を養うことができた。この平和学習を通して、SDGs16への貢献につなげることができたのではないかと考える。



図1 毎日新聞の記事

## 地域資源を活用した学びの実現に向けて —学校と地域が連携する有効性—

中澤 敦子（近畿環境パートナーシップオフィス）

### I はじめに

近畿環境パートナーシップオフィスでは、2013年度より「持続可能な地域づくりを担う人材育成事業に係るESD環境教育プログラムの作成・展開事業」「近畿地方ESD活動支援センター事業」等において、学校教育でのESD環境教育の推進を目的に、地域人材や自治体環境部などのステークホルダーによる「ESD学びのプラットフォーム」の創出や、自治体・専門家・地域拠点を通じた教材の提供、授業づくり支援などに取り組んでいる。

### II 研究の目的と方法

ESDでは、地域資源の教材開発や体験的な学習を組み込んだ探究型の学習が展開されることが多い。また、新学習指導要領でも「社会に開かれた教育課程」がキーワードの一つとなっており、学校と地域との連携が当然視されている。本研究では、本オフィスが2013年度より関わった37本のESD環境教育の実践報告や学習指導案を分析することで、学校と地域が連携する有効性を明らかにするものである。

### III 実践報告等の分析

37本のうち、36本が地域の教材化に取り組み、体験的な学習を展開していた。また、そのうちの33本の実践において多様なステークホルダーと連携して学習を展開していた。（表1）

また、目的によって連携相手を選んでいる様子を伺い知ることができた。

例えば、学芸員との連携では、教員の事前研修時に専門的な知識を得ることを主たる目的とした事例が5本であり、生物調査時に同行し、体験と知識を結びつけることを主目的とした事例が6本であった。また、地域の方との連携では、体験活動時一緒に活動した事例が8件、インタビューや学習成果の発信時での連携が4件であった。

表1 学校と地域の連携

|                 |    |
|-----------------|----|
| 学芸員             | 14 |
| 地域の方            | 13 |
| NPO・市民団体・ボランティア | 13 |
| 大学教員            | 13 |
| 地域の専門家（個人）      | 8  |
| 環境課             | 6  |
| 教育委員会           | 7  |
| その他行政           | 10 |
| 民間研究所           | 3  |
| 民間その他           | 2  |
| 高校              | 1  |
| 合計              | 90 |

### IV まとめ

本研究によって、特に地域の方々との連携が、「取組を行っている大人との出会いとあこがれ」「自分も地域の役に立つことができるという自信」「地域の方々に喜んでもらえるという自己有用感」「地域の方と一緒に課題を解決していこうとする意識の高まり」など、持続可能な社会づくりへの行動化に効果的であることが明らかとなった。



松浦 慎（奈良ユネスコ協会青年部）

しかし、時間は確実に流れている。このような時だからこそ、歩みを止めない持続可能なアクションが必要である。本発表は、奈良ユネスコ協会青年部のメンバーが、自分たちにできることを模索し、実行したことをまとめたものである。

- ① ギター倶楽部
- ② 「旅心」リレー講演会
- ③ 未来創造会議
- ④ 「歌心」ソングカフェ
- ⑤ 「本心」ブックトーク
- ⑥ 交流会&座談会
- ⑦ アナザースカイ
- ⑧ 奈良プランニング

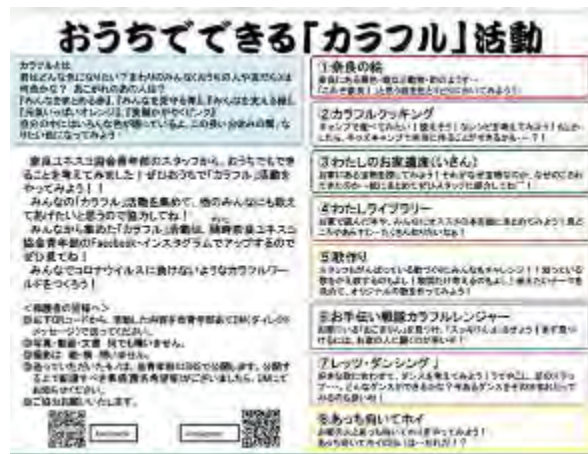


図1 参加者に発信した「カラフル活動」



図 2 青年部「新」年間計画

ESDをやらなければならない  
SDG s のためにやる、ではなく 図  
やりたいことをやっていたら、  
ESDになっていた。SDG s につながった。



## フィリピン残留日本人を通して SDGs16を考える

太田 満（奈良教育大学）

### I フィリピン残留日本人

フィリピン残留日本人とは、太平洋戦争終結までにフィリピンに渡るか、フィリピンで生まれた日本人で、戦争によって父親または両親と離散するなどして、現地に残留せざるを得なかった日本人のことである。フィリピン残留日本人は、戦後の「反日感情」の激しいフィリピン社会で、難を逃れて山奥に隠れ、日本名をフィリピン名に変え、日本人であることを隠して生きてきた。極度の貧困にあり、フィリピン国籍を取得することもできず、不安定な社会的立場に置かれたのである。外務省第12次調査（2019年3月公表）によると、フィリピン残留日本人は、計3,810人いるとされる。その内、生存者（生死不明者含む）は1,723人（45%）、死亡者は2,087人（55%）である。生存者（生死不明者含む）のうち、日本国籍取得済は654人（38%）、無国籍者は1,069人（62%）である。

### II フィリピン残留日本人の無国籍問題

無国籍者とは、「いずれの国家によってもその法の運用において、国民とみなされない者」（無国籍者の地位に関する条約第1条）である。フィリピンでは、2011年に無国籍者の地位に関する条約に批准するなど、無国籍者を減らそうとする取り組みがなされている。フィリピン残留日本人の願いは「日本人であることを認めてほしい」ことだが、フィリピン残留日本人が無国籍状態におかれていることの解決策をフィリピン政府にだけ委ねてよいかという問題がある。「すべての者は、国籍を取得する権利を有する」（第15条）という世界人権宣言を持ち出すまでもなく、今日では、持続可能な開発目標（SDGs）において、2030年までに「16.9 2030年までに、すべての人々に出生登録を含む法的な身分証明を提供する」ことが言われている。このような国際的取り組みの中で、日本に住む我々が、フィリピン残留日本人の無国籍問題をどう受け止めるかが問われている。

### III フィリピン残留日本人のライフヒストリー

本発表では、アカボシハツエさん（1926年生まれ）のライフヒストリーを紹介する予定である。ハツエさんのお父さんは熊本県出身の日本人で、お母さんはフィリピンに住むバゴボ族の人である。なお、ハツエさんは、ドキュメンタリー映画「日本人のわすれもの」（小原浩靖監督）に登場している。同ドキュメンタリーは、学校の授業等でも活用できるよう、50分版（大学）、40分版（中高）が作成されている（<http://wasure-mono.com/wasuremono/students/>参照）

### 【参考文献】

河合弘之編（2005）『フィリピン日系人の法的・社会的地位向上に向けた政策のあり方に関する研究』東京財団研究推進部

## 実践発表Ⅱ

11月8日（日）

13時～14時30分

# パラスポーツって何だろう？

圓山 裕史（奈良市立飛鳥小学校）

## 1. 目標

パラリンピック選手やそれを支える人たち、パラリンピックの運営に関わった人の考え方にふれ、よりよく生きようとする人間の強さや気高さを理解し、人間として生きる喜びを感じる。また、障がい者理解を深め、誰に対しても差別することや偏見を持つことなく、公正・公平な道徳的判断力や心情を育てる。

## 2. 単元について

東京オリンピック・パラリンピックの開催にともなって、パラリンピック競技を CM や TV 番組で目にする機会が多くなっている。この機会にパラスポーツを通して障がい者理解につなげるいい機会である。

また、パラスポーツには「障がい者のためのスポーツ」という認識が強いが、見方を変えれば「誰もが公平に行えるスポーツ」だというユニバーサルデザインの側面もあり、一面的な見方から多面的・多角的な見方へ発展させることに適していると考ええる。実践を展開していくときには、パラリンピックのピクトグラムや競技の紹介動画、手作りボッチャ体験から、パラスポーツについて感じたり、考えたりできるようにする。

そして、パラリンピックの父と呼ばれる中村裕医師のダイバーシティ社会、共生社会といった考えにふれることで、児童にもこうした考えが芽生えるであろう。

## 3. ESDとの関連

- 【SDGsについて】 10. 人や国の平等をなくそう  
3. すべての人に健康と福祉を
- 【ESDの視点】 多様性 責任性
- 【資質・能力】 クリティカルシンキング  
コミュニケーション力
- 【価値観】 世代内公正 人権尊重

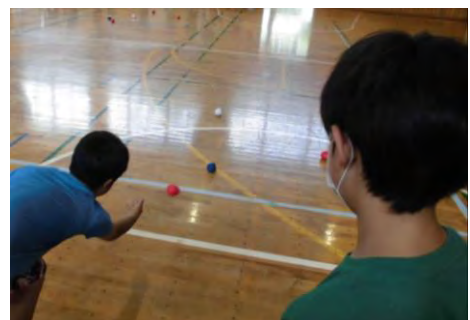


図1 手作りボッチャ体験

## 4. 成果と課題

学習のまとめとして、最後に振り返りを書かせると、学習前には「障がい者のためのスポーツ」といった見方が大多数を占めていたのだが、学習後には、「誰とでも平等にスポーツを楽しむ」といった多面的、多角的な見方へと発展し、ダイバーシティ社会、共生社会といった考え方の基礎が育まれたと考えられる。

## 学校統合に関わる課題について —ユネスコスクールの継続に向けて—

高尾 祐彦（大阪市立御幸森小学校）

### I 発表要旨

2012年10月にユネスコスクールに認定された本校は、「児童の自尊感情と郷土愛を養い、心豊かにしなやかに生きる力をはぐくむ」ことをねらいとして「多文化共生」「国際理解」「平和」「人権」「地域の文化財」などをテーマとした学習に取り組んでいます。

そのような中、本校は、近年の児童数の減少により、令和3年4月に隣接する小学校との統合が予定されており、統合に向けた課題に加え、ユネスコスクールの継続に向けた課題に直面しています。

本校のユネスコスクールとしての取組を踏まえ、今後のユネスコスクール継続、取組のさらなる充実・発展について、広く皆さまのご意見、ご示唆をいただければ幸いと考えております。



### II 発表の内容

- (1) 多文化共生・国際理解に関わる取組
- (2) 地域理解に関わる取組
- (3) 協調性・コミュニケーション力を高める取組
- (4) 学校統合に向けた課題について
- (5) ユネスコスクールの継続に向けた課題について



## 高時のオオサンショウウオを守るために

### —ESDの視点をふまえた学習指導—

足立 康輔（長浜市立高時小学校）

#### 1 学校紹介

高時小学校は、長浜市木之本町の北東に位置している。全校児童 47 名の小規模校で、第二学年と第三学年は複式学級である。本校の学区内には、貴重な地域資源が数多くある。滋賀県最初の文化財収蔵庫である己高閣、世代閣には、鶏足寺の十一面観音をはじめ、数々の重要文化財が納められている。薬師如来像や石道寺の国の重要文化財である十一面観音像・石田光成ゆかりの地など、歴史的な遺産が多く存在する。また、自然環境にも大変恵まれている。日本のお茶栽培の発祥の地である学校周辺には豊かな茶畑があり、全校で茶摘みをしたり、児童が茶道を学び、お茶を点てたりしている。さらに、地域に流れる大谷川には、国の特別天然記念物のオオサンショウウオが生息しており、地域全体で保護に努めておられる。

#### 2 本校の総合的な学習の時間について

上記のような貴重な地域資源について、本校では生活科・総合的な学習の時間を中心に児童たちが発達段階に応じて、探究的に学びを深めている。例えば第三学年は己高閣や十一面観音像などの主に文化財、第四学年は大谷川の水質環境やオオサンショウウオ、そして第五学年では茶道学習や学校のビオトープについて、最後に第六学年では茶道学習や高時の古墳について等をテーマに、児童が主体的にわかったことを紅葉祭会場で、広く地域や観光客の方々に発信している。

#### 3 第4学年総合的な学習の時間の授業実践（令和元年度）

昨年度4年生では、大谷川に生息するオオサンショウウオを守るための学習を進めてきた。まず、大谷川の水質調査である。学校付近に流れる大谷川の中流や上流の水生生物を採取し、水質や川の状態を調べた。そして、大谷川のオオサンショウウオに精通している、古橋のオオサンショウウオを守る会の方、長浜バイオ大学の方、さらに長浜市役所歴史遺産課の方に出前授業をしていただいた。学習の終盤には、専門的な方から学んだことや、自分たちが調べて分かったことを通して、自分たちがオオサンショウウオを守るためにできることは何か話し合いを進めた。そして、話し合い、まとめたことを紅葉祭会場で発表し、オオサンショウウオについて知ってもらうだけでなく、手作りのチラシを作成し、多くの方々に配布した。

このようなオオサンショウウオを守るために学習を深めることに取り組んできた授業実践について発表する。



図1 高時小学校4年生  
が作成したチラシ(R1)



## これは使える！ フォトチャット

鎌田 大雅（奈良教育大学附属幼稚園）

### ○はじめに

これから到来するsociety5.0時代には、自らが課題意識を持ち、仲間と考え、探究し、創造していく力が求められます。保育の現場では、子どもたちに均一な活動の経験をさせることなく、子どもの「面白い！」「不思議！」「という“トキメキ”と、「やってみよう！」「こうしたらどうなるかな？」という“ヒラメキ”を、いかに保育者が読み取り、一人一人の興味関心を深められる経験を保障できるかが重要視されています。本園では、子どもの“トキメキ”と“ヒラメキ”を読み取ることが重要であると捉え研究を重ねています。仕事量が増える教育・保育現場の中、効率的に行える研修方法としてタイトルにある【フォトチャット】を考案し、短時間での研修を行っています。

### ○フォトチャットとは

各園の研究テーマなどに沿って選んだ写真1枚とその時のエピソードをもとに、視点を絞って保育者間で語り合い、子どもの学びや経験、保育者の思いなどを探る研修方法です。

### ○フォトチャットの方法

- ①. 保育者が研究テーマ等に沿った写真を保育中に写真を撮る。
- ②. 撮影した写真からフォトチャットに使う写真を1枚選ぶ。
- ③. モニター上に写真と研究テーマ等に沿った視点の枠を映す。
- ④. モニター上の写真を見ながら、写真を撮った保育者が前後のエピソードを語る。（3分程度）
- ⑤. エピソードを受けて聞いていた保育者が研究テーマ等に沿って、視点を絞って語り合う。（7分程度）
- ⑥. 記録者は語り合いを聞きながら、研究テーマ等に沿った視点の枠に記録していく。
- ⑦. フォトチャットの記録を集積し、自園の研究に反映させる。

### ○フォトチャット中のモニター共有画面（本園の場合）

本園では、子どもの“トキメキ”や“ヒラメキ”について語りを深めるために以下の枠組みを使用しています。

子どもがどんなことにトキメいていたかを記録します

子どもがヒラメいて行動したことを記録します

保育者が選んだ写真

フォトチャットの中で分かったことやキーワードを記録します

### ○フォトチャットの効果

- ・ 子どもの姿を読み取る力が養われる
- ・ 遊びの様子や子どもの姿、クラスの実態等を職員間で共有することができる
- ・ 同僚性が高まる
- ・ 保育観や子ども観の形成につながる

図1 フォトチャット時のモニター画面

## ESDの視点を取り入れた思考力・判断力・表現力を高める授業の創造

森 恭一（名張市立蔵持小学校）

### I はじめに

本校は平成24年にユネスコスクールに認定され、ESD（持続可能な開発のための教育）の視点を取り入れた学習活動を展開してきた。各教科や総合的な学習の時間での教科等横断的なカリキュラムをESDカレンダーとして編成し実践を重ねている。また、2015年に国連で提唱されたSDGs（持続可能な開発目標）の17とゴールの関連性も視野に入れながら教材を開発するようにしている。ESDを通して、言語能力を向上させ、思考力・判断力・表現力を高め、行動化につなげることができると考えている。

### II 実践例

#### （1）4年生 「資源を大切に」

##### 【活動（学習）内容】

- 自分たちの生活の中で何気なく出しているゴミの現状と環境や生き物への影響を考える。
- 自分たちが出しているゴミの中にも、まだ使うことのできる資源がないか考え、話し合う。
- 資源を集め、自分たちでリサイクル、リユースする方法を考え、実際に行い、全校に発信する。

##### 【他教科との関連】（教科横断的な視点）

「ゴミのしまつと活用」（社会） 「ランドセルは海をこえて」（国語）ほか

【ESDの視点 SDGsのゴールとの関連】・相互性・有限性・責任性，SDGsのゴール12「つくる責任・つかう責任」など

##### 【子どもたちの様子】

- ・世界的にゴミの排出が問題となり、自分たちが出したゴミを処理しきれず海にプラスチックゴミがあふれ、動物が命を落としている事例を動画や新聞でみたことで「このままでは、いけない」と問題意識をもつことができた。
- ・他教科とも関連させることで、1学期は「資源を活用していく」ことを意識して生活することができていた（日記や普段の生活等）
- ・自分たちが呼びかけて集めた資源を活用して、自分たちが考えた遊び道具をつくることで、意欲的に活動することができていた。
- ・1年生へ発表の場を設けたことで、自分たちが作った道具で楽しそうに遊ぶ1年生を見て、満足感を得ることができていた。また、事後にいただいた手紙もうれしそうに読んでいた。

### III まとめ

各学年でSDGsの17のゴールとの関連性を考え、ESDの視点を取り入れた学習をすることによって、児童は自分たちの身の回りのさまざまな問題に気づき、できることを考え、話し合っって発信するなど、行動化へとつなげることができるようになってきている。

## 大阪市立晴明丘小学校自然観察学習園での活動

富澤 裕美子（エリーニ・ユネスコ協会）

### I 地域・学校・PTAによるユネスコ・スクール晴明丘小学校の実践

晴明丘小学校創立100周年（平成12年度）記念事業として「自然にふれて命の尊さを理解できる子どもたちに」との願いを込め、地域、学校、PTAが一丸となり自然観察学習園を校庭内に1から全くの手作りで完成しました。この自然観察学習園を作るのにあたって、維持管理のお手伝いと植栽を学校とPTA・地域の人で構成する自然観察学習園運営委員会・地域園芸クラブが組織され現在に至っています。20年たった今、自然観察学習園は、田んぼ、季節の花と「なにわ伝統野菜」をはじめとする野菜づくりのエリア、池と川のビオトープのある自然豊かな場所となりました。今春開墾された「くすのき畑」を含め、小学校課程の教科書にある植生物が校庭で見ることができるよう植栽を進めています。米作り・「なにわ伝統野菜」・さつまいもなど栽培し収穫して食べること、あおむしから蝶・バッタやカマキリなど「自然とふれあい、命の尊さを学ぶ」生きた学びを得ることのできる環境教育の場となっています。なにわ伝統野菜の復活に取り組んでこられた市民活動団体や生産者農家、お茶・植物・生物・草木染・食育等各分野の研究者・専門家の方々からアドバイスをいただきながら、セミナー・イベントなどを通して、子どもたちが豊かな学びを得ることができるだけでなくPTA・地域の人の生きがいを見出しています。

2年生さつまいも



### 自然観察学習園での感想

- ・天王寺蕪や勝間南瓜などこの年になってはじめて知り、味わいました（80歳）
- ・なにわ伝統野菜や秋の七草をこの小学校にきて初めてみました（50歳・教員）
- ・[お茶の授業を終えて] 1年生の時、5年後に飲めるといいねということで植えつけてから、ずっと楽しみにしていました。お茶を飲めたのは校長先生や地域園芸クラブのみなさんがお茶の木を守ってくださったからだと思います。お茶はとてもおいしかったです。（6年）



私のまちのたからもMAP

（エリーニ・ユネスコ協会 ユース発行）

### II 地域学習

晴明丘地域は大阪・上町台地の熊野街道沿いに位置し、「わたしのまちのたからものMAP」づくりによって地域の歴史や文化の学びを通してローカル・アイデンティティを育んできました。自然観察学習園における地域の特産物や伝統野菜、片葉の葎などの植栽から自然に触れあえる学び合いが世代を超えて行われ、さらなる発展を目指したいところです。



実践発表Ⅲ・ESD 研究発表Ⅱ

11月15日（日）

13時～14時30分

## 生物多様性について考えよう

### —小学校2年生生活科「どうぶつはかせになろう」の実践より—

中澤 哲也（平群町立平群北小学校）

#### I 目的と背景

平成29年3月に小学校学習指導要領が公示され、その前文に「持続可能な社会の創り手を育む」ことが明記された。一方で、同年改訂された小学校学習指導要領解説生活編では、上記の視点を取り入れた改訂は見られない。本研究では、持続可能な社会における生物多様性を理解し、大切にしようとする態度を育むために小学校生活科で活用できる教材の開発を行い、授業実践を通してそれらの有効性を検討した。

#### II 方法

本校の小学校2年生26名を対象に2019年秋に実施した。児童が生き物間のつながりについての知識を深めるために、天王寺動物園と協力して開発した授業実践を行い、実践後の子どもの変容をもとに生き物への親しみだけでなく、知識理解を促す授業のあり方について考察する。

| 主な学習活動                                                                                                        | 学習への支援                                                                                                  |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1. クイズ「だれのフンでしょう？」<br>○動物によってフンの形や大きさ、付着物が違うことに気付く。<br>○動物の食べているものや、生活の様子など、生き物の生態について関心を持つ。                  | ・「ウンチ標本」を使って、クイズを出し、よく観察させることで、動物の種類によって様々な違いがあることに気付かせる。                                               |
| 2. 生き物の生態について調べてみよう。<br>○図書館の図鑑を利用して、次の5点について調べる。<br>①体長②体重③主な生息地④主な食べ物⑤調べて気付いたこと                             | ・天王寺動物園で飼育されている生き物から、選ばせるようにする。また、図書館や、天王寺動物園の獣医とも連携を取り、調べ活動のサポートを行うようにする。                              |
| 3. 天王寺動物園で生き物の観察をしよう。（課外）<br>○園内を回りながら、生き物だけでなく、周りの環境にも視点を向け観察する。                                             | ・事前に園内の地図を配布し、自分たちで道順を考えさせる。                                                                            |
| 4. 生き物はどんなものを食べているのだろうか。<br>○調べた動物を発表することを通して生き物同士のつながりに気付く。<br>○肉食動物・草食動物・植物の相互性について考える。                     | ・調べて出てきた動物を張り出したり、矢印でつないだりしながら、生物のつながりを可視化していくようにする。<br>・様々な種のバランスを崩すとどうなるかを考えさせることで、生態系バランスの大切さを考えさせる。 |
| 5. 学校の観察池にいるタニシを飼育しよう。<br>○タニシのエサや、身の回りの環境について調べる。<br>○タニシが住みやすい環境を考え飼育する。<br>○図鑑をもとに、タニシの生態について観察し、カードを記入する。 | ・観察池に行き、池の水の様子や周りの環境の様子にも視点が向くように支援する。<br>・子どもの関心が高まるように、図鑑を用意する。                                       |

図1 単元展開の概要

#### III 結果と考察

実践を通して、多くの子どもは「食う-食われる」といった生き物どうしの関わりだけでなく、生き物から出た糞が、植物の栄養になり、循環しているということに気づいた。また、生き物の糞が植物の栄養の一部になることがわかると、糞に対する抵抗が減少しつつあると感じた。

児童一人一人がタニシを飼育したことによって、タニシの住む池の環境や水に注目しながら飼育環境を自分たちで考え作り出すことができた。



## 春日山をシカが喰う — 鹿害から春日山を考えるESD実践 —

山本 浩大（奈良教育大学附属中学校）

### I はじめに

春日山原始林は日本でも有数の照葉樹林が成立しているが、近年“奈良のシカ”によって森林生態系に負の影響が生じている（前迫2013）。日本各地でも、シカによる植生の変化が報告されており（辻野他2013, Tsujino et al.2013）、それに伴って土壌の改変や他の動物相への影響、外来種の侵入なども報告されている（前迫2013）。春日山も同様に、シカにより後継樹への影響が報告されている（前迫2013）。このようなことが春日山で起こっているが、生徒たちは漠然としか、春日山の問題を知らない。そこで、事前学習を通して春日山について知り、自然を保護する立場にある人の説明や春日山の状況を見て、食害の状況やそれに関わる問題について学習する機会を総合的な学習の時間に設けた。

### II 授業実践（計7時間、7は本校の校外学習の時間で行った）

| 主な学習活動                                                                     |
|----------------------------------------------------------------------------|
| 0、大台ヶ原を歩く（希望者のみ）<br>・大台ヶ原を散策し、森林の現状・問題について学び、自然環境の保全に対する興味や関心を高める。         |
| 1、春日山原始林についてのマップを作成する<br>・SDGsの視点で、春日山原始林で起こる問題を見つめ、負の連鎖構造を知る。             |
| 2、調べ学習を通して、春日山原始林の問題を知り、再度マップを作成する<br>・マップを作成し、様々な問題が絡み合っていることを知る。         |
| 3、他学年の生徒に、奈良めぐりの際レクチャーをするための資料作成                                           |
| 4、食物連鎖ゲーム（実習）                                                              |
| 5、食物連鎖ゲーム（まとめ）                                                             |
| 6、前鬼モニタリング調査の報告会<br>・事前に2泊3日のモニタリング調査に参加し、自然の測定方法を学ぶ。<br>・学んだことの整理とアウトプット。 |
| 7、春日山を歩く（奈良めぐり）                                                            |
| 8、まとめ<br>・諸問題を解決していくために今の自分ができることやこれからの春日山の活用を考える。                         |

上の表のように授業実践を行った。本校では、1、2年合同で校外学習を行っており、2年生が春日山の現地で1年生に向けて説明を行う場を持っている。詳細については、当日の発表で行う。

### III 引用文献

- ・前迫ゆり（2013）世界遺産春日山原始林．ナカニシヤ出版
- ・Tsujino Riyou et al.(2013) Degradation of Abies veitchii wave-regeneration on Mt.Misen in Ohmine Mountains : effects of sika deer population. Journal of plant research.126(5). p.625-634
- ・辻野亮他（2013）大峯山系弥山におけるシラビソ縞枯林とニホンジカの影響の変化．奈良植物研究会．34．p.13-20

## コロナ禍における災害復興支援の可能性 —ユネスコスクールの繋がりを活かして—

狗飼 菜々子・谷垣 徹・佐藤 こころ（奈良教育大学ユネスコクラブ）

### I はじめに—ユネスコクラブと災害復興支援

本団体は2011年7月に活動を開始した学生団体で、ESDを実践できる教員になることを目的に、ESD-SDGsに関する勉強会、他大学学生や地域活動団体等との多様な連携事業、ユネスコスクールを中心とした学習支援や子ども向けイベントの企画運営等に取り組んできた。また、東日本大震災をきっかけに、災害復興支援にも取り組んできた。東日本大震災で被災された岩手県陸前高田市へは毎年、陸前高田市文化遺産調査団として学生を派遣し、文化財保護調査および防災教育調査、教材開発を行ってきた。2018年に発生した西日本豪雨災害においては、その発災直後に災害復興支援ボランティアチームを立ち上げ、岡山県倉敷市および岡山市でのボランティア活動に13回、計64名の学生が参加した。

### II コロナ禍における災害復興支援の始まり

2020年7月に九州地方で豪雨が発生し、九州各地で甚大な被害をもたらした。今回は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、遠方からのボランティアの受け入れがなされず、人手不足に陥っていた。本団体も現地へボランティア活動に駆けつけることが出来ず、遠方からでも出来る支援がないかと、企画チームを立ち上げた。ユネスコスクールのネットワークから、学校が被災した大牟田市立みなと小学校と繋がることができ、ニーズ調査をし、まずはユネスコクラブ学生有志によるメッセージ動画の作成から取りかかった。



みなと小学校へのメッセージ動画

### III オンラインでの学習支援

みなと小学校の先生からのご提案で、オンラインでの学習支援を行うこととなった。新しく立ち上げられた「みなとESDすすめ隊！」の児童らと、Zoomを用いたオンライン交流を開始し、初回はユネスコクラブから奈良という地域について、クイズを交えながら紹介した。児童らが自分たちの身近な地域を題材に活動に取り組む際の、地域を見る視点の手助けとなるよう、紹介の仕方を工夫した。今後も継続したオンラインでの学習交流を予定している。

### IV まとめ

奈良教育大学ユネスコクラブは創設当初より継続的に災害復興支援に取り組んできた。令和2年7月豪雨で被災された大牟田市立みなと小学校へ、オンラインでの学習支援を開始した。現地で直接的に支援するだけでなく、遠方からでも出来る災害復興支援のあり方を見つけることが出来た。ユネスコスクール・ESDの繋がりを大切にして、今後も継続的に関わっていききたい。

## 探究活動促進のための教員データベース作成

### - 立命館守山高校 共創探究科の実践 -

水谷 深志・中條 岳青（立命館守山高等学校）

#### 1. 立命館守山における探究学習

本校は中高一貫校として6年間を見通した探究学習のストリームを構築している。特に高校では1年次に様々なトピックを基に思考力の向上を目指す

「Thinking Design」、2年次では文理に分かれて個別の探究テーマを設定して活動する「文社探究Ⅰ・理数探究Ⅰ」、3年次では2年次での取り組みを発展させた科目として、「文社探究Ⅱ・理数探究Ⅱ・グローバルAP<sup>\*1</sup>・サイエンスAP」を設定している。高校卒業時には12,000字のレポートや研究発表用のポスターなどを集大成として作成することとなっている。本年度は3年間の探究ストリームの完成年度であり、高校3年生の生徒たちがこれまでの成果をまとめるべく鋭意活動を進めている。

<sup>\*1</sup> : Advanced Placementの略。本校で独自に設定している高大連携授業のこと。

#### 2. 探究学習と教員データベース

生徒が探究活動を進める上で教員には伴走者としての役割が求められるが、生徒たちが設定する探究テーマは非常に多岐にわたり学外の専門家に協力を要請することも多い。その一方で、生徒にとって教員は最も身近な専門家であり相談を持ち掛けたいと考える生徒も多い。これを円滑に進めるために我々は中高教員合わせて105名分の専門領域や興味の対象などを調査し、ひとつにまとめた「教員データベース」の作成を行った。このデータベースを生徒に配信することで、生徒は学内で自分の掲げるテーマに近い専門性をもつ教員や理解を示して協力してくれそうな教員を探すことができる。教員は一社会人として生徒の依頼を状況に応じて受けることとなる。生徒にデータベースの配信を行ってから約1ヶ月が経過したが、既に多くの生徒がデータベースから情報を得て、教員に相談を持ち掛けている。

また、副次的効果として生徒のキャリア教育に対しても一定の影響を与えている。データベースを通じて教員の背景を知ることができ、進路選択をする際にどのようなことを考えて決断したのか？といった相談を持ち掛ける生徒もあり、想定していなかった価値と活用法が生まれつつある。

#### 3. まとめ

立命館守山では中高を通じた探究活動を学校全体で促進し、サポートするべく教員データベースを作成した。本来の目的に対する好影響に加えて、副次的な効果も感じている状況ではあるが、今後直接面識のない教員へ気軽にアポイントメントを取りに行けるような風土の醸成や、文理を問わずに活用しやすくするような指導、より見やすく検索性の高いデータベースへのアップデートなど継続的な改善が必要である。

## 関西創価高校の世界市民教育 —ユネスコスクールとして—

大月 昇（関西創価高等学校）

創造性豊かな世界市民育成のため、独自のプログラムを展開

関西創価高校は、第1回入学式で創立者池田大作先生が訴えられた「他人の不幸のうえに自分の幸福を築くことはしない」との平和の信条を根本に、世界の平和に貢献する「世界市民」の育成を目指し、「環境・開発・人権・平和」の4分野学習を中心に据えた「世界市民教育」を実践しています。

5年間のSGH（スーパーグローバルハイスクール）の経験を踏まえながら、ユネスコスクールとして、SDGsをはじめとする、国連が提起している地球的課題の解決を模索する、独自の探究活動を通して、「使命感」「共感力」「問題解決への創造力」を備えた、力ある「世界市民」の育成に取り組んでいます。

具体的なプログラムは、①全校生徒対象の探究型総合学習GRIT（Global Research & Inquiry Time）、②希望者を対象とした高度な内容の授業SP（SOKA Progress Class）、③主に1年生の希望者が対象の高大連携プログラムUP（University Partnership）クラス、④2・3年生から選抜した生徒を対象にオール・イングリッシュで発展的な探究活動を行うLC（Learning Cluster）からなります。

1・2年次で地球的課題に関する知見を広げ、表現力を磨きます。3年次では、GRITの集大成として学年模擬国連を開催し、合意形成の力を養成します。過去4回の模擬国連のテーマは、いずれもSDGsにつながるものになっています。

SGH期間は、SGH委員会が中心になって、各プログラムを企画してきましたが、SGH後の今年度からは「世界市民教育推進室」がその役目を担い、推進力となっています。また、GRITの実施内容を検討し、評価する「探究科」も設け、教育の質の向上を図っています。

さらに、ユネスコスクールの全世界に通じるネットワークは、世界市民教育を進める上で大きな糧になると考え、積極的に国内外の教育機関と連携していくことを計画しています。また、SDGsについては、GRITの枠にとどまらず、各教科でもカリキュラムに取り入れていくことを目指します。

新型コロナウイルス感染症の影響で、当初の予定から変更を余儀なくされたものも多くありましたが、今年度の取り組みの主眼となる〈My SDGs in Action!〉がいよいよ始まります。

地球的課題を「我が事」と捉え、その歩みは小さくともSDGs達成に向けた動きを自分から起こしていこうとの思いから、〈My SDGs in Action!〉を企画しました。ユネスコスクールの一員として、取り組む主体においても「誰も置き去りにしない」ことを目指します。



3年生全員による模擬国連を開催



## ユネスコスクールにおける地域連携教育とSDGsについて

中嶋 浩晶（和歌山県立橋本高等学校）

### I はじめに

本校は、平成 22 年に文部科学省の人権教育開発事業において研究指定校となったのをきっかけとして、平成 24 年度からボランティアの組織的な活動を試みた。それ以前のボランティア活動は、個人やクラブ単位で不定期に実施されていた。そこで、この研究指定を受け高校 2 学年全員が 1 日以上、市内の福祉施設や教育機関等においてボランティア活動を行うこととした。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止により、実施できなかったが、昨年度まで市内の福祉施設や教育機関等の協力で継続実施することができた。

平成 26 年には「ユネスコスクール」の登録を受け、それまで委員会仕立てであった国際教育を分掌内に位置づけ、「ふるさと教育」、「世界遺産教育」として地域についての理解を深めるとともに、清掃活動や語学部によるガイドなどを通して文化財への興味関心を高めることとした。

平成 30 年度には、本校でコミュニティスクール制度を導入したことにより、平成 24 年度以降に実施してきた施策を、E S D の理念に基づき地域と連携した教育としてコミュニティスクールの中に位置づけた。また、平成 31 年度から実施した「総合的な探究の時間」についても地域連携教育やユネスコスクールの中に位置づけていくこととした。

### II 実践内容

#### (1) 本校のボランティア活動について

- ・高校 2 学年のボランティア体験
- ・通年のボランティア活動とボランティアセンター、ボランティアBANK 設立
- ・地域の小中学校の連携と学習支援活動
- ・生徒会と各クラブのボランティア活動 など

#### (2) 国際交流について

- ・留学生の受け入れ、派遣と姉妹校（山東省済南中学）との交流

#### (3) 世界遺産教育について

- ・ふるさと学習（世界遺産教育）
- ・語学部の高野山ガイド

#### (4) 「総合的な探究の時間」について

- ・1 学年の橋本市との連携
- ・2 年次の和歌山大学との連携による SDG s



[高校 2 学年ボランティア体験]



[子ども食堂ボランティア]



## ESD for 2030にもとづいたESD・SDGsワークショップと コーチング

### ー ネットを使った社会人向け実践報告 ー

長岡 素彦（一般社団法人 地域連携プラットフォーム 共同代表理事）

2030持続可能な開発アジェンダ(SDGs)はその全体のアジェンダのタイトル”Transforming our world”(私たちは世界を変革する)にあるようにサステナブルトランスフォーメーションであり、共生(1)による持続可能な開発による地域・世界づくりである。(2)

第74回国連総会決議「持続可能な開発のための教育：SDGs達成に向けて(ESD for 2030)」(以下、「ESD for 2030」とする)ではトランスフォーミング(変革する行動)する学習者の重要性も述べられた。

このトランスフォーミング(変革する行動)する学習者はSDGsチェンジエージェントである。SDGsチェンジエージェントは、環境、経済、社会の新たなトランスフォーメーションをすすめる「システム」のチェンジエージェント(変革の担い手)(3)であり、同時に、ひとりひとりが学びによって自身の行動、態度、ライフスタイルからトランスフォーメーションをすすめる「個人」としてのチェンジエージェント(変革の担い手)(4)の両方である。このことにより、システム・社会と個人のそれぞれのSDGsトランスフォーメーションをすすめることができる。そして、ESD for 2030の4.3において、このトランスフォーミング(変革する行動)としての学習プロセスが明示されている。

今まで、DESD期間中はESDワークショップを多数企画実施し、SDGs策定後はSDGsワークショップを行っている。(5)、また、これらのワークショップを考案、実施し、ワークショップを学的に分析し、改良(6)している。

今年度は、ESD for 2030のトランスフォーミング(変革する行動)としての学習プロセスにもとづいたESD・SDGsワークショップとコーチングを多数展開した。

#### 註

(1)長岡素彦, 2018, SDGs・持続可能な共生をすすめる ESD・地域連携教育, 共生科学第9巻

(2)長岡素彦, 2020, SDGsロードマップ -2030アジェンダ・SDGs によるトランスフォーム, 武蔵野大学環境研究所紀要 9

(3)長岡素彦, 2019, SDGsとSociety5.0の時代のESDと新たなシチズンシップーESDとしてのSDGsー, 日本ESD学会大会

(4)長岡素彦, 2020, ESD for 2030持続可能な開発アジェンダとMIL、デジタルシチズンシップー科学技術イノベーション型の教育からESD for 2030への転換, メディア情報リテラシー研究, 第2巻第1号, 法政大学

(5)長岡素彦, 2018, ESDとしてのSDGsワークショップー目的別のワークショップ「持続可能な未来」, 日本ESD学会大会

(6)長岡素彦他, 2019, 2030アジェンダ・SDGsを理解し, 自分事化するためのワークショップの実践ー6つの事例と自分事化のフェーズ, 武蔵野大学環境研究所紀要 8

## 使命感と成就感を大切にした国語科×総合の単元開発

中谷 栄作（橋本市立あやの台小学校）

### I なんぞ勉強せなあかんの

いつの時代も子どもたちからのこの「ぜいたくな問いかけ」はなくなりません。教員11年目にしても、未だに感じます。この問いかけに答えることなくして、私たち教員は教鞭をとることはできないのではないのでしょうか。

### Ⅱ なんぞそこまでやらなあかんの

私はESDの推進に努めています。総合的な学習の時間を軸にしたカリキュラムマネジメントを行うことで、子どもたちが1つのテーマの元に収斂された学びを享受しつつ、多様な価値観を創出、醸成していけるような学校教育の実現を目指しています。その効果については評価と納得をいただく一方で、そこまで手間をかけることによって働き方改革とは逆行した流れを生み出しているのではないかという指摘もあります。

### Ⅲ PBLの実践から

そこで、PBLの実践を参考に、子どもたちが本気になれるようなミッションをつくり、それに向かう中で教科教育の目標を達成していく単元作りを行いました。例えば「ミツバチの絵を描いて植樹活動に貢献しよう」であれば、ミツバチを探して自然の豊かなミツバチの好む場所について知ったり、その特性や環境への寄与について調べたりしたうえで、絵に描いて応募をしました。みんなに伝える、賞をとる、という目的達成のためにがんばる内に、図工科の目的も達成していく、ということです。これであれば大きな負担増なしに子どもたちの学びを活性化させることができます。

### Ⅳ 使命感と達成感をシェアすることが重要

ただPBLの考え方を取り入れるだけでは、育つ資質能力について共通点はあれど、子どもたちに示す学びの方向性としてはばらけてしまいます。今回は5年生で環境をテーマに1年間実践を行っているので、国語科「」の単元において、環境をテーマにミッションを立て、子どもたちに課題を与えました。全6時間の単元で、最後に審査を関係教員によって行ってもらい、グランプリまで決めています。全員審査を通過できれば、自分たちが手に入れたいある資格に認定してもらえるのだから、真剣に頑張らねばならない。そんな使命感を共有した仲間となれば、教え合いも活発になります。そこで得た成就感が共有できれば、次の活動に向けての意欲にもつながります。そして1年間同じジャンルのテーマについて学ぶことを繰り返していくうちに、勉強する理由は自己実現のためであることが見えてくるのです。教科によって分断されないカリキュラムデザインについて今回提案させていただきます。

## 概念変化に伴う価値観の変容

河野 晋也（大分大学教育学研究科）

### I はじめに

Education2030プロジェクトにおけるポジション・ペーパーにおいて、「コンピテンシーの概念は、単なる知識及びスキルの獲得以上のものであり、複雑な要求に応えるために知識やスキル、態度及び価値を動員することを含む」ものとされ、それらの相互関係について言及されている。協調的学習によって構築された知識は、スキルを働かせることによって活用され、また態度や価値観によって媒介されるものである。つまり価値観の変容には知識の構築が伴い、また価値観が知識の構築を促進するということである。

### II 参加メタファの学び

参加とはレイヴとウェンガー(1993)の正統的周辺参加を代表とする状況的学習論の視点に立った学習理論における学習者の役割のことであり、「役割を担うこと」「一部を担うこと」と同義である。参加メタファの学習に取り組むことで、学習者は、既存の知識を活用しつつ新たな知識の構築へ加担していくことになる。知識の構築については、上述のポジション・ペーパーにおいても、「他者との協力と共同により既存の知識から新しい知識を生み出すことを通して」価値の創造がなされると述べられており、知識の構築による価値観の変容は今後のESDにおいて重要なテーマとなりうる。

実際に、レイヴとウェンガーは、実践共同体の取り組みに参加することで、十全的参加、すなわち「共同体において中心的役割を担い、『一人前』としてのアイデンティティの感覚を得ること」に至ると述べる。実践に参加するということは、その共同体において重視されていること、優れているとされていること、善いとされていることを学んでいく価値観に関わる学びである。つまり実践共同体に属して行われる知識の構築は、その共同体が重視する価値観に左右されるということが出来る。その共同体内で、それまでにはできなかった知識を構築することができるということは、学習者の価値観が変容したと見なすことができる。

### III 知識の構築が起こる仕組み

このように捉えれば、価値観の変容は知識の構築がなされるたび、実践のたびに新たな価値観を獲得することになってしまう。しかし実社会において、価値観の変容はそれほど頻繁に起きるものではない。このことを、断片的知識論を援用することで論じる。断片的知識論においては、知識の断片は無数に存在するが、実際に何かの課題や必要に際して、どんな断片的知識を呼び出すか、そして呼び出した知識を活用するかどうかは、それぞれの学習者の経験に基づく優先度に支配されているとされる。そのため知識の構築は容易に起きるものではない。この結びつき方は、価値観に大いに干渉されると考えられる。このように考えれば、ESDにおける価値観の変容は、どのように知識を構築しなおすかという再構成の過程で可能になると言うことができる。

令和2年度文部科学省委託事業「ユネスコ未来共創プラットフォーム事業」

# ユネスコスクール オンライン近畿地方大会

主催：文部科学省 日本ユネスコ国内委員会 奈良教育大学 近畿ESDコンソーシアム  
共催：日本ESD学会 第4回 近畿地方研究会実行委員会  
後援：ESD活動支援センター 近畿地方ESD活動支援センター

すべてZoomを使用します。  
参加無料！

プレ大会：11月1日（日）・8日（日） 10時00分～16時30分

本日最終演目 ESD講演会

With コロナ時代のESD・学校教育

2020年11月1日  
ESD, SDGs推進する研究室長 手島利夫

令和2年度文部科学省委託事業「ユネスコ未来共創プラットフォーム事業」

# ユネスコスクール オンライン近畿地方大会

主催：文部科学省 日本ユネスコ国内委員会 奈良教育大学 近畿ESDコンソーシアム  
共催：日本ESD学会 第4回 近畿地方研究会実行委員会  
後援：ESD活動支援センター 近畿地方ESD活動支援センター

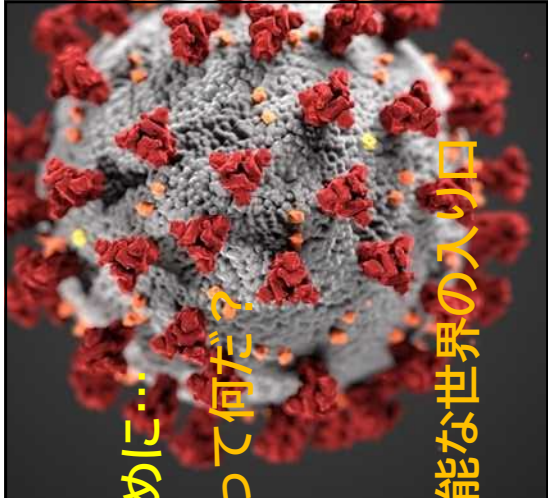
すべてZoomを使用します。  
参加無料！

8日（日） 10時00分～16時30分

本日最終演目 ESD講演会

With コロナ時代のESD・学校教育

2020年11月1日  
ESD, SDGs推進する研究室長 手島利夫



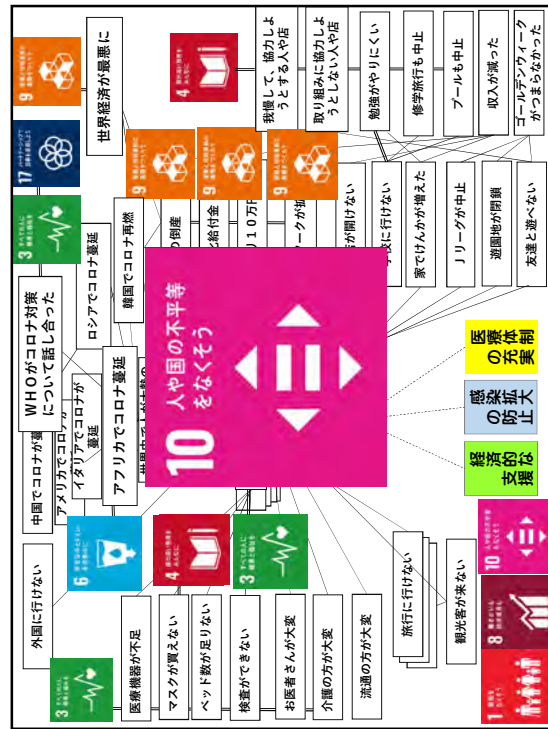
まずはじめに…  
コロナ禍って何だ？  
持続不可能な世界の入り口

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



2030年までに達成すべきゴールがあると同時に…





コロナの感染拡大  
 感染予防→交通封鎖→経済の停滞→  
 倒産・廃業の増加  
 病気で死ぬか、経済で死ぬか  
 コロナに目を奪われ、資金を奪われて、  
 他への対応ができなくなり…、で終わるか



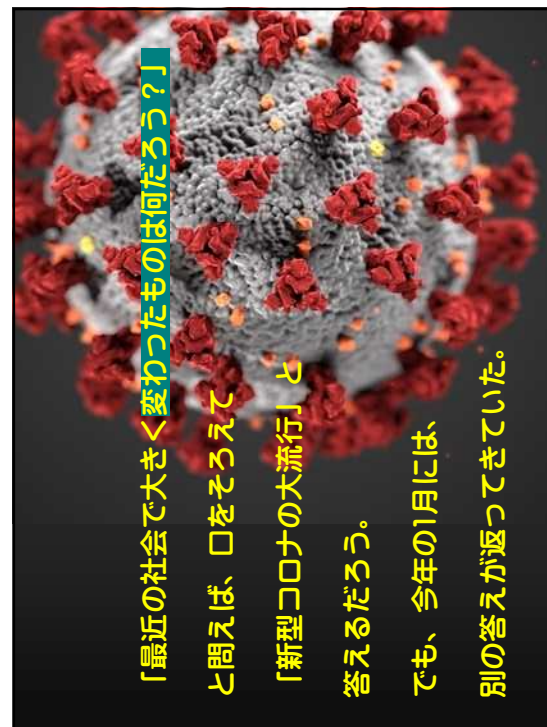


10:20

①変わりゆく**時代の変化**に合わせて、子どもたちの学びも変わっていく

②学習指導要領が改訂された・・・**学びを進化させる**

③保護者・地域の方も一緒に加わって、社会全体で応援してほしい・・・**社会に開かれた教育課程**



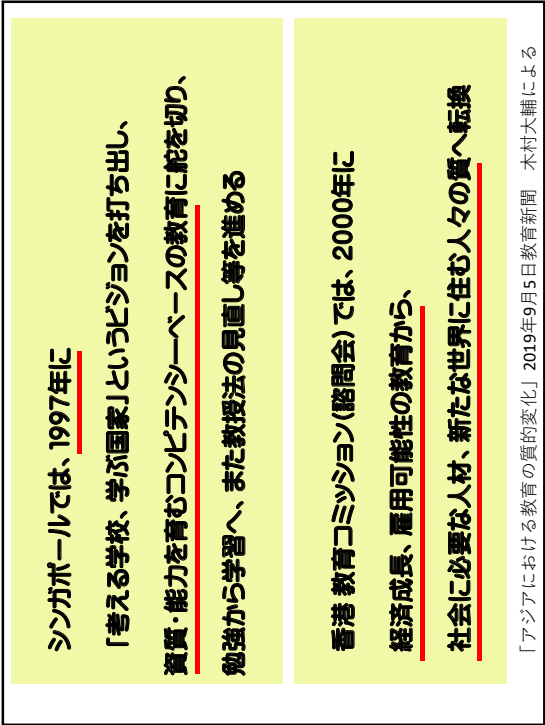
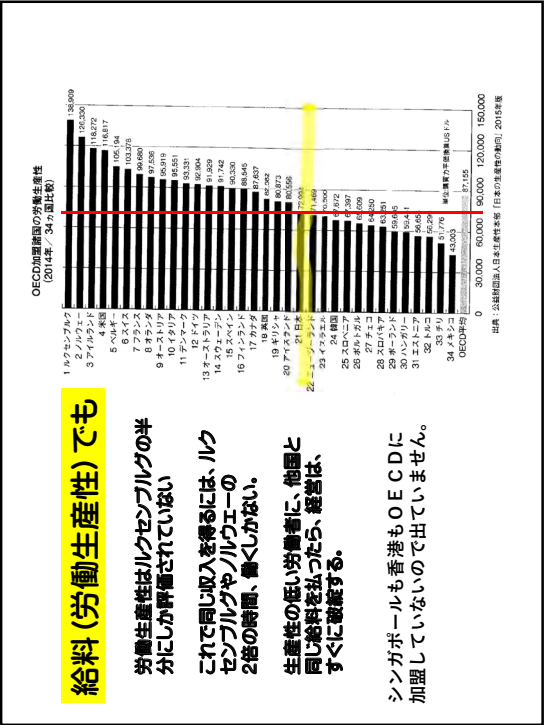
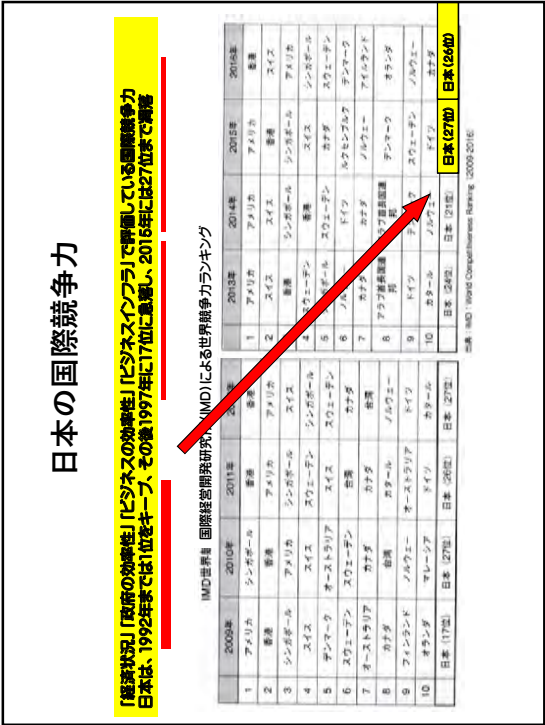
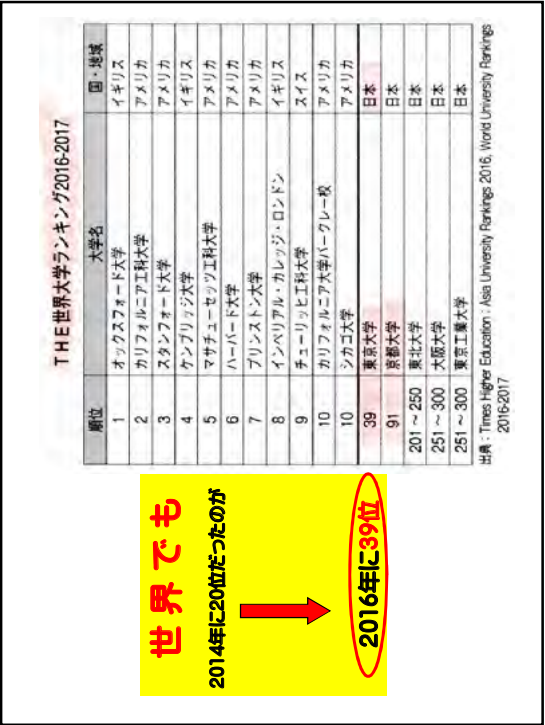
情報化の進展

スマホの便利な点を5つ挙げてください。  
SNSが使える。動画見放題、スイカにもなる  
情報で世界を瞬時に駆け巡り、世界を変える  
・ **どんな知識も瞬時に取り出せる魔法の機械ですね。**  
・ **世界の50億人の知脳がつながり、情報の共有が広がる。**











10:20

①変わりゆく**時代の変化**に合わせて、子どもたちの学びも変わっていく

②学習指導要領が改訂された・**学びを進化させる**

③保護者・地域の方も一緒に加わって、社会全体で応援してほしい・**社会に開かれた教育課程**

このような現実を前に、日本の**学校教育**を変えたら、**どのように変えていく**必要があるのでしょうか。

これからの時代に皆さんが重要だと思う教育上のキーワードを書いてください。

日本としての教育政策のお話です

今回の改訂では、**学習指導要領に前文**がつけました。  
法令に前文が**加えられる**って、滅多にありません。  
今回の学習指導要領には、これが書き加えられたのです。  
改訂の「**理念**」を特に強調するためのものです。

学習指導要領の前文や総則からは、これからの世界に向けた**教育理念(前文)**や**具体策(総則)**が見えてきます。  
日本の教育施策の中に、どのような理念や具体策が書かれているか、確かめましょう。



に、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各学校において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。

教育課程を通して、これからの時代に求められる教育を実現していくためには、よりよい学校教育を通して、よりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという、社会に開かれた教育課程の実現が重要となる。

学習指導要領とは、**こうした理念の実現に向けて必要となる教育課程の基準を大綱的に定めるものである**。学習指導要領が果たす役割の一つは、公の性質を有する学校における教育水準を全国的に確保することである。また、各学校がその特色を生かして創意工夫を重ね、長年にわたって積み重ねられてきた教育実践や学術研究の蓄積を生かしながら、児童や地域の現状や課題を捉え、家庭や地域社会と協力して、学習指導要領を踏まえた教育活動の更なる充実を図っていくことも重要である。

児童が学ぶことの意義を実感できる環境を整え、一人一人の資質・能力を伸ばせるようにしていくことは、教職員をはじめとする学校関係者はもとより、家庭や地域の人々も含め、様々な立場から児童や学校に関わる全ての大人に期待される役割である。幼児期の教育の基礎の上に、中学校以降の教育や生涯にわたる学習とのつながりを見通しながら、児童の学習の在り方を展望していくために広く活用されるものとなることを期待して、ここに小学校学習指導要領を定める。

**英語教育もギガ・スクールも、プログラミングも書かれていません！理念ではないからですね。**

これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各学校において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。

教育課程を通して、これからの時代に求められる教育を実現していくためには、よりよい学校教育を通して、よりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという、社会に開かれた教育課程の実現が重要となる。

学習指導要領とは、**こうした理念の実現に向けて必要となる教育課程の基準を大綱的に定めるものである**。学習指導要領が果たす役割の一つは、公の性質を有する学校における教育水準を全国的に確保することである。また、各学校がその特色を生かして創意工夫を重ね、長年にわたって積み重ねられてきた教育実践や学術研究の蓄積を生かしながら、児童や地域の現状や課題を捉え、家庭や地域社会と協力して、学習指導要領を踏まえた教育活動の更なる充実を図っていくことも重要である。

児童が学ぶことの意義を実感できる環境を整え、一人一人の資質・能力を伸ばせるようにしていくことは、教職員をはじめとする学校関係者はもとより、家庭や地域の人々も含め、様々な立場から児童や学校に関わる全ての大人に期待される役割である。幼児期の教育の基礎の上に、中学校以降の教育や生涯にわたる学習とのつながりを見通しながら、児童の学習の在り方を展望していくために広く活用されるものとなることを期待して、ここに小学校学習指導要領を定める。

これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各学校において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。

教育課程を通して、これからの時代に求められる教育を実現していくためには、よりよい学校教育を通して、よりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという、社会に開かれた教育課程の実現が重要となる。

学習指導要領とは、こうした理念の実現に向けて必要となる教育課程の基準を大綱的に定めるものである。学習指導要領が果たす役割の一つは、公の性質を有する学校における教育水準を全国的に確保することである。また、各学校がその特色を生かして創意工夫を重ね、長年にわたって積み重ねられてきた教育実践や学術研究の蓄積を生かしながら、児童や地域の現状や課題を捉え、家庭や地域社会と協力して、学習指導要領を踏まえた教育活動の更なる充実を図っていくことも重要である。

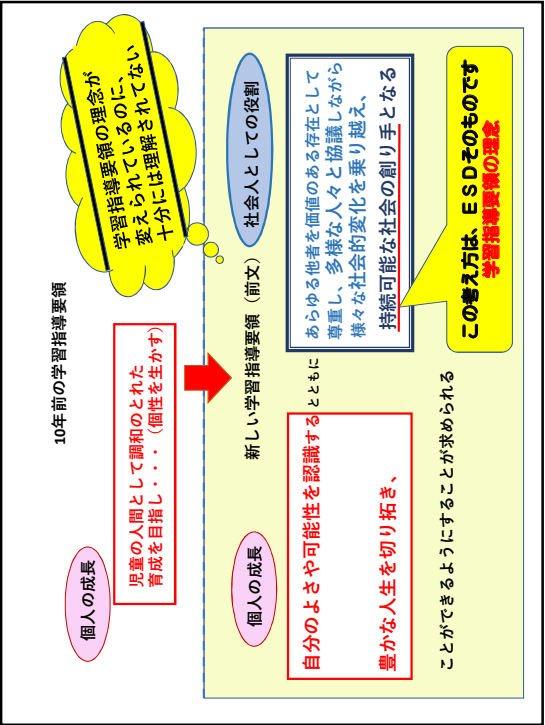
児童が学ぶことの意義を実感できる環境を整え、一人一人の資質・能力を伸ばせるようにしていくことは、教職員をはじめとする学校関係者はもとより、家庭や地域の人々も含め、様々な立場から児童や学校に関わる全ての大人に期待される役割である。幼児期の教育の基礎の上に、中学校以降の教育や生涯にわたる学習とのつながりを見通しながら、児童の学習の在り方を展望していくために広く活用されるものとなることを期待して、ここに小学校学習指導要領を定める。

これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。このために必要な教育の在り方を具体化するのが、各学校において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。

教育課程を通して、これからの時代に求められる教育を実現していくためには、よりよい学校教育を通して、よりよい社会を創るという理念を学校と社会とが共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという、社会に開かれた教育課程の実現が重要となる。

学習指導要領とは、こうした理念の実現に向けて必要となる教育課程の基準を大綱的に定めるものである。学習指導要領が果たす役割の一つは、公の性質を有する学校における教育水準を全国的に確保することである。また、各学校がその特色を生かして創意工夫を重ね、長年にわたって積み重ねられてきた教育実践や学術研究の蓄積を生かしながら、児童や地域の現状や課題を捉え、家庭や地域社会と協力して、学習指導要領を踏まえた教育活動の更なる充実を図っていくことも重要である。

児童が学ぶことの意義を実感できる環境を整え、一人一人の資質・能力を伸ばせるようにしていくことは、教職員をはじめとする学校関係者はもとより、家庭や地域の人々も含め、様々な立場から児童や学校に関わる全ての大人に期待される役割である。幼児期の教育の基礎の上に、中学校以降の教育や生涯にわたる学習とのつながりを見通しながら、児童の学習の在り方を展望していくために広く活用されるものとなることを期待して、ここに小学校学習指導要領を定める。



学習指導要領総則

**教育課程の編成において**  
(総則 第1の4 第2の1.2.3.4)

**ここには、どんな要素が入るのでしょうか？**

**教育課程の実施において**  
(総則 第1の2、第3の1)

**ここにも、どんな要素が入るのでしょうか？**

第1章 総則

第1 小学校教育の基本と教育課程の役割

1 各学校においては、教育基本法及び学校教育法その他の法令並びにこの章以下に示すところに従い、児童の人間として調和のとれた育成を目指し、児童の心身の発達段階や特性及び学校や地域の実態を十分考慮して、適切な教育課程を編成する。

4 各学校においては、児童や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）に努めるものとする。

第2 教育課程の編成

1 各学校の教育目標と教育課程の編成

教育課程の編成に当たっては、学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ、各学校の教育目標を明確にするとともに、教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるよう努めるものとする。その際、第5章総合的な学習の時間の第2の1に基づき定められる目標との関連を図るものとする。

2 教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成

(1) 各学校においては、児童の発達の段階を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。

(2) 各学校においては、児童や学校、地域の実態及び児童の発達の段階を考慮し、豊かな人生の実現や災害等を乗り越えて次代の社会を形成することに向けた現代的な課題に対応して求められる資質・能力を、教科等横断的な視点で育成していくことができるよう、各学校の特色を生かした教育課程の編成を図るものとする。

指導要領総則

2020年度から始まっているのに、各校の教育課程にほとんど書かれてない！

今までのように教科中心の指導で終わっていいけないのです！

総合的な学習の時間の目標と関連を図り  
 ①教科横断的に学ぶ  
 (カリキュラム・マネジメント)

教育課程の実施において  
 (総則 第1の2、第3の1)

学習指導要領総則

2020年度から始まっているのに、各校の教育課程にほとんど書かれてない！

総合的な学習の時間の目標と関連を図り  
 ①教科横断的に学ぶ  
 (カリキュラム・マネジメント)

教育課程の実施において  
 (総則 第1の2、第3の1)

②主体的・対話的で深い学び  
 に向けた、単元を通じた授業改善  
 《探究的な学び》を通して  
 思考力・判断力・表現力、学びに向かう力や人間性

第3 教育課程の実施と学習評価

1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善  
 各教科等の指導に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(1) 第1の3の(1)から(3)までに示すことが偏りなく実現されるよう、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら、児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと。

特に、各教科等において身に付けた知識及び技能を活用したり、思考力・判断力、表現力等や学びに向かう力、人間性等を養わせたりして、学習の対象となる物事を捉える思考することにより、各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（以下「見方・考え方」という。）が鍛えられていくことと留意し、児童が各教科等の特質に応じた見方・考え方を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かい、過程を重視した学習の充実を図ること。

(2) 第2の2の(1)に示す言語能力の育成を図るため、各学校において必要な言語環境を整えるとともに、国語科を要として各教科等の特質に応じて、児童の言語活動を充実すること。あわせて、(7)に示すとおり読書活動を充実すること。

日本の学校教育が  
 学習指導要領  
 大要

「こういう授業を上手に  
 できる教師に、出会っ  
 ことがありませんか？」  
 という授業を上手に  
 言われて、すぐにできる日本  
 の先生は、ほとんど皆無？  
 どうするの！？

日本の学校教育が  
 学習指導要領  
 大要

教育課程の実施において  
 (総則 第1の2、第3の1)

②主体的・対話的で深い学び  
 に向けた、単元を通じた授業改善  
 《探究的な学び》を通して  
 思考力・判断力・表現力、学

日本の学校教育が  
 学習指導要領  
 大要

それでも、これらの課題に取り組みようとしている学校は、  
どれくらいあるのでしょうか。  
皆さんの学校では、これらの理念や方針をどのように捉え、  
具体化しようとして、しているでしょうか。

「各校の教員が、授業計画やグラントデザインをおい検査じゃ〜!!!」

これから試案を使って、現場検証をはじめます!!!

検査キットの主成分とその構成

主體的・対話的で深い学びの実現

学び方

対話的

主体的

改善

対話的

主体的

深い学び

対話的

主体的

探究的な学習過程

対話的

主体的

主體的・対話的で深い学びの実現

改善

深い学び

探究的な学習過程

主體的・対話的で深い学びの実現

改善

深い学び

探究的な学習過程

学習指導要領の理念や、編成及び実施の要点 検査キット

学習指導要領の本文

教育理念のキーワード

持続可能な社会の創り手等の育成など、教育目標に關するキーワード

カリキュラム・マネジメントによる教育課程の編成に關するキーワード

学習指導要領の記述

教育課程の編成に關するキーワード

カリキュラム・マネジメントによる教育課程の編成に關するキーワード

カリキュラム・マネジメントによる教育課程の編成に關するキーワード

カリキュラム・マネジメントによる教育課程の編成に關するキーワード

カリキュラム・マネジメントによる教育課程の編成に關するキーワード

カリキュラム・マネジメントによる教育課程の編成に關するキーワード

学習指導要領の理念や教育課程編成の指針を踏まえた学校づくり

学習指導要領の本文

教育理念のキーワード

持続可能な社会の創り手等の育成など、教育目標に關するキーワード

カリキュラム・マネジメントによる教育課程の編成に關するキーワード

学習指導要領の記述

教育課程の編成に關するキーワード

カリキュラム・マネジメントによる教育課程の編成に關するキーワード

カリキュラム・マネジメントによる教育課程の編成に關するキーワード

カリキュラム・マネジメントによる教育課程の編成に關するキーワード

カリキュラム・マネジメントによる教育課程の編成に關するキーワード

カリキュラム・マネジメントによる教育課程の編成に關するキーワード

— 63 —



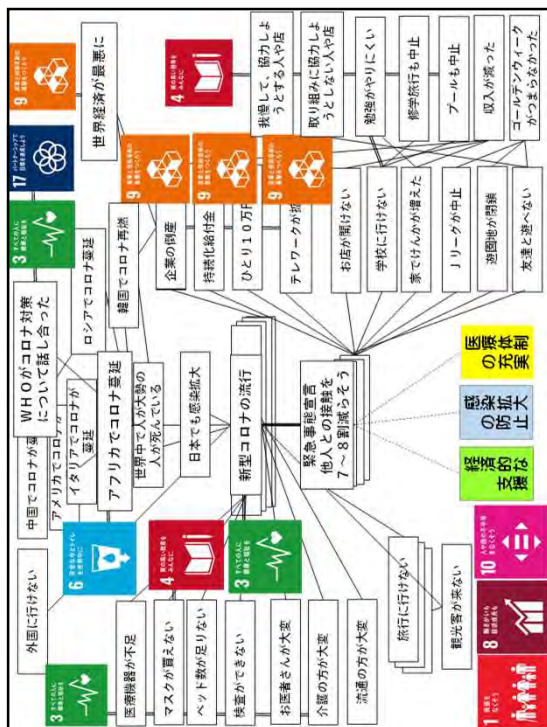
[illegible]

2020年10月現在の中学校の状況ですぞ！

[illegible]

昔は、教科の内容を教えるだけで良かったのに、  
どうしてカリキュラム・マネジメントなど  
いうことが、求められるようになったのでしょうか。





でも、日本の学校でカリキュラム・マネジメントがきちんと理解されていない！

「マネジメント」という言葉が災いして、

「働き方改革」や「業務の効率化」だと、間違えた解説のために、

教育的価値のないものと見なされ、各校で取り上げられていないから と思います。

働き方改革に取り組んだって、子どもたちが賢くなるわけではありません。

本当は、

「カリキュラムをマネジメントすること」  
なので。

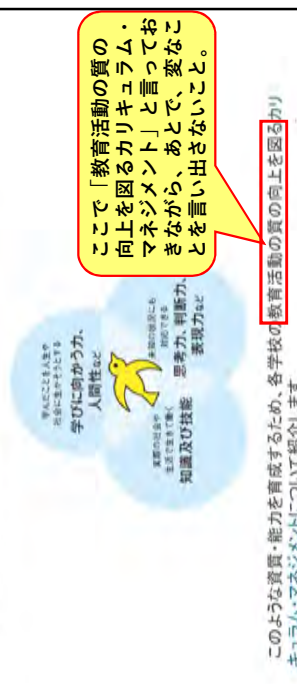
…総合的な学習を教科横断的に計画し、進めることです。

カリキュラム・マネジメントの本質についての手島の考え

文部科学省学習指導要領解説  
「学習指導要領のくわしい内容」・・・カリキュラム・マネジメントより

## 新しい学習指導要領で目指すこと

新しい学習指導要領では、育成を目指す資質・能力を3つの柱で整理しました。



このような資質・能力を育成するため、各学校の教育活動の質の向上を図るカリキュラム・マネジメントについて紹介します

文部科学省学習指導要領解説

「学習指導要領のくわしい内容」・・・カリキュラム・マネジメントより

## 基本の考え方

カリキュラム・マネジメントとは

「教育課程を中心に」教育課程をつくるのかな？

「社会に開かれた教育課程」の理念の実現に向けて、学校教育に関わる様々な取組を、**教育課程を中心に**据えながら、組織的かつ計画的に実施し、教育活動の質の向上につなげていくこと

何をどうやるのか、伝わってきませんね。本当は、**総合的な学習の時間を中心に、教科等横断的に学びを関連づけた教育課程を創ること**が重要なのです。

文部科学省学習指導要領解説  
「学習指導要領のくわしい内容」・・・カリキュラム・マネジメントより

カリキュラム・マネジメントの3つの側面

これは側面で  
はなく、  
中心課題です。

教師が連携し、複数の教科等の  
連携を図りながら授業をつくる

学校教育の効果を常に検証  
して改善する

地域と連携し、よりよい  
学校教育を目指す

文部科学省学習指導要領解説  
「学習指導要領のくわしい内容」・・・カリキュラム・マネジメントより

大切にすること

各学校のカリキュラム・マネジメントを充実させること  
は、新たな取組を追加することではありません。

カリキュラム・マネジメントは今回の学習指導要  
領に加えた、最大の新たな視点です。「寝ぼけた解  
説」をするから、各学校が本気にならないのです。

学校の様々な業務の効率化を図ることにより、カリ  
キュラム・マネジメントの充実につなげていきます。

学校の業務を効率化させたいのなら、行政からの依頼や調査を  
減らすのが効果的です。カリキュラムをマネジメントするの！

カリキュラムをマネジメント  
するということは、

従来の、教科・領域ごとに  
指導してきた内容を

各教科  
特別活動  
特別の教科連携  
外国語  
生活科  
総合的な学習の時間

つながりで  
学ぶ

深い学び  
を創ること

第6学年 「未来にはばたけ」 学習カレンダー

江東区立八名川小学校

| 教科領域      | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|-----------|----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|
| 国語        |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 算数        |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 理科        |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 社会        |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 総合        |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 道徳        |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 体育        |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 芸術        |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 家庭        |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 特別活動      |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 特別の教科連携   |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 外国語       |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 生活科       |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |
| 総合的な学習の時間 |    |    |    |    |     |     |     |    |    |    |

カリキュラム・  
マネジメント

従来の教科分断的な  
発想から、教科横断  
的な発想への飛躍が  
必要！

① SDGsの視点、  
自分自身について  
考える

② 戦争中  
の生活や  
今と違う  
価値観を  
知る

③ 未来の夢に  
ついて  
自分自身  
を語る

④ 自分自身  
の進路を  
考える

⑤ 自分自身  
の進路を  
考える

⑥ 自分自身  
の進路を  
考える

⑦ 自分自身  
の進路を  
考える

⑧ 自分自身  
の進路を  
考える

⑨ 自分自身  
の進路を  
考える

⑩ 自分自身  
の進路を  
考える

⑪ 自分自身  
の進路を  
考える

⑫ 自分自身  
の進路を  
考える

⑬ 自分自身  
の進路を  
考える

⑭ 自分自身  
の進路を  
考える

⑮ 自分自身  
の進路を  
考える

⑯ 自分自身  
の進路を  
考える

⑰ 自分自身  
の進路を  
考える

⑱ 自分自身  
の進路を  
考える

⑲ 自分自身  
の進路を  
考える

⑳ 自分自身  
の進路を  
考える

㉑ 自分自身  
の進路を  
考える

㉒ 自分自身  
の進路を  
考える

㉓ 自分自身  
の進路を  
考える

㉔ 自分自身  
の進路を  
考える

㉕ 自分自身  
の進路を  
考える

㉖ 自分自身  
の進路を  
考える

㉗ 自分自身  
の進路を  
考える

㉘ 自分自身  
の進路を  
考える

㉙ 自分自身  
の進路を  
考える

㉚ 自分自身  
の進路を  
考える

㉛ 自分自身  
の進路を  
考える

㉜ 自分自身  
の進路を  
考える

㉝ 自分自身  
の進路を  
考える

㉞ 自分自身  
の進路を  
考える

㉟ 自分自身  
の進路を  
考える

㊱ 自分自身  
の進路を  
考える

㊲ 自分自身  
の進路を  
考える

㊳ 自分自身  
の進路を  
考える

㊴ 自分自身  
の進路を  
考える

㊵ 自分自身  
の進路を  
考える

㊶ 自分自身  
の進路を  
考える

㊷ 自分自身  
の進路を  
考える

㊸ 自分自身  
の進路を  
考える

㊹ 自分自身  
の進路を  
考える

㊺ 自分自身  
の進路を  
考える

㊻ 自分自身  
の進路を  
考える

㊼ 自分自身  
の進路を  
考える

㊽ 自分自身  
の進路を  
考える

㊾ 自分自身  
の進路を  
考える

㊿ 自分自身  
の進路を  
考える

— 66 —





平成26年10月8日 参议院予算委員会にて（NHK国会中継画面より）



文部科学大臣  
下村博文



文部科学大臣  
下村博文

持続可能な開発のための教育を視野に、ESDカレンダーの活用をしてはどうか。

江東区立八名川小学校の取り組みについては承知している。ESDカレンダーは、ユネスコスクールだけでなく全国の学校教育に広めていきたい。

これがカリキュラム・マネジメントとして、指導要領に示されていく。でも、へたくそな命名！  
(公明党荒木参議院議員)

◎主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、生きる力を育むことを目指す。

基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用

思考力・判断力・表現力等の育成

主体的学習態度や多様な人々との協働

豊かな心や創造性の涵養

学びに向かう力、人間性等

学習規律

ベシックドリル

などが、どうしたら自然に身についてくるのか。詰め込み教育をすると主体性も、豊かな心も育ちににくい。別々にやろうとしても時間ばかりかかる！だから

ESDカレンダーを工夫して、その中で学習をなげかりキュラム・マネジメントすること、活用能力を高める。

問題解決的な学習過程を重視して、その中に、対話的な協働場面を位置づけることで問題解決能力を高める。

主体的・対話的な学習過程

【学びに火をつける】

【調べる】

【まとめる・実行する】

【伝え合う】

1. 出会う

2. 気付き

3. 問題意識をもつ

1) 体験活動や探究をとおして基本的な事実や出会う

2) 体験した事実や資料等をつづきや感想や感情を共有する

3) 教師が提示したり、子どもが調べたりして出合った矛盾する事実や意識をつづきや資料等から疑問を感じ、書き出す

4) グループや学級全体で疑問を出し合い、分類・整理してまとめ、学習問題をつくる

5) 問題について、自分なりの予想をする

親しみ・憧れ・共感

それらをひっくり返す

疑問から学習問題へ

『こどもの学びに火をつける』際の3つのステップ

1

2

3

＜問題に気づかせる＞

＜火をつける＞

＜テーマを決める＞

1) 体験活動や提示資料をもとに基本的な事実と出会う

2) 体験したり資料を見たりしたこと、多様な気づきや感想などをもち、それを共有する

3) 教師が提示したり、子どもが調べたりして出合った矛盾する事実や意識をつづきや資料等から疑問を感じ、書き出す

4) グループや学級全体で疑問を出し合い、分類・整理してまとめ、学習問題をつくる

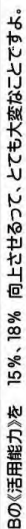
5) 問題について、自分なりの予想をする

親しみ・憧れ・共感

それらをひっくり返す

疑問から学習問題へ

1年や2年で結果は出ませんでした。でも、結果が始めると、雪だるま式に向上します。



H25全国学力・学習状況調査(小学校6年生)

\*「1」当てはまる。「2」どちらかといえば、当てはまる。」

「3 どちらかといえば、当てはまらない」「4 当てはまらない」



## H25全国学力・学習状況調査(中学校3年生)

\*「1 当てはまる」「2 どちらかといえば、当てはまる」

「3 どちらかといえば、当てはまらない」「4 当てはまらない」

## 趣旨に即した活動に取り組む

7ポイント



## H29 全国学力·学習状況調査(中学校3年生)

「1」当てはまる」「2」どちらかといえば、当てはまる」

「3 どちらかといえば、当てはまらない」「4 当てはまらない」

1000000





学力以外での児童の変化

① 学習全般に対する積極性が高まる

② 子ども同士の人間関係が穏やかになる

③ 誰の意見に対しても尊重し、聞き合えるようになる

④ 大人に対する信頼感が高まる

⑤ どの学年もプレゼン能力が飛躍的に高まる

⑥ 全校集会など、児童の活動が主体的になり、質も向上

⑦ 高学年が頼りになる

意欲

信頼

信頼

信頼

表現力

主体性

自覚

教員の変化、保護者や地域の変化

① 子どもを怒鳴りつけるような指導が影を潜め、

② 子どもの学びに火をつける工夫をしようとする

③ 的確な指示・説明や称揚が増える

④ 前年までの指導を共有・改善し、授業を進化させる

⑤ この学校で働けることに誇りと喜びを感じる

⑥ 保護者アンケートが感謝の言葉で始まるようになった

⑦ 保護者・地域は参観から参画へ、そして協力者へ

指導力の向上意欲

指導法の改善

指導力の向上意欲

カリキュラム・マネジメント

開かれた教育課程づくりへ

校長として気をつけていたこと

① 学校の最終責任者は校長（問題から逃げない）

② 自分と異なる意見の教員の声にこそ耳を傾ける

③ 教師を委縮させるような指導をしない

④ 教育課程全てを職員とともにESDの視点で見直す

⑤ (児童)SDGsまつり・(職員)ESD実践交流会の継続

⑥ 職員に名刺を作って持たせる(開かれた学校の基本)

⑦ 学校とESDの営業に徹する

第7回八名川まつり発表内容

令和元年の八名川まつりESDハワーアップ交流金は、  
10月19日（土）、児童の発表内容・研究交流の模様等は、  
江東区立八名川小学校ホームページからご確認ください。

1年 秋のおもちゃの店  
ドングリやまつぼっくりで楽しもう

2年 うごくおもちゃしゅう合  
ゴムで、風で、坂道で……いっしょにあそぼ！

3年 八名川タイムトラベル  
町の足跡や道員を調べて驚きます。

4年 やさしきハワーアップ大作戦  
妊婦さん・外国人・お年寄り……

5年 今やろう！  
地獄から身を守る備えを！  
保護者や地域の方と備えを語る

6年 未来にはばばだけ！  
～小学校卒業研究～  
キャリアの視点から卒業設計と学び方を語る



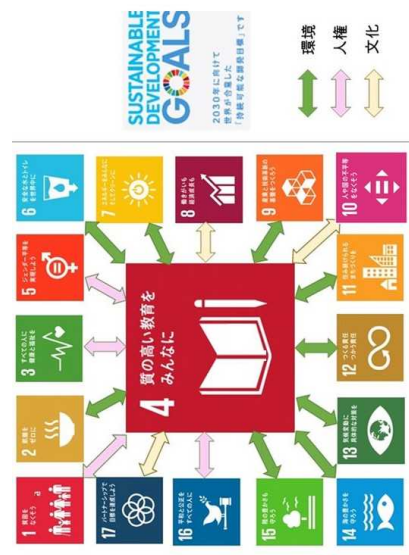
— 70 —

八名川まっりのような  
「全校児童（生徒）による **E S D 学習発表会プレゼンまつり**」  
をすることの価値

- ① 一人一人の子どもが、「大人から子どもまで様々な世代の方に向かって、自分の学びを、何回も語る。」という経験ができる。
- ② 人に伝える中で、自分の学びへの深い理解が進む。
- ③ 多くの人に認められ、自信と誇りと課題意識が育つ。テーマごとにグループを作って学び・まとめ・発表すること、開かれた学年ができる。
- ④ あそこがれをもつて上級生の取り組みを見る中で、毎年、無意識のうちに、前年の取り組みを越えようと工夫され、全校の学びの質が、自動的に高まる。

**これを教育課程に位置づけるのもカリキュラムマネジメントです**

#### E S D for S D G s



ちよつと取り組んで達成できるような甘いものは一つもありません。そこには、深い理解や学びを通じた、本気で考える人づくりが欠かせないのです。全国の学校でやらないとダメです。

#### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 世界を変えるための17の目標



最近、SDGsのロゴを目にするようになりました。そのこと自体は悪いことではないのですが、ばらばらに、部分的な取り組みを、コンクールや競争的に進めても、ダメなのです。

**コロナ禍で授業が遅れた！  
でも、それ以上に重要な、  
やるべきことは、何だろう**



ここで、子どもの声にも  
耳を傾けてみましょう。

ところでみんな・・・、  
学校教育を変えられる、素敵な大人って  
だれ？

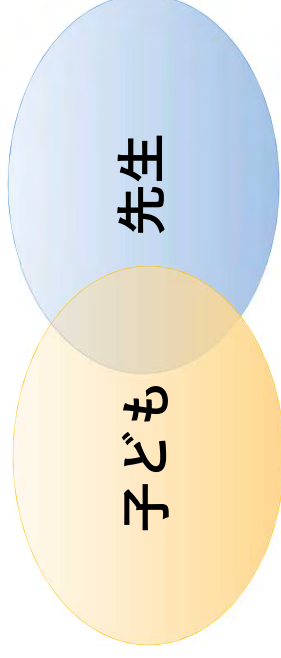
子どものためにと言いつつながら・・・  
「学力向上」や「知・徳・体」にしがみついて  
いつまで、  
時代遅れの教育を引きずっているの？



# ESDの授業づくり

奈良教育大学次世代教員養成センター  
特任准教授 大西 浩明

楽しくなければ授業じゃない  
だれが？



楽しくなければ授業じゃない

「楽しい」って？

わかった！

できた！

自分の力で

みんなといっしょに

探究的な学び

課題の発見・教師による提示

既存の見方・考え方を用いた仮説の作成

調査活動

調査結果に基づく話し合い

留保条件付きの解決（自分の生き方への問い直し）

発信・行動化

協働的な学習・活動

ESDの授業を構想する際には・・・

その題材（教材）を通して学習することで、

どんなESDの見方・考え方を働かせることができるのか  
どんなESDの資質・能力を育てることができるのか  
どのようなESDの価値観を変革させようとするのか  
どのようなESD的な行動化を求めようとするのか



SDGsの何を達成することに貢献するのか

## 単元構想図

具体的な授業をイメージして、児童が発するであろう言葉や、もつであろう思いなどをマップ化して、学習の流れを可視化したもの

## 学習展開の構想

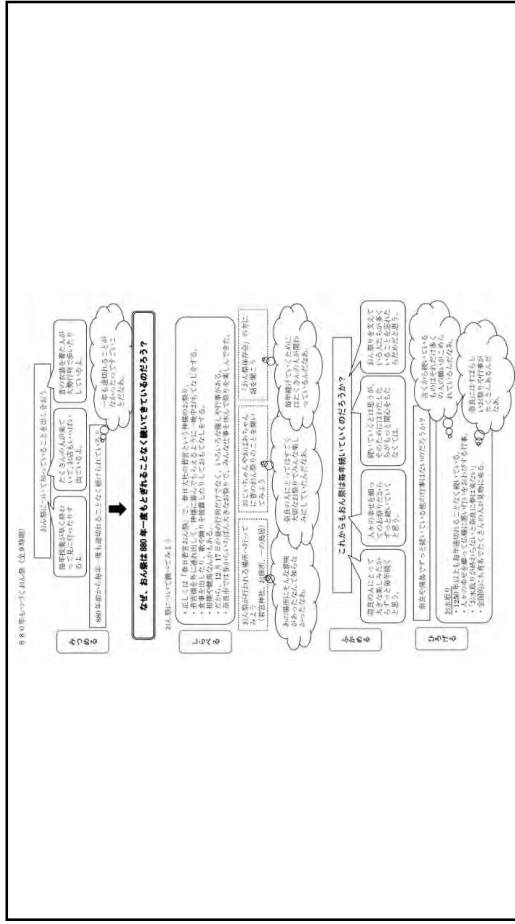
## 教科書超え

ESDやSDGsに関する知識

確かな教材解釈

子ども理解

## 単元デザインカ





小学校 4 年

「880年もつづくおん祭」

単元の目標

- ・「おん祭」は、奈良の人々の生活の安定と向上を図ろうとする人々の願いが込められたものであり、祭りを保存・継承するために工夫や努力を続けてきたから、880年も一度も途切れることなく行われていることを、見学や聞き取りなどから必要なことがらを見たり聞いたりして理解する。（知識・技能）
- ・「おん祭」が、奈良の人々の幸せなくらしを願ってのものであることや、880年も一度も途切れることなく続けられてきたわけを、調べたことを基に考え、適切に表現する。（思考・判断・表現）
- ・「おん祭」に関心を持ち、一度も途切れず続いてきたことについて意欲的に調べたり考えたりするとともに、大切に守り続けていこうとする態度をもつ。（主体的に学習に取り組む態度）



12月15日～18日

17日 時代行列



お渡り式（おわたりしき）

はじまったのは  
1136年

880年 一回もとぎれていない

おんまつりって、いったい何の、どんなおまつりなのだろう？

春日若宮神社の若宮という神様を外に連れ出して、おもてなしをする。



春日若宮おんまつり

|                                |        |                                                                                                                                                                                                        |
|--------------------------------|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 春日若宮<br>祭典<br>大和国志保郡<br>春日若宮神社 | 15日(木) | 大宿所詣 午後1時<br>辰市・八嶋・郷・奈良の渡り神子行列<br>御立神事 午後2時30分<br>安産・無病・平癒祈願 午後6時<br>大宿所祭 午後8時                                                                                                                         |
|                                | 16日(金) | 大和土質宮詣 午後8時<br>田楽・土質宮詣 午後8時<br>賀宮祭 午後4時                                                                                                                                                                |
| 春日若宮<br>祭典<br>大和国志保郡<br>春日若宮神社 | 17日(土) | 遷幸の儀 午前10時<br>曉祭の儀 午前1時<br>本殿祭・若宮御留分事 午前11時<br>講しの儀 午後1時<br>お渡り式 午後1時<br>南大門交名の儀 午後1時<br>松の下式 午後1時<br>競馬 午後1時<br>稚児流・獅子舞 午後1時<br>御旅所祭 午後1時<br>社伝神楽・東遊・田楽・細野・祭楽・舞楽・和舞・奉納 午後1時<br>遷幸の儀 午後1時<br>奉納相撲 午後1時 |
|                                | 18日(日) | 奉納相撲 午後1時<br>後宴能 午後2時                                                                                                                                                                                  |



おんまつりって、いったい何の、どんなおまつりなのだろう？

## 春日若宮という神様

ねがいは

平和な世の中になり  
ますように！

ねがいは

もっと幸せになれ  
ますように！

歌

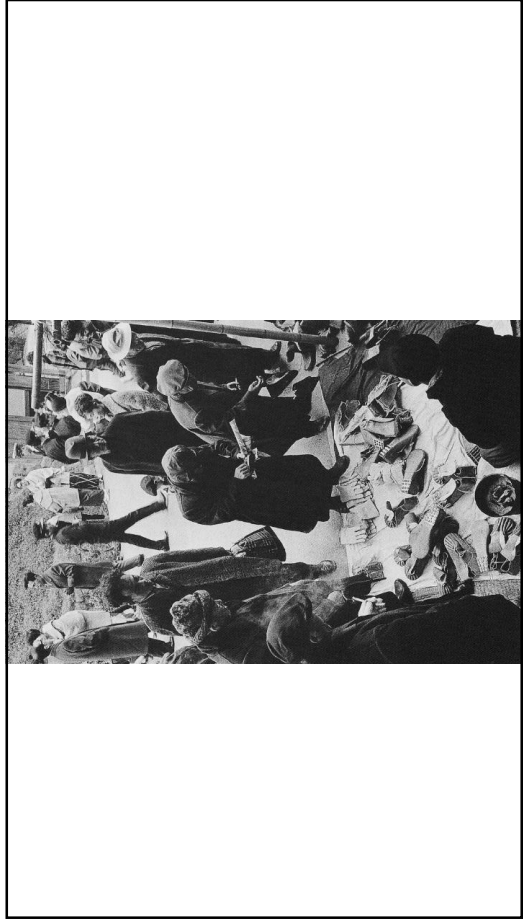
おもしろい

おもしろい

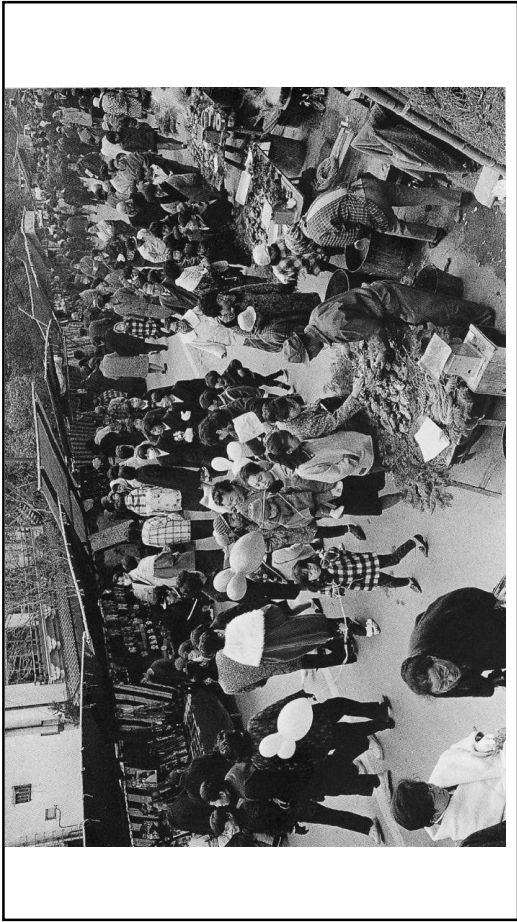
食事

スポーツ

(神社の) おまつり — 人々のねがい







## むかしのおんまつりとくらべて・・・

### ちがうところ

- ・今より店が多かった（今はないような店）  
カニ、ひよこ、榎木のなえ、ぼんさい  
正月用品  
おひやくしょうさんが仕事でつかうもの、  
山仕事につかうもの、
- ・サーカス
- ・かめつり、ひよこつり、ハムスターつり
- ・型ぬき
- ・からあげやポテトとかの店がない
- ・家でとりのすきやき、のっぺじるを食べる

大人向けの店が多い 正月のじゅんび

### 同じところ

- ・まつりの中身
- ・行列のようす
- ・たこやき、ベビーカステラ
- ・来ている人が楽しそう

おんまつりそのものは変わっていない  
みんながおまつりを楽しんでいる

おんまつりは、むかしとくらべてちがうところもあるけど、

奈良の人にとって

とても楽しみなお祭り

大切なお祭り

すてきなお祭り

1年に1回だけ、いつもできないことができるお祭り

その日はぜいたくができるお祭り

大和一国のまつり

毎年何千万円もの費用もかかっています。奈良の人を中心にみんなでお金を出し合ってもらっています。

実は、できなかった年もあるんです。でも、そんなときは1年に2回やったという記録も残っています。

絶対途絶えさせないという気持ちがあったんだなあ。

お祭りをするにもお金がかかるんだなあ。

みんなでお金を出し合って續けてきたということか。

1年に1回やってますというのが大事なんだなあ。

春日大社の方にお話を聞く

## これからもおん祭は続いていくのだろうか？

つづいていく（28人）

- ・もう戦争もないし、起こらないと思う
- ・できないうちも次の年に2回やればいい
- ・ここまで続いたら何があっても続いていくと思う
- ・奈良の人みんながお金を出し合うから

これから戦争が起こる  
かもしれない。

おん祭を続けたいと思  
う人が減ってきたらど  
うするの？

つづいていかない（4人）

- ・お金が続かない
- ・自然災害が必ず起きる

できなくても次の年に  
2回やるとか工夫して  
きた。

だからみんなでお金を  
出し合ってきたんだと  
思う。



- ・戦争が起こる。
- ・災害が起こる。
- ・おん祭をするお金がなくなる。
- ・住んでいる人が少なくなる。
- ・続けようとする人が少なくなる。

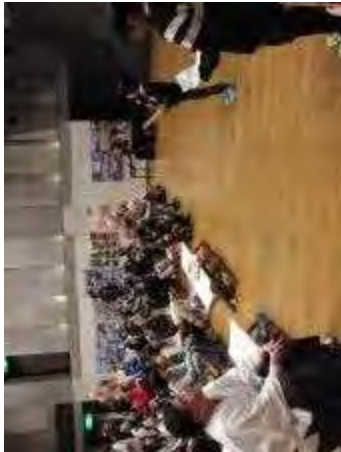
## おおやぎゅう 大柳生たいこおどり

## なぜ、おんまつりは880年間、一度もとぎれずつづいているのだろうか？

- ・つづけていきたいと思う人が多いから。
- ・だから、みんなでお金を出し合った。
- ・ききんや戦争があっても、だからこそ幸せを願う人が多いから、つづけてやっている。
- ・みんなに楽しんでもらっていい笑顔をつくりたいという人がいるから。
- ・奈良の人みんなが、おんまつりを愛しているから。
- ・願いをかなえてほしいと思う人がたくさんいるから。

◇奈良には、人々の幸せを願う、昔から続いていることがたくさんあることが分かりました。また、それらの行事を行うために、たくさんの方が苦労や工夫を重ねていることも分かりました。このように、みんなが楽しみにしている行事やお祭りは残していかなければいけないと思います。そのためには、わたしたち子どもも関心を持ち続けることが大切だと思います。

◇奈良は、古くからの祭りや行事、世界遺産などのものを大切に次の世代にわたしてきた。そこには、「つづけよう」「残していこう」とたくさんの方が努力してきたことが分かった。もっと長く続けていくためには、ぼくたちが伝統を受け継いだり、行事に協力したりすることが大切だと思う。今年のおん祭は、しっかりといろいろな行事を見たと思う。



子どもおんまつりでの発表

「ESDの視点（見方・考え方）」「ESDで育てたい資質・能力」「ESDで育てたい価値観」については、項目を並べるだけでなく、自分の考えた題材や活動に落とし込んで具体的に説明できることが重要。

#### ○この題材で働かせるESDの視点(見方・考え方)

- ・有限性…長く続いてきた祭りや行事でも様々な要因によって途絶えてしまう
- ・公平性…おん祭は時代を超えて奈良の人々の人々の生活のために続けられている。
- ・連携性…様々な立場の多くの人々が協力して続けてきた
- ・責任性…続けていくのはそこに住む自分たちの行動が大切である

#### ○この学習を通して育てたいESDの資質・能力

- ・未来像を予測して計画を立てる力  
途絶えてしまうかもしれないおん祭が毎年続いていくために、どんなことが必要か、そのためにどうすることが大切かを考える。
- ・批判的に考える力(Critical Thinking)  
毎年見てきたおん祭は続いてきたのではなく、多くの人たちの努力と工夫によって続けられてきたことに気付く。
- ・コミュニケーションを行う力  
おん祭がなぜ続いてきたのか、また続いていくためにはどんなことが必要なのか、根拠を明らかにして話し合う。
- ・進んで参加する態度  
これからの自分のおん祭への見方や参加の仕方を考える。

#### ○この学習を通して育てたいESDの価値観

- ・世代間の公正  
人々の幸せを願って続けられ、奈良の人たちの大きな楽しみであるおん祭をこれからも続けていかなければならない。
- ・人権・文化を尊重する  
奈良に大切に受け継がれてきた、おん祭という文化を大切に守っていく。
- ・幸福感を大切にする  
一つの時代も、だれもが幸せに生きたいという願いをもって、「豊かな暮らし」を追い求めている。

#### ○関連するSDGs





## 問いを考える

探究的な学びを進めていくには、**問いの質**が重要！

単元の目標につながるもの

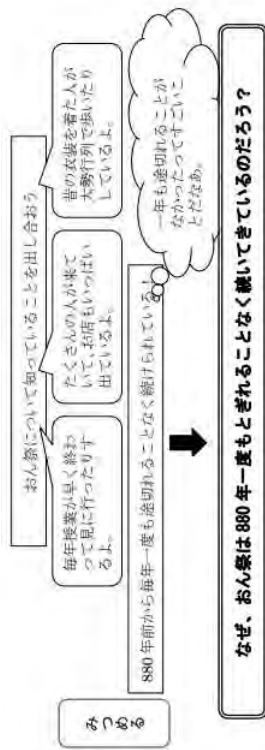
単元の流れで必然性があるもの

答えがいくつもあるもの

子どもの疑問や思いから醸成されたもの  
単なる教師からのトップダウンではないもの

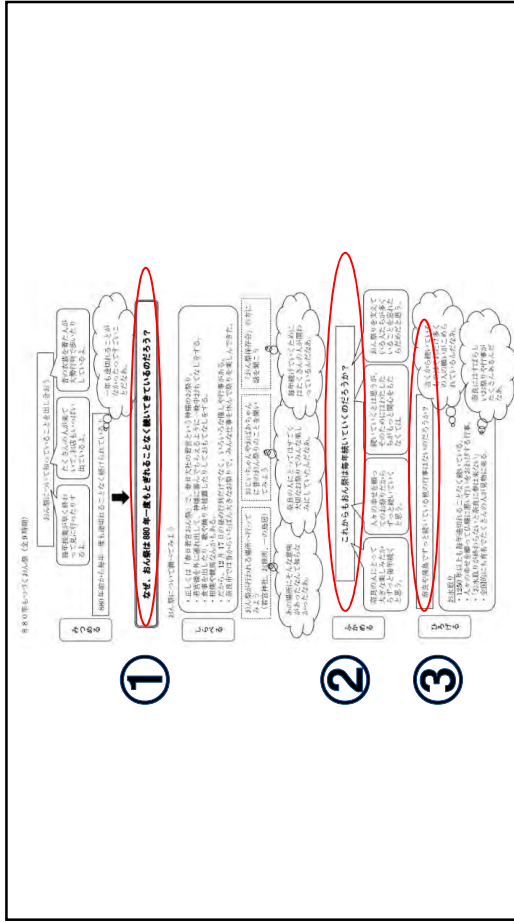
言葉やその使い方方にこだわる

①



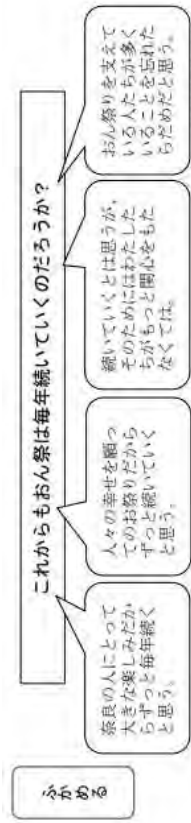
おん祭について調べてみよう

単元を通して核となる問い



②

①を深めるための問い



③ ①を発展的に考える問い

ひるげる

奈良や飛鳥ですつと続いていて他の行事はないのだろうか？

お米取り

- ・1250年以上も毎年途切れることなく続いていて、人々の幸せを願って仏様に悪い行いをおわびする行事。
- ・「お水取り」が終わらないと奈良に春は来ない！
- ・全国的にも有名な「お水取り」の行事が、奈良に春は来ない！

古くから続いているものはそれだけ多くの人の願いがこめられているんだなあ。

奈良にはすばらしいお祭りや行事がたくさんあるんだなあ。

① 単元を通して核となる問い

たとえば、

単元展開の中で、こういうことについて、考えさせたい、話し合わせたい、自分なりの行動計画を立てさせたいというものを明確にできるなら、

② ①を深めるための問い

どの問いから考えてもいいと思います。

③ ①を発展的に考える問い

ESDは、探求的な学びを協働的に行う

探求的な学びのためには、質の高い問いが重要

教師の確かな教材解釈（見方・考え方）  
育でたい資質・能力、価値観（ゴールの見直し）  
「なぜ？」「どうして？」  
子ども自らがそういう問いを作り出せるように

協働的に進めるようにするためには、学級経営が重要

どんな意見をもっともいいんだという雰囲気  
互いのよさを認め合える集団  
全員が自分の考えを言い合える習慣、文化  
「わからない」を素直に言える風土

質の高いESDの授業のために

①地域教材の開発  
「自分事化」 五感を使った体験活動 行動化  
自分が「面白い」と思ったものだけが、「いい授業のネタ」

②結果としてSDGsに関連する  
自分たちの学びが地域だけでなく、世界ともつながっている！  
世界にも同じことに取り組んでいる仲間がいる！

③仲間とともに学び合う  
多様な目で教材を見ることで、一人では思いつかない学習内容や学習方法が見つかる

## ユネスコスクール・SDGs/ESDの推進 ホールスクールアプローチ



大牟田市教育委員会 安田昌則



## 大牟田市

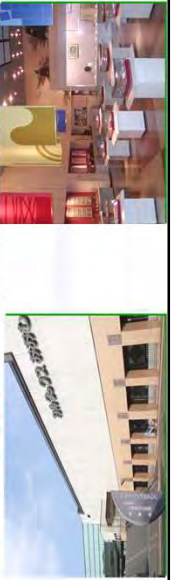
かつては「炭の都」

- ・三池炭田
- ・昭和30年代  
人口20万人超
- ・石炭化学

コンビナート

三池石炭資源伝説図

日本カルタ発祥の地（三池カルタ記念館）



## 福岡県大牟田市

福岡県の最南

○人口 112, 134人

○西は有明海、遠くに雲仙

東は遠くに阿蘇外輪山

<学校数、児童生徒数>

小学校 19校 (約5400人)

中学校 8校 (約2400人) 特別支援学校 1校 (約120人)

世界文化遺産 「明治日本の産業革命遺産」



宮原坑



三池港



旧三池炭鉱専用鉄道敷



日本のカルタ発祥の地（三池カルタ記念館）



大牟田夏祭り



日本最古の天正カルタ





## 大牟田市学校教育振興プラン

【基本理念】「まちづくりは人づくりから」という基本的考え方にたち、本市の学校教育は、**持続可能な社会**づくりを担う子どもたちの育成を目指します。

### 【基本方針】

社会を生き抜く力を身に付けた「**おおむたっ子**」の育成

＜目指す児童生徒の姿＞「**おおむたっ子**」

**おお** → 大きな夢を抱き未来を創る児童生徒  
**む** → 難しいことにもねばり強く取り組む児童生徒  
**た** → たくましい心と体を備えた児童生徒

〔特色ある教育〕

〔知・徳・体のバランスのとれた教育〕

## なぜ大牟田市は、ユネスコスクールに加盟することにしたのか

大牟田市のユネスコスクールに加盟するまでの経過と加盟後の実践



## 平成21年度～平成22年度当時

### 新学習指導要領の実施に向けて

#### ＜教育課程検討委員会＞

|         |            |
|---------|------------|
| 小学校     | 中学校・特別支援学校 |
| 校長会代表   | 校長会代表      |
| 教頭会代表   | 教頭会代表      |
| 教務主任会代表 | 教務主任会代表    |

内容・時数  
 評価・通知表などの検討

※ユネスコスクール・ESD(持続発展教育)についての研究

## 教育振興基本計画におけるESDについて

教育振興基本計画(平成20年7月1日閣議決定)

### 【施策】

◇ 持続可能な社会の構築に向けた教育に関する取組の推進  
 ～持続可能な社会の実現に向けて取り組むための教育(ESD)の重要性について～

第2期教育振興基本計画(平成25年6月14日閣議決定)

I 四つの基本的方向性に基づく方策

1. 社会を生き抜く力の養成

【主な取組】

11-1 現代的・社会的な課題等に対応した学習の推進

ユネスコスクールの質量両面における充実等を通じ地球規模での持続可能な社会の構築に向けた教育(持続可能な開発のための教育:ESD)を推進する。

第3期教育振興基本計画(平成30年6月15日閣議決定)

第2部 今後5年間の教育政策の目標と施策群

1. 夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力を育成する

(2) 豊かな心の育成

○持続可能な開発のための教育(ESD)の推進

(4) 問題発見・解決能力の修得

○持続可能な開発のための教育(ESD)の推進



## 文部科学省

- 学習指導要領の改訂（2008年3月公示）
- 学習指導要領（2008年3月、2009年3月）

小学校学習指導要領の総則や理科、社会、  
中学校学習指導要領の理科、公民、地理、  
高校学習指導要領の地理歴史、公民などに  
**持続可能な社会の構築の観点が盛り込まれた**

## 大牟田市の現況

- 少子高齢化（人口減少・高い高齢化率）**
- 環境・エネルギー問題
  - ・石炭産業と公害の克服
  - ・新たなエネルギー産業（エコサックセンター）
- 世界遺産を含む文化財の宝庫
- 国際理解教育
  - ・友好都市
  - ・石炭を通じた諸外国とのつながり
- ネットワーク化された情報環境



**持続可能な社会づくり**



## 持続可能な開発のための教育（ESD）について

**Sustainable Development**（持続可能な開発）  
とは…「将来の世代が自らのニーズを充足する能力  
を損なうことなく、今日の世代のニーズを満たすこと」

※ 国連「環境と開発に関する世界委員会（ブルントラント委員会）」  
報告書『我ら共通の未来（Our Common Future）』（1987年）における  
定義

**持続可能な開発のための教育（ESD）**

とは…「**持続可能な社会の担い手を育む教育**」

持続可能な社会の担い手を育むため、地球規模の課題を自分の  
こととして捉え、その解決に向けて自分で考え行動を起こす力を  
身に付けるための教育。

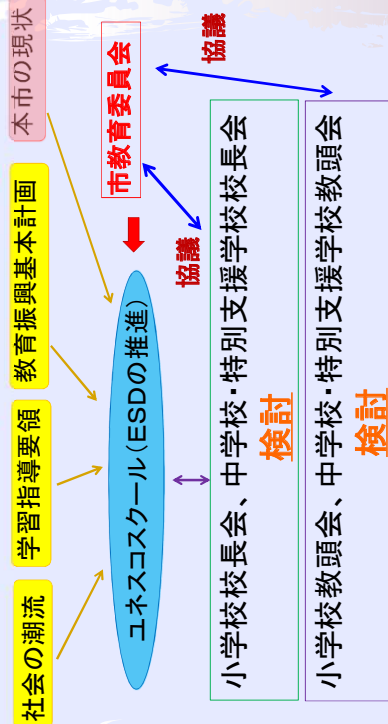
## 持続可能な社会づくり

- ◆ 将来の世代のニーズを満たす能力を損なうことなく  
現在の世代のニーズを満たす社会の仕組みづくり



think globally, act locally

## 大牟田市の目指すまちづくりと ユネスコスクールの理念が一致



校長会、教頭会の中で検討され、教育委員会と協議し、  
ユネスコスクールの加盟申請は、全学校行うことに決定！

## 各学校での特色ある教育活動



ユネスコスクールの申請 → パリのユネスコ本部にて審査

承認

大牟田市の全小・中・特別支援学校が  
ユネスコスクールに加盟（H24年、1月）

市内の全公立の学校が  
ユネスコスクールに一齐に  
加盟したことは、当時は世界  
でもめずらしい

ユネスコスクールのまち おおむた

## 教育課程の工夫・担当者の明確化

### ＜教育課程への位置付け＞

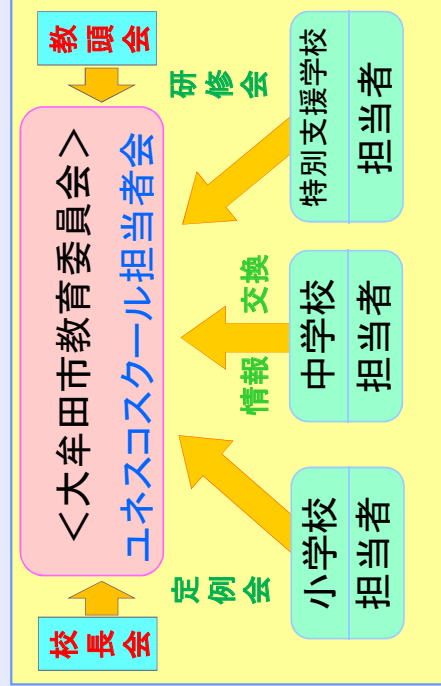
- 全体計画の作成
- 学年毎の年間計画
- ESDカレンダー

### ＜校務分掌の明確化＞

- ユネスコスクール担当者 (ESD)

特色ある教育活動の推進

## ユネスコスクール担当者会



## 市をあげてESDを推進

### 【大牟田市役所】

大牟田市ESD推進本部の設置

市長→本部長

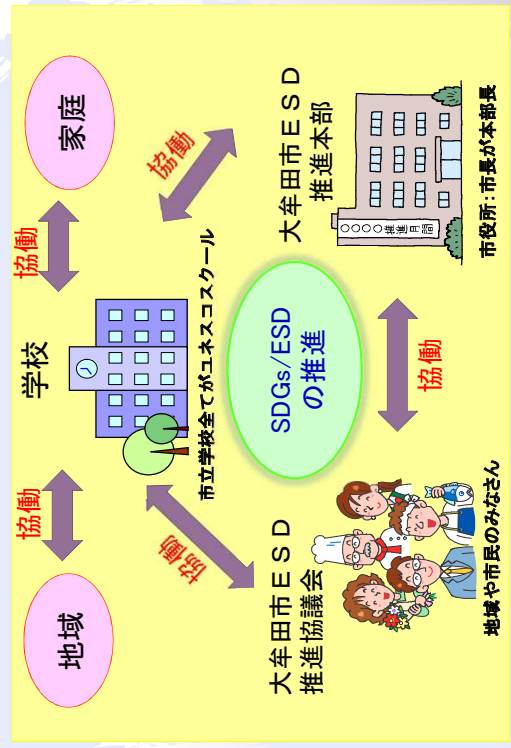
教育長→副本部長

各部の部長→推進委員

※各部でESDの視点で事業を推進

持続可能なまちづくり

## 大牟田市がすすめているESD





## ESDの充実に向けて

教職員

子ども

地域・  
関係団体等



## 大牟田市が進めるESDについての教職員研修

### ＜研修の種類＞

多様な研修の機会の提供  
(教職員が選択できる)

**A研修**: ESD・ユネスコスクールに関する

理論研修

**B研修**: 大牟田市内の実践を交流する研修

**C研修**: 大牟田市外の実践を交流する研修

**D研修**: 授業実践を通じた研修

**E研修**: 大牟田市外の研修会を活用した研修

**F研修**: リーダー養成研修

**G研修**: 日常的な研修

### 【研修会等】

- ① ユネスコスクール担当者会
- ② 研究指定校による拡大校内研修会
- ③ ユネスコスクール研修会
- ④ 世界遺産学習全国サミットへの参加
- ⑤ ユネスコスクール全国大会への参加
- ⑥ 世界遺産学習研修会
- ⑦ ユネスコスクール子どもサミット
- ⑧ 研究所員による研究報告会
- ⑨ 指導主事派遣の校内研修会
- ⑩ ユネスコスクール便り

**A研修**  
**B研修**  
**C研修**  
**D研修**  
**E研修**  
**F研修**  
**G研修**



ユネスコスクール全国実践交流会

マスターティーチャー養成講座

### それぞれのニーズに応じた研修の場

初任者・他都市転入者対象  
「研究所主催ESD講座」

吉野小研究発表会



# 「ユネスコスクール便利」

持続可能な開発のための教育 (ESD)  
つながりを大切に、かわわりを深める児童生徒の育成

令和5年6月10日  
大牟田市ESD第76回  
定期協議会

第76回  
大牟田市ESD第76回  
定期協議会

持続可能な開発目標 (SDGs) は、2030 年を期限とする、国際社会全体で取り組む国際的な目標のことです。17 の目標が掲げられています (このページの最上段の 17 のマークがその目標を示しています)。「教育」は SDGs の目標 4 に位置付けられています。

「教育が全ての SDGs の基礎」と言われるように、教育は SDGs で示された目標を達成するための基幹です。私たちは日々の教育活動を通して、持続可能な社会の担い手を育成しているのです。子どもたちが将来直面するであろう課題に、まずは私たちが、17 のゴールを達成した学習指導に当たっていくことが大切ではないでしょうか。

「教育」は SDGs の目標 4 に位置付けられています。私たちは SDGs で示された目標を達成するための基幹です。私たちは日々の教育活動を通して、持続可能な社会の担い手を育成しているのです。子どもたちが将来直面するであろう課題に、まずは私たちが、17 のゴールを達成した学習指導に当たっていくことが大切ではないでしょうか。

# ユネスコスクールの活性化、ESD 充実のための支援

## 「ESD 実践の手引き」「パンフレット」の作成、配布 (各学校、全教職員等への配布)

持続可能な社会の担い手を育む ESD の展開づくり

ユネスコスクールの概要

# ユネスコスクール支援センターの活用と充実 (全国で初めての設置)

- ユネスコスクール支援センター事務局員の配置
- ESD 関連の資料、書籍等の収集と提供
- 学校の ESD 活動の支援、学校間交流の支援 等

# 各学校で特色ある ESD の実践 それぞれの地域の課題解決に向けた ESD の充実

地域学習

世界遺産学習

## 地域学習

### 吉野小学校「吉野小さくらプロジェクト



桜の苗木植樹

地域の方がによる

「絆プロジェクト」との話し合い



## 福祉学習

### 中友小学校「子ども民生委員活動



高齢者宅訪問

認知症SOSネットワーク  
模擬訓練



## 世界遺産学習

### 駿馬北小学校 「子どもボランティアガイド」



第3日曜日の子どもボランティアガイド



## 福祉学習

### 白光中学校



ペアショッピング





## 健康教育・食育 玉川小学校「米づくり」に挑戦」

田植え



米はかり踊り



## 海洋教育

東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター  
(東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センター)  
と大牟田市教育委員会との  
海洋教育促進拠点、海洋教育研究拠点としての連携に  
関する協定締結式

【2016年10月】



【2020年10月】



## 商店街「十日市」への参加による まちおこし

### 〇「十日市プロジェクト」

まちおこしのために、校区内の銀座商店街で毎月十日に開催される「十日市」に、参加して発表などを行っています。



中友小児童による、和太鼓の発表・世界遺産鯉頭の販売

まちの方から「商店街に子どもたちの声が響いて、元気をもらっています。」との声が聞かれています。

商店街の方から「子どもたちの発表で、商店街に賑わいが戻ってきています。」と、喜びの言葉をもらっています。



## 海を通したESD(海洋教育)

天領小学校・みなと小学校・天の原小学校  
駛馬小学校（海洋教育推進校）

有明海の干潟観察



天領・海まつり



**まちづくりに参加する授業実践例**

**大牟田を  
住みたいまちに  
するためには？**

自分たちで  
自分たちなりに考えて、  
まちづくりについて発信

**大牟田に住みたいまちに  
6つのテーマ1年間学習**

**議員ら招き「市政へ生かして」**

松原中2年生

「大牟田に住みたいまち」をテーマに、6つのテーマ（自然環境・歴史文化・産業・伝統・文化・エネルギー・環境）を1年間学習し、自分たちなりに考えて、まちづくりについて発信する。

**まちづくりについて、議員や市職員に発信**

- ・世界遺産
- ・産業、伝統、文化
- ・エネルギー環境 など

課題や解決策について

「大牟田に住みたいまち」をテーマに、6つのテーマ（自然環境・歴史文化・産業・伝統・文化・エネルギー・環境）を1年間学習し、自分たちなりに考えて、まちづくりについて発信する。

**※ 子どもが主体的に学ぶための  
「子ども大牟田検定」**

**目的「大牟田の宝もの」を学習し、検定問題へチャレンジすることを通して、  
素晴らしい自然環境や歴史文化遺産等が残された「ふるさと大牟田」に誇りを持ち、守り育てようとする、郷土愛に満ちた子どもをめざす。**

**関係団体や「ひと」との連携**

「子ども大牟田検定」の学習内容や検定問題の例が掲載された冊子が、関係団体や「ひと」と連携して作成された。

**子ども達に視点を当てた取組**

**郷土愛を育む子ども大牟田検定(9月・1月)**

「大牟田に住みたいまち」をテーマに、6つのテーマ（自然環境・歴史文化・産業・伝統・文化・エネルギー・環境）を1年間学習し、自分たちなりに考えて、まちづくりについて発信する。

**50点  
写真と文  
で、分か  
りやすく  
説明**

〇石炭関連施設  
〇施設  
〇遺跡  
〇自然物  
〇生き物  
〇伝統  
〇食べ物  
〇人

「大牟田に住みたいまち」をテーマに、6つのテーマ（自然環境・歴史文化・産業・伝統・文化・エネルギー・環境）を1年間学習し、自分たちなりに考えて、まちづくりについて発信する。

**ユネスコスクール子どもサミット  
子どもたちの実践交流の場**

市内の小・中学校の児童生徒が大牟田市の世界遺産学習や福祉などについて発表

**＜市外の学校の発表＞**  
大正小学校と長崎市立大浦小学校が世界文化遺産を通しての交流について発表

**保護者や市民も参観**

「大牟田に住みたいまち」をテーマに、6つのテーマ（自然環境・歴史文化・産業・伝統・文化・エネルギー・環境）を1年間学習し、自分たちなりに考えて、まちづくりについて発信する。



# 大牟田市「ユネスコスクールの日」の制定

平成24年1月17日  
市内市立学校が全てユネスコスクールに加盟

○毎年1月17日「ユネスコスクールの日」  
○ユネスコスクール週間

・各学校で  
記念イベントや  
啓発活動



児童生徒による  
制定宣言

## 「大牟田市ユネスコスクールの日」 制定宣言

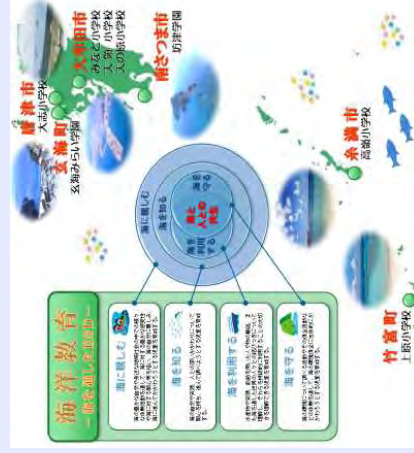
私たちは、大牟田に学び児童生徒です。  
1月17日を「大牟田市ユネスコスクールの日」と定めるにあたり、次のことを宣言します。

- 私たちは、人と人とのつながりを大切にします。
- 私たちは、学校から地域へ、地域から世界へ、つながりの輪を広げていきます。
- 私たちは、過去から現在までのつながり、現在から未来へのつながりを大切にします。
- 私たちは、希望ある未来を創るため、学び続けるとともに、自分にできることから行動します。

## 子どもたち同士のつながり



他校とのつながり・広がり



事例

海洋教育（海を通じたESD）

令和2年1月

## 国内外の学校との交流

- 宮城県気仙沼市 ○広島県福山市
- 岡山県岡山市 ○島根県大田市
- 北海道留寿都村 ○長崎県長崎市
- 宮崎県綾町 ○佐賀県唐津市 など
- 愛媛県新居浜市
- トルコ ○カナダ ○フランス
- ペルー ○シンガポール など

地域・関係団体等との協働に向けて

○ESD職員研修  
(大牟田市役所の職員)

PTA役員会  
商工会議所女性会  
大牟田シンテージのまち  
大牟田経済倶楽部  
大牟田市中小企業同友会  
福岡トーヨー株式会社  
大牟田中央ライオンズクラブ.....

## HP・フェイスブックによる啓発

# 大牟田市教育委員会

Ōmura City Board of Education

**教務委員会**  
教務委員会に関する情報など

**学校給食**  
市内各校一貫、地域区域、教務相談、特色ある教養活動、入学、転校、就学援助など

**学校給食**  
学校給食の取組、献立など

**幼稚園**  
市内の私立幼稚園の一覧、就学助費など

**リンク集**  
公民館、生涯学習、文化など

子どもたちの豊かな未来のために

お誘い合わせのうえ、ESD推進講座  
**ユネスコスクール・ESD全国実践交流会in大牟田**  
**「語りあおう、SDGsが目指す社会とこれからのESD」**  
 開催日：令和元年10月22日（水）19:45～16:00  
 場所：大牟田市立中央公民館  
 入場料 無料

【主催】福岡ESDネットワーク

持続可能な開発のための教育（ESD）のさらなる普及発展に寄与するために

大牟田市トップへ

◇「大牟田市教育委員会」のホームページ・フェイスブック  
・「SDGs/ESD」「新着情報」「学校教育」などで ※「各学校のMボード」

関係団体との連携・協働に向けて

ONPO団体との連携事業 ○参画企業との連携

自然とふれあい陸の豊かさに気づく  
ネイチャースクール(5月・10月)  
エネルギー環境について  
考える出前授業

○市環境部・参画団体との連携

持続可能な消費生活について学ぶ  
市環境部による出前授業

[illegible]



## 大牟田市のESDの推進を通して

ユネスコスクールのみち おおむた

ESDのさらなる充実

SDGsの目標達成

持続可能なまち おおむた



## SDGsの達成に向けた大牟田の挑戦

SDGsが掲げる17の目標を本市のESDに

- 具体的なアプローチは、その学校・地域の課題やESDの取組方により様々なSDGsを見据えつつ、学校や地域で足元の課題解決を大事にESDを推進することが重要



学校や地域の課題解決を大切にした  
大牟田版SDGs



## 「ユネスコスクール・ESDのまち おおむた」宣言

市長・議長・経済界・福祉団体・教育委員会・  
地域代表等による宣言



ESD/SDGsの充実に向けた気運の高まり

2018年(平成30年)

## 第3回「ジャパンSDGsアワード」特別賞



## 国連大学からRCEに認定 2020年(令和2年)2月

## 「RCE大牟田」認定式・記念講演



これまで紡いできたネットワークをさらに日本へ世界へ拡大

## ユネスコスクールとしての成果

- 地域の課題の解決が地球規模の課題の解決につながることを意識し行動する子どもが増えてきた。
- ESDを学ぶことで地域や世界への貢献の意識が年々向上している。
- 学校におけるESDの取組が地域へ広がり、地域と学校が一体となって持続可能なまちづくりに取り組む事例が増えてきた。
- ESDに取り組みはじめた時(2010年)の中学3年生がESDを次世代へ継承していきたいと教師を目指し、2019年(令和元年)に小学校の教師として本市に着任する。

## 今後の展望

- 世界のユネスコスクールとの交流促進
- 互いの地域課題を交流し地球課題について学び合う



## ※校長としての実践

## ESDについての理論

- ・ESDとは
- ・ESDで目

○講師招聘による研修  
○理論研究

## 目指す子どもの姿の焦点化

- ・目指す子ども像
- ・重点テーマ設定

○全体研修による協議

## 年間指導計画作成

- ・ESDカレンダー
- ・ストーリーマップ

○学年研修による協議  
○先進校の実践例

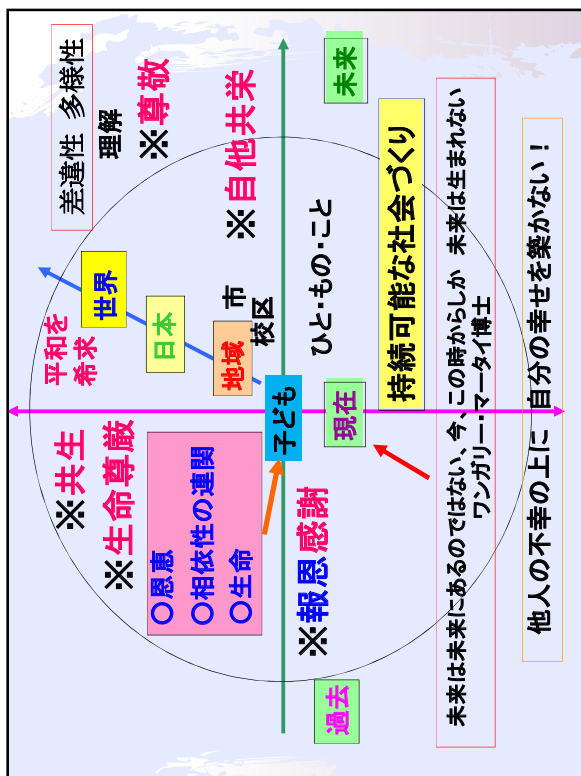
 $\gamma_1(\gamma_2)$ 

付加・修正

- 全校、近接授業研  
○講師招聘による研修

## 実践の共有化

## ○研究だより



## 吉野小学校のESDの価値観

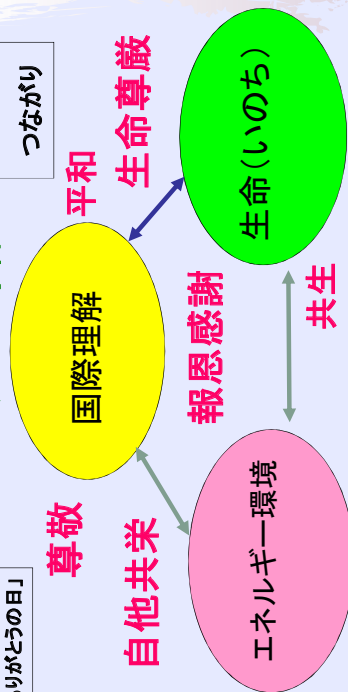
持続可能な社会づくりについて自分の考えを持ち、行動する児童の育成

子野吉合めつう吉野つ子

毎月10日  
「ありがとうの日」

## 3つのテーマで学習

かかわり



# 吉野小学校のESDの価値観

持続可能な社会づくりについて自分の考えを持ち、行動する児童の育成

子野吉合め高いび学

## 育みたい力や態度

- ひと・ものを尊重し、他者と協力する態度
- 互いの意見を大切にしたコミュニケーション力
- 持続可能な社会の一員として責任を持った行動力



生命尊嚴 自他共榮 報恩感謝 尊敬

### 目指す子どもの姿

みんなが安心して暮らすことのできるよりよい社会を構築していくために、持続可能な社会づくりに関わる課題を自らの問題として捉え、追究することを通して、自らの考えを構築し、できることを考え行動する子ども

**問題解決力**

①批判的に考える力  
②未来像を予測して計画を立てる力  
③多面的、総合的に考える力

**伝え合う力**

④コミュニケーションを行う力

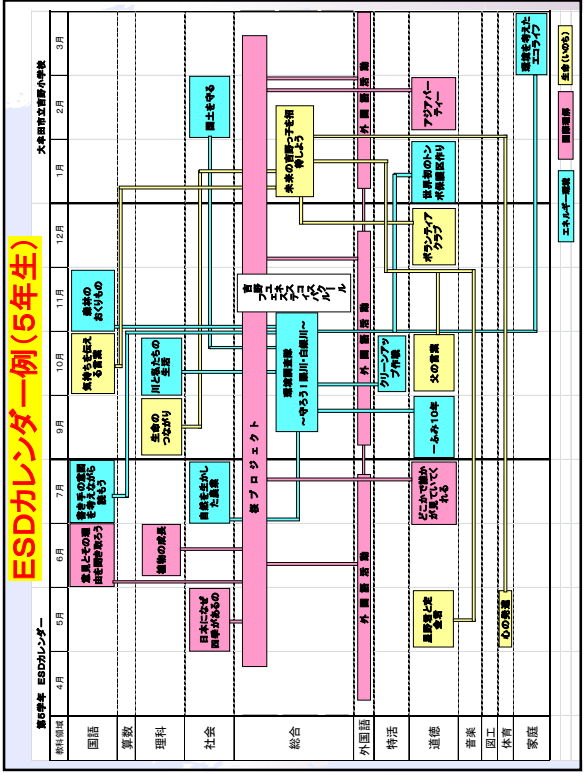
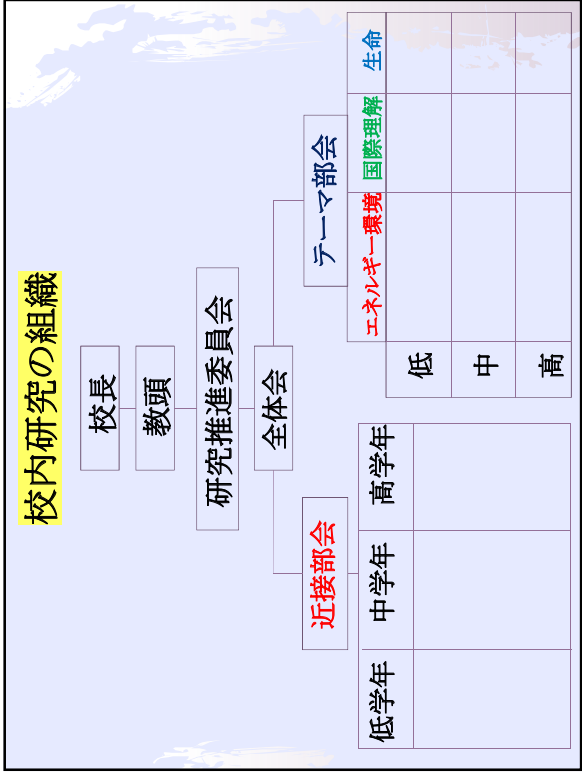
**関わる力**

⑤他者と協力する態度

**行動力**

⑥つながりを尊重する態度  
⑦進んで参加する態度

ESDで身に付けさせたい能力・態度 (ESDの要素) 国立教育政策研究所



### ESDストーリーマップ作成を通じた授業づくりと実践

- 1 教材分析と単元で目指す姿の設定
- 2 ESDで育みたい能力や態度を育む活動
- 3 他教科・領域等とのつながり
- 4 地域とのつながり・関わり
- 5 主体的な学びを生み出す体験的活動

## 教材分析と単元で目指す姿の設定

持続可能な社会づくりに関わる  
課題を見出すための視点(ESDの要素)



人を取り巻く環境に関する視点

多様性

相互性

有限性

いろいろある 関わり合っている 限りがある

人の意思・行動に関する視点

公平性

連携性

責任性

一人一人 力を合わせて 責任を持って

大切に

(国立教育政策研究所)

## 教材分析と単元で目指す姿の設定

多様性  
いろいろある

相互性  
関わり合っている

有限性  
限りがある

公平性  
一人ひとり大切に

連携性  
力を合わせて

責任性  
責任を持って



## 教材分析と単元で目指す姿の設定

人を取り巻く環境に関する視点

多様性  
学んだことを他の地域に発信していくことで、地域のよさを分ちあう地域をよきよきを出出す

相互性  
桜を通して、地域の方や先輩方の思いに触れ、支えられていることに気づく

有限性  
桜の木には寿命があることや学校や地域の桜が老木化していることに気づく

相互性

連携性

責任性

公平性  
みんなにとって住みやすい町にするために、桜が満開の町を取り戻すための植樹活動を行う

連携性  
友達や地域の方の願いの実現に向け、力を合わせて取り組むことができる

責任性  
学校・地域の一員として、未来に思いをはせ、自分自身でできることを見出す

人の意思・行動に関する視点

## 教材分析と単元で目指す姿の設定

### 単元で目指す姿

吉野小のシンボルである桜について、先輩や地域の方々の思いや願いについて取材して自分の考えをつくり、地域に多様な方法で発信したり、友達や地域の方々と協働で桜を通して町づくりについて考え実践したりすることを通して、地域に誇りを持ち、地域の今やこれからのことを考え、貢献したいという思いを持つことができる。

5年 思いをつなげ!! 吉野小桜プロジェクト2016 ストーリーマップ

【目標】 吉野小のシンボルである桜について、先輩や地域の方々の思いや願いについて取材して自分の考えをつくり、地域に多様な方法で発信したり、友達や地域の方々と協働で桜を通して町づくりについて考え実践したりすることを通して、地域に誇りを持ち、地域の今やこれからのことを考え、貢献したいという思いを持つことができる。

【学習内容】

- 【桜の歴史】 桜の歴史や吉野小の桜について、先輩や地域の方々の思いや願いについて取材して自分の考えをつくり、地域に多様な方法で発信したり、友達や地域の方々と協働で桜を通して町づくりについて考え実践したりすることを通して、地域に誇りを持ち、地域の今やこれからのことを考え、貢献したいという思いを持つことができる。
- 【桜の文化】 桜の文化や吉野小の桜について、先輩や地域の方々の思いや願いについて取材して自分の考えをつくり、地域に多様な方法で発信したり、友達や地域の方々と協働で桜を通して町づくりについて考え実践したりすることを通して、地域に誇りを持ち、地域の今やこれからのことを考え、貢献したいという思いを持つことができる。
- 【桜の未来】 桜の未来や吉野小の桜について、先輩や地域の方々の思いや願いについて取材して自分の考えをつくり、地域に多様な方法で発信したり、友達や地域の方々と協働で桜を通して町づくりについて考え実践したりすることを通して、地域に誇りを持ち、地域の今やこれからのことを考え、貢献したいという思いを持つことができる。

【学習成果】

- 【桜の歴史】 桜の歴史や吉野小の桜について、先輩や地域の方々の思いや願いについて取材して自分の考えをつくり、地域に多様な方法で発信したり、友達や地域の方々と協働で桜を通して町づくりについて考え実践したりすることを通して、地域に誇りを持ち、地域の今やこれからのことを考え、貢献したいという思いを持つことができる。
- 【桜の文化】 桜の文化や吉野小の桜について、先輩や地域の方々の思いや願いについて取材して自分の考えをつくり、地域に多様な方法で発信したり、友達や地域の方々と協働で桜を通して町づくりについて考え実践したりすることを通して、地域に誇りを持ち、地域の今やこれからのことを考え、貢献したいという思いを持つことができる。
- 【桜の未来】 桜の未来や吉野小の桜について、先輩や地域の方々の思いや願いについて取材して自分の考えをつくり、地域に多様な方法で発信したり、友達や地域の方々と協働で桜を通して町づくりについて考え実践したりすることを通して、地域に誇りを持ち、地域の今やこれからのことを考え、貢献したいという思いを持つことができる。

【学習活動】

- 【桜の歴史】 桜の歴史や吉野小の桜について、先輩や地域の方々の思いや願いについて取材して自分の考えをつくり、地域に多様な方法で発信したり、友達や地域の方々と協働で桜を通して町づくりについて考え実践したりすることを通して、地域に誇りを持ち、地域の今やこれからのことを考え、貢献したいという思いを持つことができる。
- 【桜の文化】 桜の文化や吉野小の桜について、先輩や地域の方々の思いや願いについて取材して自分の考えをつくり、地域に多様な方法で発信したり、友達や地域の方々と協働で桜を通して町づくりについて考え実践したりすることを通して、地域に誇りを持ち、地域の今やこれからのことを考え、貢献したいという思いを持つことができる。
- 【桜の未来】 桜の未来や吉野小の桜について、先輩や地域の方々の思いや願いについて取材して自分の考えをつくり、地域に多様な方法で発信したり、友達や地域の方々と協働で桜を通して町づくりについて考え実践したりすることを通して、地域に誇りを持ち、地域の今やこれからのことを考え、貢献したいという思いを持つことができる。

【評価】

- 【桜の歴史】 桜の歴史や吉野小の桜について、先輩や地域の方々の思いや願いについて取材して自分の考えをつくり、地域に多様な方法で発信したり、友達や地域の方々と協働で桜を通して町づくりについて考え実践したりすることを通して、地域に誇りを持ち、地域の今やこれからのことを考え、貢献したいという思いを持つことができる。
- 【桜の文化】 桜の文化や吉野小の桜について、先輩や地域の方々の思いや願いについて取材して自分の考えをつくり、地域に多様な方法で発信したり、友達や地域の方々と協働で桜を通して町づくりについて考え実践したりすることを通して、地域に誇りを持ち、地域の今やこれからのことを考え、貢献したいという思いを持つことができる。
- 【桜の未来】 桜の未来や吉野小の桜について、先輩や地域の方々の思いや願いについて取材して自分の考えをつくり、地域に多様な方法で発信したり、友達や地域の方々と協働で桜を通して町づくりについて考え実践したりすることを通して、地域に誇りを持ち、地域の今やこれからのことを考え、貢献したいという思いを持つことができる。

【学習活動】

- 【桜の歴史】 桜の歴史や吉野小の桜について、先輩や地域の方々の思いや願いについて取材して自分の考えをつくり、地域に多様な方法で発信したり、友達や地域の方々と協働で桜を通して町づくりについて考え実践したりすることを通して、地域に誇りを持ち、地域の今やこれからのことを考え、貢献したいという思いを持つことができる。
- 【桜の文化】 桜の文化や吉野小の桜について、先輩や地域の方々の思いや願いについて取材して自分の考えをつくり、地域に多様な方法で発信したり、友達や地域の方々と協働で桜を通して町づくりについて考え実践したりすることを通して、地域に誇りを持ち、地域の今やこれからのことを考え、貢献したいという思いを持つことができる。
- 【桜の未来】 桜の未来や吉野小の桜について、先輩や地域の方々の思いや願いについて取材して自分の考えをつくり、地域に多様な方法で発信したり、友達や地域の方々と協働で桜を通して町づくりについて考え実践したりすることを通して、地域に誇りを持ち、地域の今やこれからのことを考え、貢献したいという思いを持つことができる。

【評価】

- 【桜の歴史】 桜の歴史や吉野小の桜について、先輩や地域の方々の思いや願いについて取材して自分の考えをつくり、地域に多様な方法で発信したり、友達や地域の方々と協働で桜を通して町づくりについて考え実践したりすることを通して、地域に誇りを持ち、地域の今やこれからのことを考え、貢献したいという思いを持つことができる。
- 【桜の文化】 桜の文化や吉野小の桜について、先輩や地域の方々の思いや願いについて取材して自分の考えをつくり、地域に多様な方法で発信したり、友達や地域の方々と協働で桜を通して町づくりについて考え実践したりすることを通して、地域に誇りを持ち、地域の今やこれからのことを考え、貢献したいという思いを持つことができる。
- 【桜の未来】 桜の未来や吉野小の桜について、先輩や地域の方々の思いや願いについて取材して自分の考えをつくり、地域に多様な方法で発信したり、友達や地域の方々と協働で桜を通して町づくりについて考え実践したりすることを通して、地域に誇りを持ち、地域の今やこれからのことを考え、貢献したいという思いを持つことができる。



## ESDストーリーマップ(単元計画)

年 思いをつなげ！！



他教科・領域等とのつながり

## 方法面

「吉野小 桜プロジェクト」5年

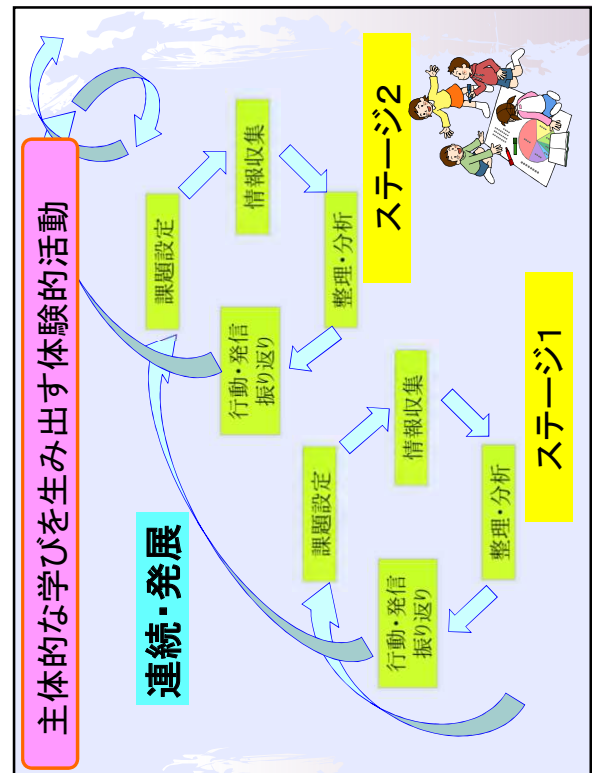
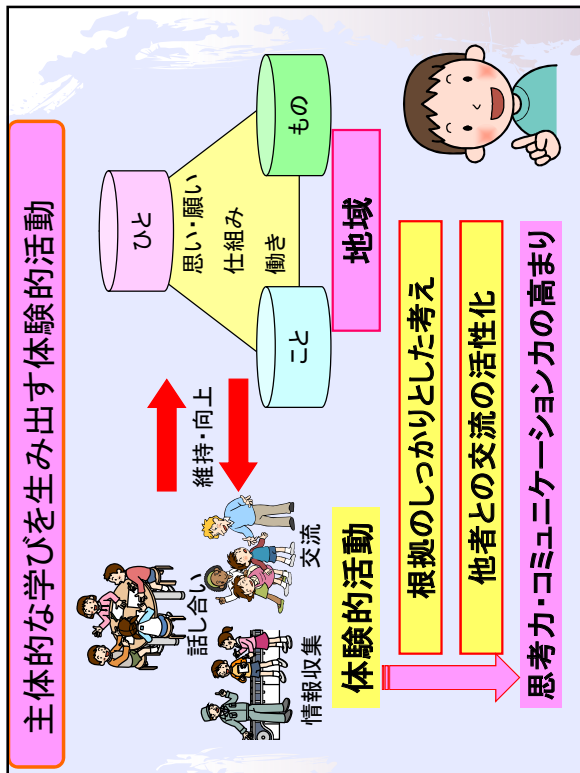
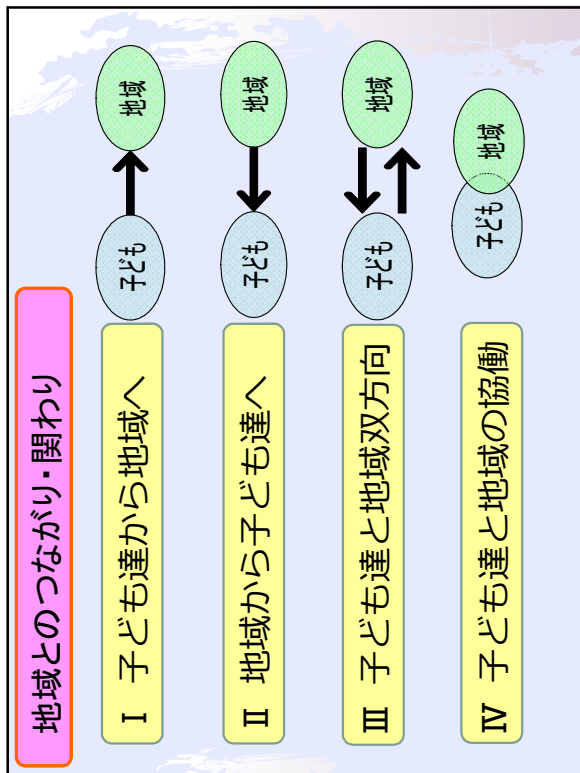
《国語》  
「筆者の考えをまとめて  
伝え合おう」【関連：B-I】  
・文章の構成を考えなが  
ら要旨をとらえる。

『国語』「伝えよう、委員会活動」  
【関連・B-I】  
・必要な情報を整理し、分かりやすい構成を考えて、活動報告のリーフレットを作る。

【国語】  
「グループで話し合おう」

・分かりやすく記事を書き、読み出しや割り付けを考へて作る。





**桜プロジェクト(課題設定)**  
**吉野のまちにとって桜とは？**

先輩・地域の思い  
「桜のある美しいまち」

老木化による桜の減少

GTから、吉野の桜についての話を聴く

プロジェクトについて地域の方々と意見を交流する

【校章の意味についての話】

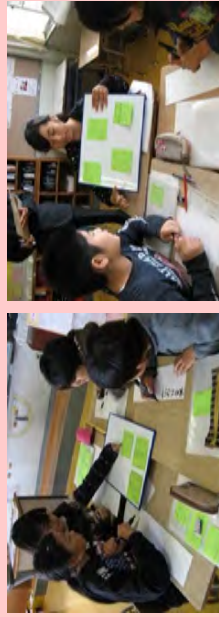
【地域の方々との意見交流会】

## 桜プロジェクト(調査・情報収集)



校区内の桜調査活動  
どこに、何本あるか  
調べて「桜マップ」の  
作成

桜を守り、育てるためにできることの整理分析活動



## 桜プロジェクト

整理・分析

収集した情報を取捨選択したり、考えの根拠を明らかにしながら、思考ツールを用いて話し合い、考えを再構成する。



第5学年「思いをつなげ！ 吉野小 桜プロジェクト」

## 桜プロジェクト

整理・分析

収集した情報を取捨選択したり、考えの根拠を明らかにしながら、思考ツールを用いて話し合い、考えを再構成する。

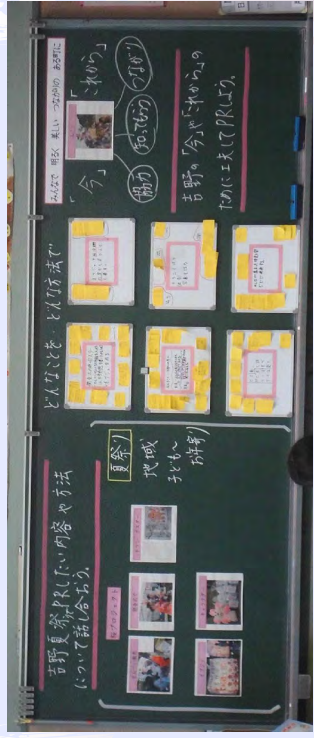


第5学年「思いをつなげ！ 吉野小 桜プロジェクト」

## 桜プロジェクト

整理・分析

収集した情報を取捨選択したり、考えの根拠を明らかにしながら、思考ツールを用いて話し合い、考えを再構成する。



第5学年「思いをつなげ！ 吉野小 桜プロジェクト」



## 桜プロジェクト(発信・行動)

〇地域の方々に、桜を通じたまちづくりの呼びかけ

地域の祭りでの発信

校内へ桜の植樹

ユネスコスクールフェスティバルでの発信

美しくつながりのある 吉野のまちづくり

吉野小  
桜プロジェクト  
桜で満開の美しい町に！

オブジェ  
吉野小の宝

ボランティア清掃  
ポスターコンテスト

絆プロジェクト  
(吉野の地域)

子どもたちの植樹  
バザー  
募金活動  
学習会

【連携】

## 地域とのつながり・関わり

### IV子ども達と地域の協働

吉野小と地域の絆プロジェクト

子ども達と地域の協働

吉野小と地域の絆プロジェクト

子ども達と地域の協働

吉野小と地域の絆プロジェクト

子ども達と地域の協働

吉野小と地域の絆プロジェクト

子ども達と地域の協働

同じ目標：吉野小・吉野地域へのさくら植樹

## 桜プロジェクト

(地域とともに まちづくり)

学校の活動←地域が連携  
地域連協・保護者による  
絆プロジェクトの設立  
※校区にも桜を植えたい  
(美しいまちへ)

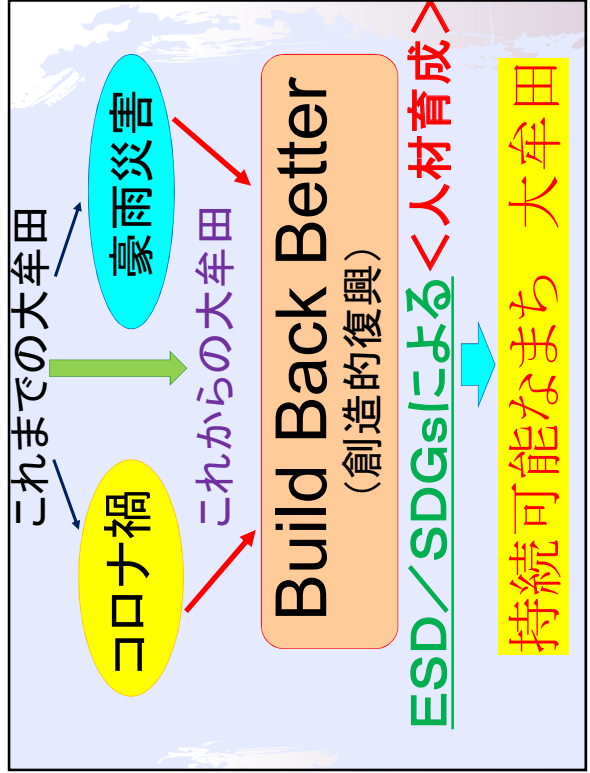
市の都市計画・公園課へ依頼  
校区の公園に桜の植樹

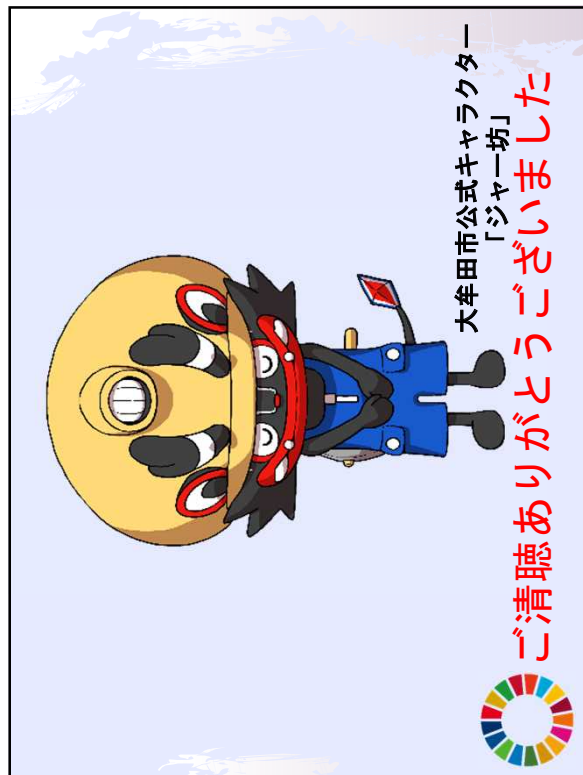
[illegible]

**To be continued !**

To be continued !







## ユネスコスクール近畿地方大会を終えて

近畿E S Dコンソーシアムでは、例年、12月に近畿圏内にあるユネスコスクールの発表会（子どもフォーラム）、および実践交流会・研修会を実施してきました。本年度は、文部科学省の「ユネスコ未来共創プラットフォームの発展に資するユネスコスクールネットワーク活性化事業」として、また日本E S D学会近畿地方大会実行委員会との共催という形で、3日間に拡大して実施しました。全て、オンラインで実施しましたが、対面での実施と遜色ない成果を得ることができました。

3日間とも、午後のプログラムでは、E S Dに関する講演会が開催されるとともに、実践交流会・ESD研究会では24の発表があり、質・量ともに充実した学びの時となりました。

また、午前中のプログラムとして、3日間に渡ってE S D子ども会議が行われ、S D G sの達成を目指して、「近畿ユネスコスクール子ども宣言」を作成しました。本学のユネスコクラブの学生がファシリテーターになって、事前に作文を募集して、11校から寄せられた337の作文を検討するとともに、数校の小学校・中学校・高等学校から参加した生徒・児童と議論を重ねて子ども宣言を作成しました。この子ども宣言は、翌月に開催されたユネスコスクール全国大会で報告されました。

3日目の大会は、文科省 国際統括官付 国際戦略企画官の石田善顕様を指導助言者として迎えて実施しました。ユネスコスクール子どもフォーラムは、例年ですと子どもたちに本学にバスで来てもらって実施していたのですが、今年はユーチューブとズームを駆使して、それぞれの学校の取り組みが報告され、充実した交流ができました。特に、近畿6府県から小学校・中学校・高等学校の参加があり、まさに近畿大会の名に相応しいものとなりました。

こうしてユネスコスクール近畿地方大会を成功裏に終えることができたのも、関係者の皆さまのご協力と裏方で尽力して下さった実行委員の方々のお陰です。この大会にご参加下さった全ての皆さまに、改めて感謝申し上げます。

国立大学法人 奈良教育大学 副学長  
近畿E S Dコンソーシアム運営委員長  
高橋豪仁

## 近畿 E S D コンソーシアム運営委員会

|      |       |      |       |      |
|------|-------|------|-------|------|
| 加藤久雄 | 高橋豪仁  | 中澤静男 | 大西浩明  | 太田 満 |
| 河本大地 | 阪本さゆり | 杉山拓次 | 小尾二郎  | 吉田 寛 |
| 鎌田大雅 | 石川元美  | 谷垣 徹 | 狗飼菜々子 |      |

## 外部評価委員

柴尾智子      及川幸彦

令和 2 年度文部科学省委託事業「ユネスコ未来共創プラットフォーム事業」

### ユネスコスクール オンライン近畿地方大会報告書

発行日      2021年2月

発 行      近畿ESDコンソーシアム 国立大学法人 奈良教育大学  
〒630-8528 奈良市高畑町 奈良教育大学 教育研究支援課

E-mail [k-soumu@nara-edu.ac.jp](mailto:k-soumu@nara-edu.ac.jp)

Tel 0742-27-9367

Fax 0742-27-9147